山形県埋蔵文化財調査報告書第115集

桜林興野遺跡
発掘調査報告書

1987

山　形　県
山形県教育委員会

桜林興野遺跡
（さくらばやしこうや）

発掘調査報告書

昭和62年3月

山　形　県
山形県教育委員会

序

本報告書は、山形県教育委員会が、山形県農林水産部の委託を受けて昭和61年度に実施した、県営ほ場整備事業中平田東地区にかかる「桜林興野遺跡」の緊急発掘調査の結果をまとめたものです。

桜林興野遺跡は、出羽国府跡と考えられる、国指定史跡「城輪柵跡」を中心に数多く点在する遺跡のひとつです。さらには、出羽国飽海郡の郡衙所在地と推定される平田町郡山にも近接する遺跡です。

今回の調査では、掘立柱建物跡、大量の土器が棄てられた土壙、古代人が使用した硯など、往時を知る上での貴重な資料が得られました。

これらの文化遺産は、私たちの祖先の歴史を語る資料としてかけがえのない財産です。千年もの長い間に亘って土に埋もれてきたこの遺産を保護し、未来に継承してゆくことは、現代に生きる私たちの大切な責務といえましょう。

近年、県民福祉や経済の向上、地域環境の整備を目的とした諸開発事業と埋蔵文化財とのかかわりは増加の傾向にあります。山形県教育委員会では「心広くたくましい県民の育成」という立場から、これらの間の調整をはかり、今後も埋蔵文化財の保護と活用のため努力を続けていく所存です。

終わりに、本調査に御協力いただいた山形県農林水産部、庄内支庁経済部最上川右岸土地改良事務所、庄内教育事務所、平田町、平田町教育委員会、大町溝土地改良区、平田町桜林興野地区、地元の方々並びに関係各位に感謝申し上げますとともに、本書が埋蔵文化財に対する理解を深め、その保護・普及の一助となれば幸いです。

昭和62年３月

山形県教育委員会
教育長　小野　孝

例　言

1　本報告書は、山形県農林水産部の委託を受け、山形県教育委員会が昭和61年度に実施した県営ほ場整備事業(中平田東地区)にかかる桜林興野遺跡の発掘調査報告書である。

2　遺跡所在地・調査体制は下記のとおりである。

遺跡名　桜林興野遺跡(AHTSK)　遺跡番号2328(山形県遺跡地図)

所在地　山形県飽海郡平田町大字桜林興野字東田他

調査期間　昭和61年7月1日～昭和62年3月31日

現地調査　昭和61年7月1日～10月3日(延調査日数61日)

調査主体　山形県教育委員会

調査担当　山形県埋蔵文化財緊急調査団

主任調査員　佐々木洋治(山形県教育庁文化課　埋蔵文化財主査)

佐藤　庄一(　同　上　埋蔵文化財係長)

野尻　侃(　同　上　主任技師)

現場主任　長橋　至(　同　上　技師)

事務局　事務局長　後藤　茂彌(　同　上　文化課長)

事務局長補佐　芝野　健三(　同　上　文化課長補佐)

事務局員　長谷部恵子　中嶌寛　氏家修一　(同上主事)

3　調査にあたっては、山形県農林水産部・山形県庄内支庁経済部最上川右岸土地改良事務所・庄内教育事務所・平田町・平田町教育委員会・大町溝土地改良区・平田町桜林興野地区の協力を得た。記して感謝申し上げる。

4　本書の作成は長橋　至が担当し、編集・執筆した。全体については佐々木洋治が総括している。挿図・図版・表の作成補助には、佐藤めぐみ、小沼末子、篠原光子、鈴木貴史、上田祥子、高崎くに子、安達みゆき、斉藤智佳子、大友美智があたった。

5　出土遺物については山形県教育委員会が一括保管している。

凡　例

1　本書で使用した記号は下記のとおりである。

SK：土壙　SD：溝跡　SE：井戸跡　SB：掘立柱建物跡　SG：河川　SX：性格不明遺構　EP：柱穴　RP：登録遺物のうち土器・土製品　RW：木製品

2　検出された遺構は検出順に継続番号を付した。なお、調査区はA・B・C・Dの4地区があるが、C→D→B→Aの順で調査を進めた関係上、この順序で遺構番号を付している。遺物番号(登録遺物)についても同様である。

3　挿図についての基準は次のとおりである。

a　方位は磁北を示す。なお、グリッドY軸は東に5°傾く。

b　遺構各図にはスケールを示した。

c　遺物実測図は⅓を基本としている。

d　本書中で使用の色調については、昭和45年版、『新版標準土色帖』農林省監修に拠った。

4　図版についての基準は次のとおりである。

a　遺物図版は本文・挿図・表中の遺物番号と一致する。

b　遺物は¼を基本としている。

c　挿図で断面のみ登載した遺物はすべて表・裏の写真を入れた。

目　次

Ⅰ　調査の経過

1　調査に至るまでの経過 …… 1

2　調査の方法と経過 …… 1

Ⅱ　遺跡の立地と環境

1　地理的環境 …… 4

2　歴史的環境 …… 4

Ⅲ　遺跡の概観

1　遺跡の層序 …… 5

2　遺構と遺物の分布 …… 5

Ⅳ　遺構と遺物

1　A地区の遺構と遺物 …… 6

a　土　壙 …… 6

b　溝　跡 …… 10

c　井戸跡 …… 10

d　柱　穴 …… 10

2　B地区の遺構と遺物 …… 14

a　掘立柱建物跡 …… 14

b　土　壙 …… 14

c　溝　跡 …… 20

3　C地区の遺構と遺物 …… 24

a　土　壙 …… 24

b　溝　跡 …… 24

4　D地区の遺構と遺物 …… 29

a　掘立柱建物跡 …… 29

b　土　壙 …… 29

c　溝　跡 …… 30

Ⅴ　ま　と　め

1　遺物について …… 46

2　遺構における土器組成について …… 49

3　遺物の変遷と年代 …… 50

4　総　括 …… 52

挿図目次

第１図　遺跡位置図・周辺の遺跡 …… 2
第２図　遺跡全体図 …… 3
第３図　基本層序 …… 5
第４図　Ａ地区全体図 …… 7
第５図　Ａ地区土壙実測図 …… 9
第６図　SE84井戸跡・SK100土壙実測図 …… 11
第７図　Ａ地区出土遺物実測図（１） …… 12
第８図　Ａ地区出土遺物実測図（２） …… 13
第９図　Ｂ地区全体図 …… 15
第10図　SB60掘立柱建物跡実測図 …… 17
第11図　Ｂ地区土壙実測図 …… 21
第12図　Ｂ地区出土遺物実測図（１） …… 22
第13図　Ｂ地区出土遺物実測図（２） …… 23
第14図　SK７土壙実測図 …… 24
第15図　Ｃ地区全体図 …… 25
第16図　SD３・SD１・２溝跡実測図 …… 26
第17図　Ｃ地区出土遺物実測図（１） …… 27
第18図　Ｃ地区出土遺物実測図（２） …… 28
第19図　Ｄ地区全体図 …… 31
第20図　SB40掘立柱建物跡実測図 …… 33
第21図　SB41掘立柱建物跡実測図 …… 34
第22図　Ｄ地区土壙実測図（１） …… 35
第23図　Ｄ地区土壙実測図（２） …… 36
第24図　Ｄ地区土壙実測図（３） …… 37
第25図　Ｄ地区溝跡断面実測図 …… 30
第26図　Ｄ地区出土遺物実測図（１） …… 38
第27図　Ｄ地区出土遺物実測図（２） …… 39
第28図　Ｄ地区出土遺物実測図（３） …… 40
第29図　Ｄ地区出土遺物実測図（４） …… 41
第30図　Ｄ地区出土遺物実測図（５） …… 42

第31図　D地区出土遺物実測図(6) …… 43
第32図　D地区出土遺物実測図(7) …… 44
第33図　D地区出土遺物実測図(8) …… 45
第34図　土器分類図(1) …… 53
第35図　土器分類図(2) …… 54
第36図　土器分類図(3) …… 55
第37図　土器分類図(4) …… 56
第38図　土器分類図(5) …… 57

図版目次

図版1　遺跡遠景・試掘風景・A地区プラン・A地区SK81～83
図版2　A地区SE84・SD85・SD86・SD87・SK88
図版3　A地区SK89・SK90・SK91・SK92・SK93・SE94
図版4　A地区SK95・SK96・SK97・SK98・SK99
図版5　B地区完掘状況・SK53・SK54・SK55・SK56
図版6　B地区SK57・SK58・SK62・SK63
図版7　B地区SK64・SK65・SK66・SK67、68
図版8　B地区SK70・SB60EP1、EP2、EP3、EP4、EP5、EP6
図版9　B地区SB60EP7～EP13・SD61
図版10　C地区プラン検出状況・SD1、2・SK7・SD3・C地区完掘状況
図版11　D地区調査区全景
図版12　D地区SB40・41全景・SB40EP1～EP6
図版13　D地区SB40EP7～EP9・SB41EP1～EP6
図版14　D地区SK8・SK9・SK10・SK11・SK12・SK13・SK15・SK16
図版15　D地区SK17・SK18・SK19・SK20・SK21・SK22・SK23・SK24
図版16　D地区SK26・SK27・SK29・SK30
図版17　D地区SK31、32、36土層断面・SK31・SK32・SK33・SK34
図版18　D地区SK38・SK39・SK42・SK43・SD36・SD14・SD36・SD37
図版19　A地区出土遺物
図版20　B地区出土遺物
図版21　C地区出土遺物(1)

図版22　C地区出土遺物(2)
図版23　D地区出土遺物(1)
図版24　D地区出土遺物(2)
図版25　D地区出土遺物(3)
図版26　D地区出土遺物(4)
図版27　D地区出土遺物(5)
図版28　D地区出土遺物(6)

表目次

表－1　包含層出土遺物総数他 …… 6
表－2　主要遺構内土器組成表 …… 51
表－3　A地区出土遺物観察表 …… 58
表－4　B地区出土遺物観察表 …… 58
表－5　C地区出土遺物観察表 …… 59
表－6　D地区出土遺物観察表(1) …… 60
表－7　D地区出土遺物観察表(2) …… 61
表－8　D地区出土遺物観察表(3) …… 62
表－9　D地区出土遺物観察表(4) …… 63
表－10　A地区遺物集計表 …… 64
表－11　B地区遺物集計表(1) …… 65
表－12　B地区遺物集計表(2) …… 66
表－13　C地区遺物集計表 …… 67
表－14　D地区遺物集計表(1) …… 67
表－15　D地区遺物集計表(2) …… 68
表－16　D地区遺物集計表(3) …… 69

Ⅰ　調査の経緯

1　調査に至るまでの経過

本遺跡の発見は、昭和27年に現、佐藤明吉氏(平田町桜林興野)所有の水田を盤下げした折に、柱列および須恵器他の古代の土器が出土したことによる。これらは近隣の郷土史研究家の知るところとなり、柱根等の注記や平板実測による図面が残されることとなった。その後、昭和53年に「山形県遺跡地図」(山形県教育委員会)が作成され、正式に遺跡として登載された。

ここに、昭和61年度、県営ほ場整備事業が実施されることとなった。このため、県教育委員会では県農林水産部と協議を重ね、施工前に緊急発掘調査をおこなうことで合意を得、昭和61年7月1日から同年10月3日まで調査を実施した。なお、本調査に先立ち、昭和60年秋に遺跡全容を探る分布調査(試掘)および、先行して施工される農道部分についての分布調査(小規模な発掘調査)を実施した(「山形県埋蔵文化財調査報告書第96集　分布調査報告書(13))。

2　調査の方法と経過

遺跡は東西350m、南北400mに及ぶ広大な範囲をもつ。グリッドは5mを最小単位として設定した。Y軸はN－5°－Eを測る。グリッドに合わせ、25のトレンチ、50のテストピットを入れ遺跡の状況を探った。その結果、A～Dの4地区で遺構・遺物が集中し、さらに地形的にも微高地となっていることが明らかとなったため、この4地区を精査区とした。

調査は、ほ場整備事業の工区・工期の関係からC→D→B→A地区の順で進めた。したがって、遺構番号・遺物番号も一連としたためこの順序で記録した。調査工程の概略は以下のとおりである。

昭和61年7月1日機材搬入。同日鍬入式。7月2日～22日グリッド設定・トレンチ、テストピットの調査。7月23日～29日A～Dの各精査区を重機により表土除去を行なう。

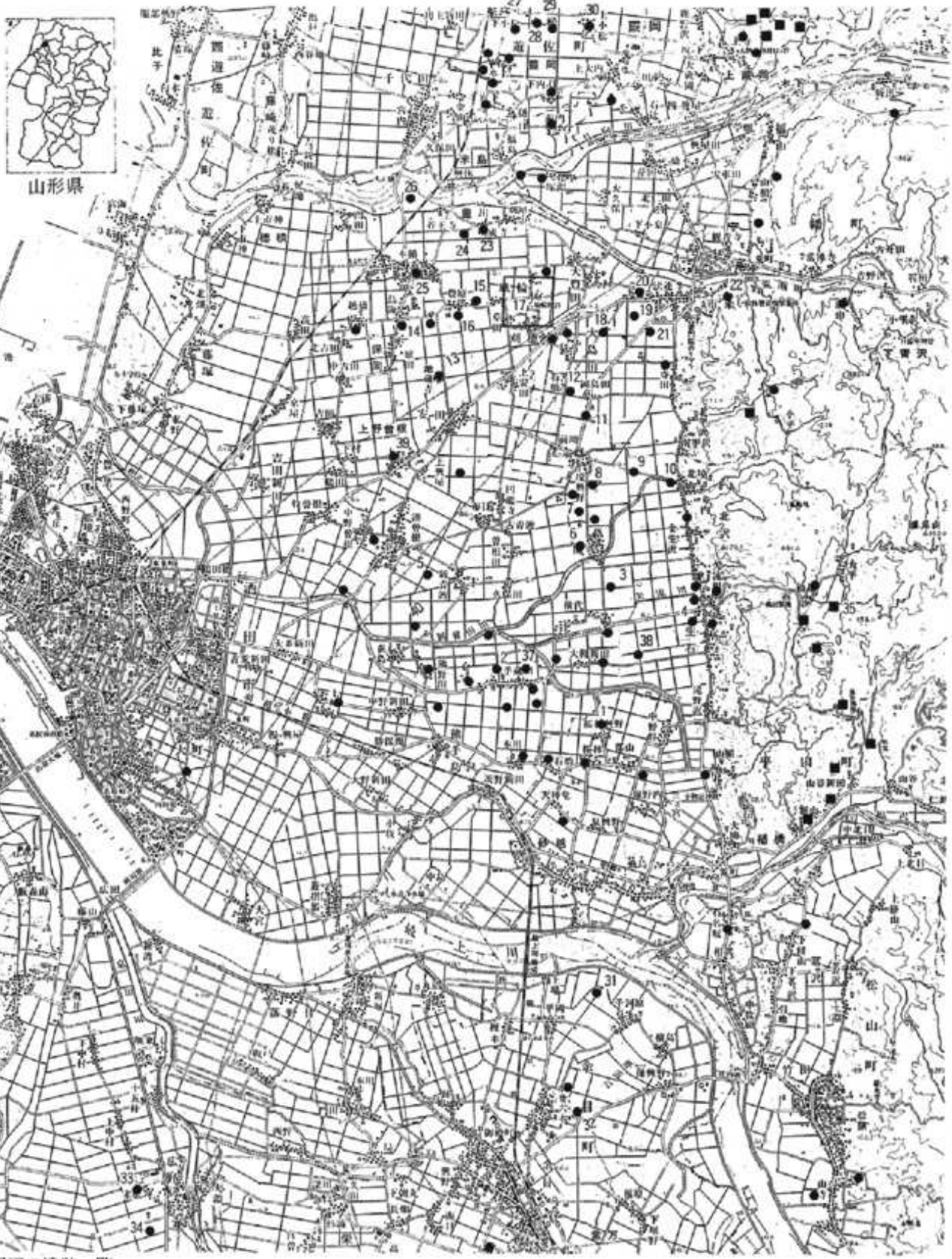
C地区　7月30日～8月28日　面整理後、検出遺構(SD1・2・3、SK7)の精査を行なう。8月20日からはD地区と並行して調査を進める。

D地区　8月20日～9月17日　本遺跡の中心部と考えられる区域である。土壙、溝跡から一括出土遺物が比較的多く精査面積に比し長い期間を要した。

B地区　9月11日～9月26日

A地区　9月24日～10月6日　現在の桜林興野集落と直接関連する遺構が主に検出された地区。明らかに近・現代の遺構と考えられるものはプラン検出でとどめた。

10月6日、機材撤収。



周辺の遺跡一覧

1	桜林興野遺跡	8	境興野遺跡	15	豊原遺跡	22	八森遺跡	29	塚田遺跡	35	順瀬山窯跡群
2	手蔵田２遺跡	9	上ノ田遺跡	16	豊原Ｂ遺跡	23	明成寺遺跡	30	佐渡遺跡	36	泉谷池窯跡群
3	高阿弥田遺跡	10	北境遺跡	17	史跡・城輪柵跡	24	新田目Ｂ遺跡	31	千河原遺跡	37	手蔵田12遺跡
4	生石２遺跡	11	依田遺跡	18	後田遺跡	25	新田目遺跡	32	上台遺跡	38	生石４遺跡
5	新青渡道跡	12	沼田遺跡	19	史跡・堂の前遺跡	26	若王子遺跡	33	大目塚遺跡	39	上曽根遺跡
6	関Ｂ遺跡	13	安田遺跡	20	茅針谷地遺跡	27	前田遺跡	34	土橋遺跡	40	南興野遺跡
7	北田遺跡	14	庭田遺跡	21	樋掛遺跡	28	地正面遺跡	Noは既調査遺跡		S＝1：50,000	

第１図　遺跡位置図・周辺の遺跡

桜林興野集落

第2図　遺跡全体図

II　遺跡の立地と環境

1　地理的環境

本遺跡は、羽越線砂越(さごし)駅(山形県飽海郡平田町砂越)から北方約2,500mに位置する。遺跡の地目は水田、一部宅地となっている。遺跡南方3,000mには最上川が西流し、東方1,800mには出羽丘陵が迫まる。

最上川に分かたれた庄内平野の北半は飽海地方と呼ばれ、この地域の地形は東側の出羽丘陵地域と西側の北部庄内平野地域に大別される。平野部はさらに(1)庄内北部河間低地(2)酒田北部三角洲(3)庄内北部砂丘の3区域に細分される。本遺跡の立地する庄内北部河間低地には、自然堤防、後背湿地、狭義の河間低地の三者が含まれる。自然堤防は高度が低く不明瞭なものが多い。日向(にっこう)川、荒瀬川沿いにみられる他、酒田市安田、漆曽根、布目などに顕著にみられ、八幡町観音寺から放射状に分布する。後背湿地の明瞭なものは酒田市生石(おいし)の西側や上村付近にみられる。

本遺跡周辺については、部分的に自然堤防の微高地がみられ、そこを中心に遺跡が営まれているようである。精査区としたA～D地区以外では、大半の部分が湿地となっており古代においては谷地となっていたことが考えられる。

2　歴史的環境

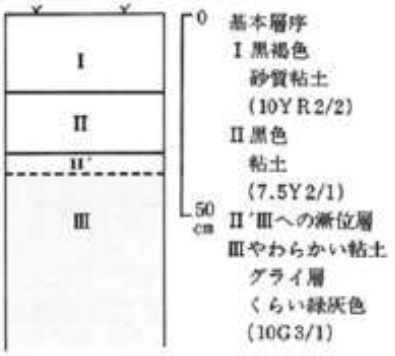
南を最上川、北を日向(にっこう)川によって区切られたこの平野部及び東北出羽丘陵には約60箇所ほどの古代遺跡が現在までに確認されている。その多くは律令体制下に置かれた村落と考えられるが、本遺跡の北北西6,000mには平安時代の出羽国府跡と擬定されている国指定史跡「城輪柵跡」がある。昭和6年の発見以後継続的に行われた発掘調査によりその様相が明らかにされてきている。城輪柵跡は遺構の重複関係、出土遺物の検討から3時期(9世紀前半～11世紀)に営まれたとされている。また、城輪柵跡東方3kmの段丘上には『三代実録』仁和三年条(887年)の「国府移転先高敞地」との関連が推測される八森(はちもり)遺跡、城輪柵東方1,500mには出羽国分寺とも考えられる堂の前遺跡がある。本遺跡の付近では、古代出羽国飽海郡衙の最有力擬定地とされる「郡山」の地名を有する集落が南東約500mにあり、さらには宝亀5年(774年)大和国高市郡飛鳥神社の勧請創社のいわれをもつ飛鳥神社、天平年間の勧請を伝える新山神社、大神神社などの存在も、古代の当地域を考古的分野からだけではないアプローチで解明してゆく上で有力な手掛りとなる。

最近の発掘調査の成果では、北東1,500mの生石(おいし)2遺跡で遠賀川系の弥生土器を含む大量の弥生土器が出土しており、また、北方2,500mの関B遺跡で古式土師器も採集されており、比較的早い時期から当該地域で人々の営みが行われていたことが明らかになりつつある。

III　遺跡の概観

1　遺跡の層序

遺跡は河間低地に立地し、地目は水田である。過去に人力あるいは一部機械を入れての基盤整備が行われているため、旧地形は不明であった。しかし、トレンチ、テストピットによる調査の結果、A～Dとした精査地区は土層の堆積状況等から削平を受けていること、A～D地区以外の大半は黒褐色粘土が60～100cm以上堆積し、古代においては谷地となっていたことが明らかになった。



第3図　基本層序

したがって、各地区は表土直下が遺構検出面となり、いわゆる遺物包含層はほとんど存在しない。また、黒褐色粘土中に含まれる遺物は流れ込みによるものと思われる。(なお、遺構外出土器については便宜上包含層扱いとした。)

D地区北壁(43—92グリッド)の基本層序を図示したが、概ね他の地区も類似する。I・II層は耕作土・盤土で部分的に漸位層(II')がみられ、以下グライ化したIII層となる。III層中でも上層には遺物が若干含まれる。一次的なものか、二次的なものか、今回は明らかにはできなかった。

2　遺構と遺物の分布

遺構・遺物は旧地形の微高地、A～D地区に集中する。A地区は現桜林興野集落に隣接する地区で、伝承ではここに旧村落が位置していたとされる。調査の結果、古代の遺構は希薄で、中心は近世以降の土壙、ピット、溝跡と考えられる。古代の遺物もこれら遺構から出土するが、混入だろう。B地区は本遺跡発見の端緒となった柱穴の検出された地点に近く、良好な遺構が検出された。ただし、機械による盤下げで、30cm上の削平が行われている。C地区は遺構、遺物は希薄だが、良好な古代の溝跡(SD3)、一括土器を含む土壙(SK7)が検出された。また、精査区内を旧河川(砂質、凝灰岩の5～10mm大の円礫を覆土とする)が走っており、自然堤防形成後の所産と考えられ興味深い。D地区は新設の農道をはさんでC地区と連なる精査区で、本遺跡で最も遺構・遺物の密度の濃い地区である。一括土器(投棄)を含む土壙、溝跡などが検出された。

以上、A～D地区及びその周辺が遺跡内における遺構・遺物の濃密な地点で、今回の調査では精査区として拡張した。しかし、対象地区が広大なため、上記地点以外でも、トレンチ・テストピットで遺構・遺物が検出された地点もあるが、やむを得ず存在の確認で終えざる得ない点もあった。が、概ね、本遺跡の中心部は調査されたと考えられる。

Ⅳ　遺構と遺物

1　A地区の遺構と遺物

A地区では古代まで遡ぼると考えられる遺構は検出されなかった。土壙16基、溝跡８基、井戸跡２基、柱穴約40基が確定されたが、土壙・井戸跡の大方は中世の所産、溝の土壙の一部は近世以降の所産と考えられる。

a　土　壙

登録・精査を行なった土壙は16基である。その他約20基の土壙が検出されたが、明らかに近・現代の所産と考えられる覆土のため検出面でのプラン確認にとどめた。

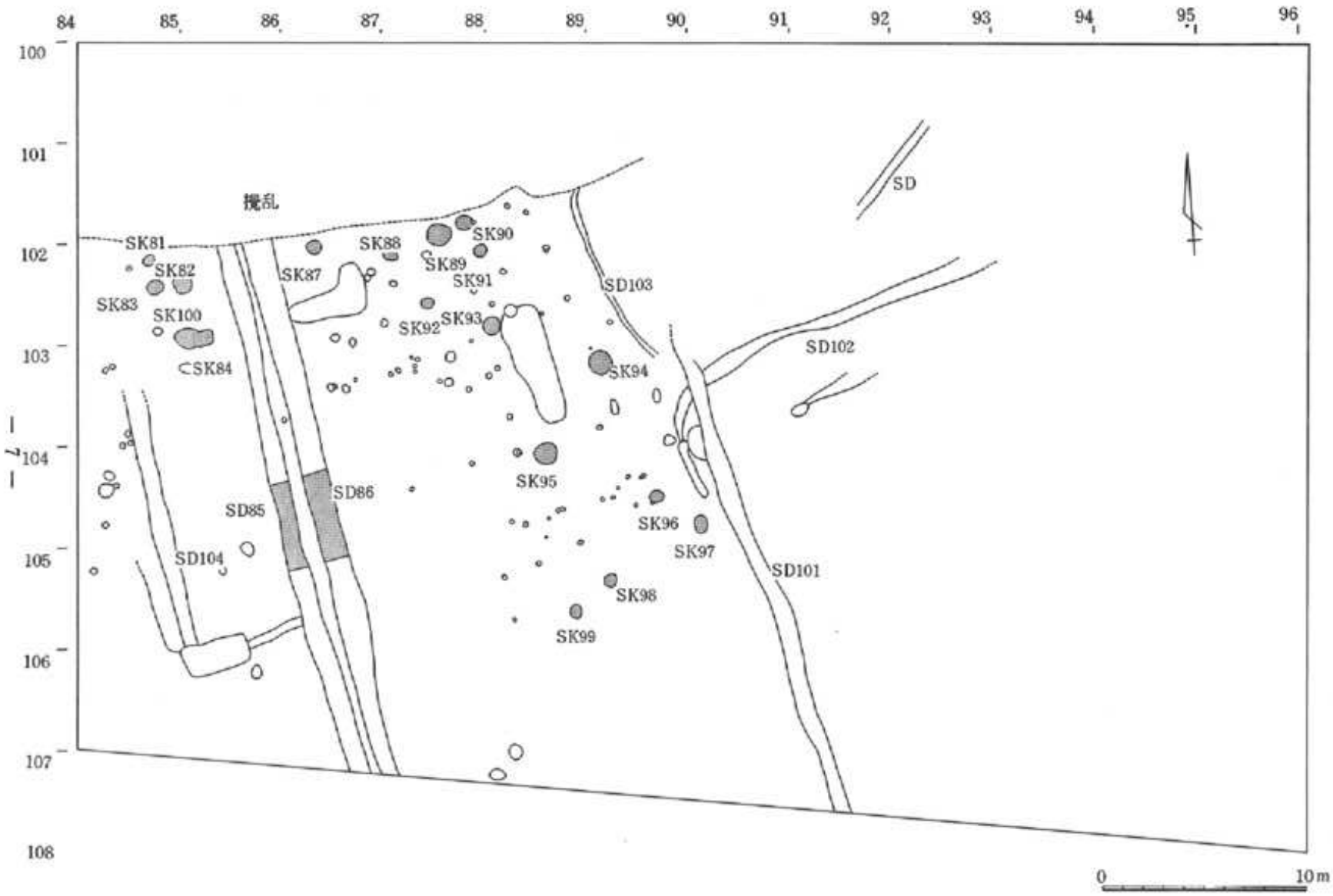
A地区の土壙はその形状、覆土等から４タイプに類別できる。すなわち、①検出面から底面まで比較的浅く覆土が黒色粘土を主体とするもの(SK81・82・88・92・93)。②検出面から概ね50cm以上の深さがあり、底面が平坦で壁が急に掘り込まれている。覆土には黒色の粘土を含む土壙が多い（SK83・87・90・91・96・98・99)。③大型（径１mを越える）で底面が平坦、壁が急に掘り込まれる(SK89・95)。④近世以降の所産と考えられる不整形あるいは小型のもの(SK100他、未調査の土壙)。以上である。これらの土壙はいずれも覆土に須恵器・あかやき土器の小片を含むが土壙に関連する遺物とは考えられず、まぎれ込みと考えた方が妥当である。上記４タイプのうち、①～③は庄内地方の発掘調査例では形状・覆土から中世（13世紀を中心として）の所産ととらえられる例が多い（長橋1985他)。なお、SE84と重複するSK100は黒色粘土の単一層で底面より20点の近世陶器が出土した。遺物は本報告で分類したⅤ群土器に限られる（２点須恵器が混入)。

表－１　包含層出土遺物総数

種別／地区	須　恵　器	あかやき土器	土　師　器	その他の遺物	遺物総数
A	75 (26.6%)	185 (65.6%)	10 (3.5%)	12 (4.3%)	282 (100%)
B	167 (18.1%)	723 (78.3%)	9 (1%)	24 (2.6%)	923 (100%)
C	133 (23.8%)	413 (73.9%)	8 (1.4%)	5 (0.9%)	559 (100%)
D	1,527 (21.4%)	5,440 (76.1%)	151 (2.1%)	28 (0.4%)	7,146 (100%)
計	1,902 (21.3%)	6,761 (75.9%)	178 (2%)	69 (0.8%)	8,910 (100%)

総数（遺構＋包含層）

種別	須　恵　器	あかやき土器	土　師　器	その他の遺物	遺物総数
合計数	2,438 (16.9%)	11,599 (80.4%)	280 (1.9%)	114 (0.8%)	14,431 (100%)


84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
100
101
102
103
104
105
106
107
108
撹乱
SK81
SK82
SK83
SK100
SK84
SK87
SK88
SK89
SK90
SK91
SK92
SK93
SK94
SK95
SK96
SK97
SK98
SK99
SD85
SD86
SD104
SD103
SD102
SD101
SD
0
10m

第４図　Ａ地区全体図

A地区土壙土層注記

SK81
1　黒褐色粘質微砂（2.5Y3/1）5㎜大の地山ブロック、2㎜大の炭化物を若干含む。

SK82
1　黒褐色粘質微砂（2.5Y3/1）均質。
2　黒色粘質土（2.5Y2/1）1㎝大の地山ブロックを少量含む。

SK83
1　黒褐色微砂（2.5Y3/2）5㎜～1㎝大の地山ブロックを少量含む。全体にしまりあり。
2　黒褐色粘質土（2.5Y3/2）1に比し粘性が強い。土質は似る。
3　黒褐色粘質土（2.5Y3/1）1～2㎝大の地山ブロックを大量に含む。
4　黒色粘質土（2.5Y2/1）青灰色砂の小ブロックを少量含む。

SE84
1　黒褐色微砂（2.5Y3/2）1㎝大の地山ブロックを少量含む。
2　黒褐色粘質土（2.5Y3/2）1に比し粘性が強い。

SK87
1　黒褐色微砂（2.5Y3/2）均質でしまっている。
2　黒色粘質土（5Y2/1）1～3㎝大の地山ブロック、しま状に炭化物(繊維状)を含む。

SK88
1　黒色粘質土（2.5Y2/1）1～5㎝大の地山(砂)ブロックを斑状に大量に含む。

SK89
1　黒褐色微砂（2.5Y3/2）1～3㎝大の地山ブロックをまばらに含む。全体にしまっている。
2　黒褐色微砂（2.5Y3/1）10㎝大の地山ブロックを大量に含み、1㎜大の炭化物も少量含む。
3　黒色粘質土（2.5Y2/1）上層に青灰色砂ブロック、その直下に炭化物のうすい層が入る。
4　黒褐色粘質土（7.5Y2/1）しま状に炭化物(繊維状)を含む。粘性強。
5　黒褐色粘質土（7.5Y2/1）4に似る。青灰色砂のブロックを含む点で異なる。

SK90
1　黒褐色微砂（10YR2/2）1㎝大の地山ブロックを大量に含む。
2　黒色粘質土（10YR1.7/1）均質、粘性強。5㎜～1㎝大の地山ブロックをまばらに含む。

SK91
1　黒色粘質微砂（10YR1.7/1）暗緑灰色砂の1㎝大ブロックを若干含む。
2　暗緑灰色砂（5G3/1）地山の砂土がブロックで混入。
3　黒色粘質土（N1.5/）均質だが、部分的にレンズ状に炭化物(繊維状)が1～2㎝の厚さで堆積。

SK92
1　黒褐色粘質微砂（2.5Y3/1）1～5㎝大の地山ブロックを斑状に大量に含む。

SK93
1　黒褐色粘質微砂（2.5Y3/2）1㎝大の地山ブロックを少量含む。
2　黒色粘質土（10YR1.7/1）均質。5㎜～1㎝大の地山ブロックを若干含む。

SE94
1　黒褐色粘質微砂（2.5Y3/1）1㎝大の地山ブロック、1㎜大の炭化物を少量含む。しまりあり。
2　黒色粘質土（2.5Y2/1）1㎝大の暗緑色ブロックを含む。全体に均質でしまっている。
3　黒色粘質土（2.5Y2/1）2に比し、暗緑色ブロックの量が多い。
4　黒色粘質土（5Y2/1）1～2㎝大の暗緑色砂ブロックを比較的多量に含む。
5　黒色粘質土（5Y2/1）4に比し、大量の暗緑色砂ブロックを斑状に含む。
6　黒色粘質土（7.5Y2/1）粘性強。4程度に暗緑色砂ブロックを含む。

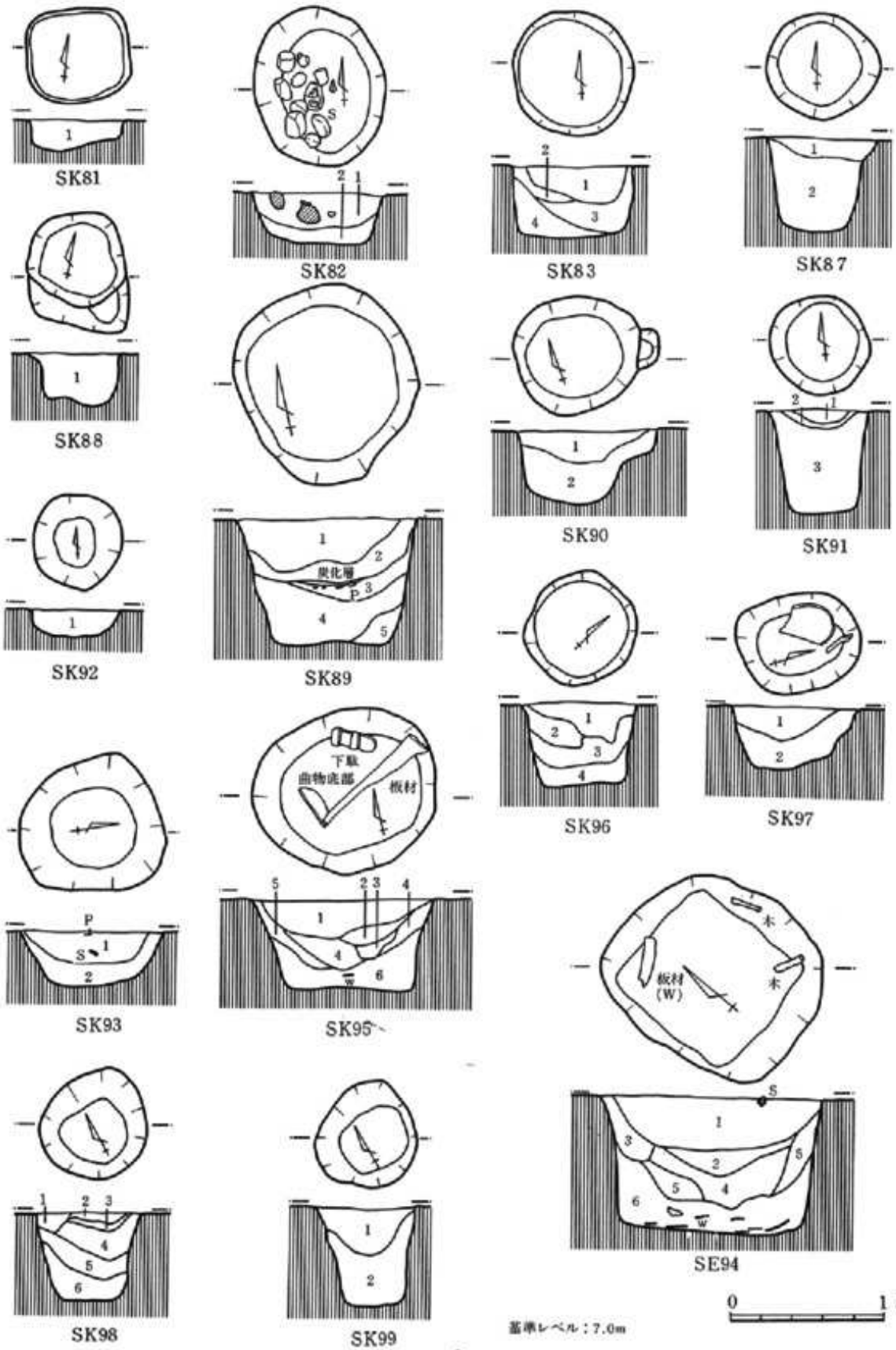
SK95
1　黒褐色粘質微砂（10YR2/2）5㎜～1㎝大の地山ブロックを少量含む。
2　黒褐色粘質微砂（10YR2/2）1に比し、地山ブロックの量が少ない。
3　オリーブ黒色粘質土（7.5Y3/2）1～3㎝大の地山ブロックを大量に含む。
4　黒色粘質土（5Y2/1）暗緑色極小ブロックを少量含むが、全体に均質。
5　オリーブ灰色砂（10Y5/2）壁の崩壊土。
6　黒褐色粘質土（2.5Y3/1）粘性強。地山小ブロックを含む。

SK96
1　黒色粘質微砂（5Y2/1）5㎜～1㎝大の地山ブロック、5㎜大の炭化物をまばらに含む。
2　黒色粘質微砂（5Y2/1）5～10㎝大の暗緑色ブロックを多く含む。
3　オリーブ灰色砂（10Y5/2）2の土質と地山大ブロックが混じり合う。
4　黒色粘質土（N2/）粘性強。3の土質を少量含む。

SK97
1　黒褐色粘質微砂（2.5Y3/2）1～5㎜大の地山ブロックをまばらに含む。
2　黒褐色粘質土（2.5Y3/1）均質で粘性強。

SK98
1　撹乱層。
2　黒色粘質微砂（10YR2/1）1㎜大の炭化物を少量含む。
3　暗褐色砂（10YR3/4）地山の酸化した土質と考えられる。均質。
4　黒色粘質土（7.5Y2/1）1㎝大の地山ブロックを若干含む。全体に均質。
5　黒色粘質土（7.5Y2/1）5㎝大の暗緑色砂を多量に含む。
6　黒色粘土（N2/）均質。粘性強。

SK99
1　黒色粘質土（5Y2/1）1㎜大の炭化物、1㎝大の地山ブロックを若干含む。
2　黒色粘質土（N2/）粘性強。均質。少量の暗緑色小ブロックを含む。



第５図　Ａ地区土壙実測図

b 溝 跡

古代まで遡る溝跡はない。覆土は黒色土を主体としており、他地区でみられる古代溝跡とは明らかに異なる様相を呈している。恐らく近世以降の水田にかかわる堰跡（SD85・86)、現在の桜林興野の集落にかかわる古い時期の集落に付属する溝跡(SD101～103)と考えられる。調査はSD85・86の一部を精査・記録したにとどめ、他についてはプラン検出で終了した。

c 井戸跡

A地区からは2基検出された。

SE84 85—102グリッドに位置する。遺構検出面では重複するSK100の黒色粘土の覆土により明確なプランは検出されず、SK100の精査中に井戸跡の存在が明らかとなった。井戸はこのSK100によって西側と上半部が破壊されている。

掘り方の平面形はほぼ方形を呈し、プラン検出面推定で1辺110～120cmを測る。深さは70～75cmを測るが西側がやや深い。井戸枠は縦の矢板、2段の横桟によって構成されると思われるが上半が欠損しているため不明な点がある。矢板は基本的には二重に巡る。矢板の大きさは内側で幅15cm前後、外側で15～25cm、厚さは1cm前後を測る。矢板が遺存するのは東・南側のみである。出土遺物は土器ではあかやき土器坏片が1点、その他、矢板材と思われる板材片が数点出土したにとどまるため本遺構の明確な時期は定かではない。井戸の形態、あるいは覆土が黒褐色粘土の単一層である点を踏まえれば古代までは遡らない可能性が強い。

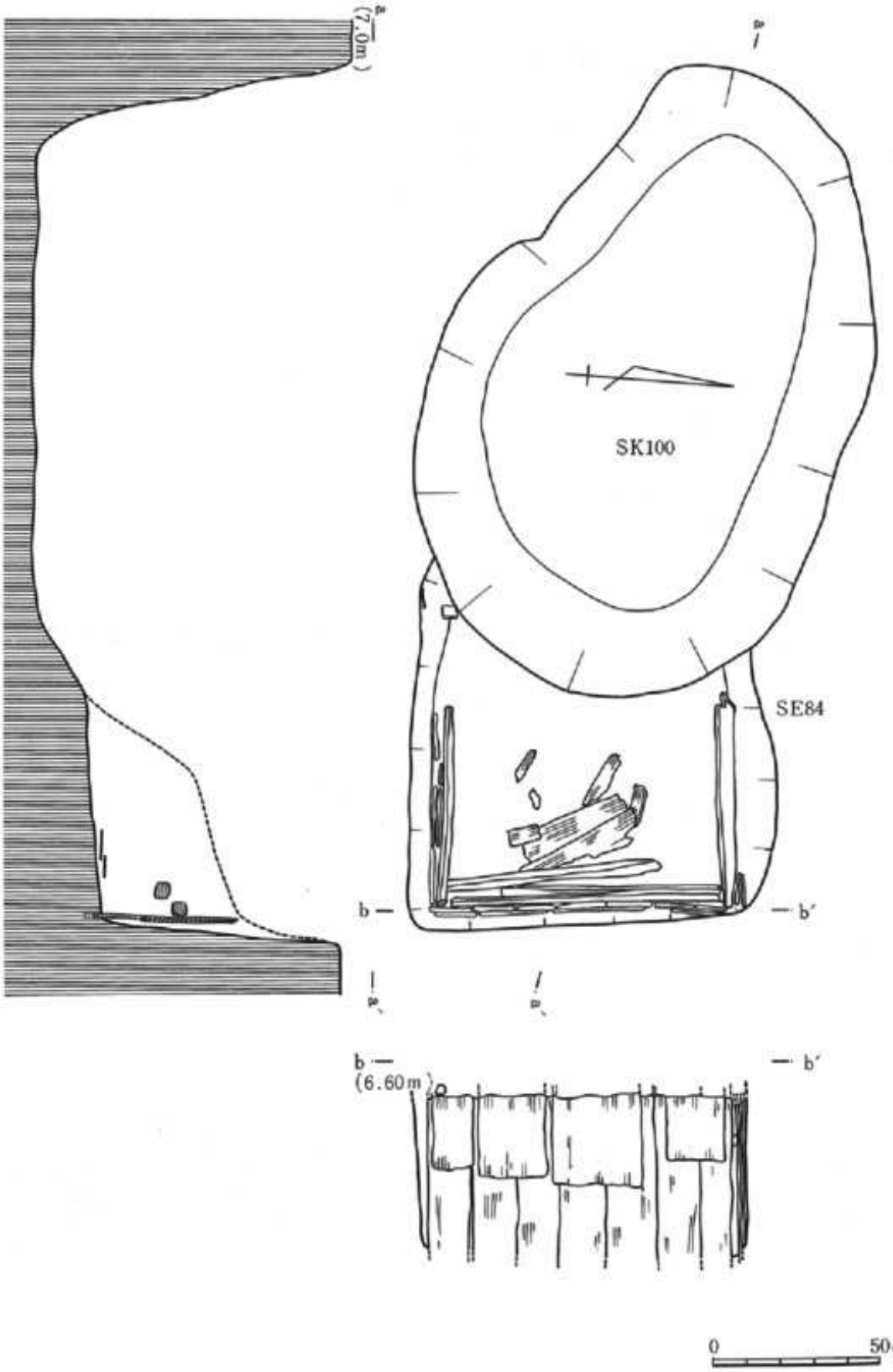
SE94 89—102～103グリッドに位置する。長軸135cm、短軸120cm、検出面からの深さは88cmを測る。掘り方はほぼ垂直、底面も平坦である。形状から井戸跡と判断したが、井戸材等は抜き取られ、底面に矢板材の一部が横位で遺存していたにとどまる。時期はSE84同様、古代までは遡らないものと考えられる。

d 柱 穴

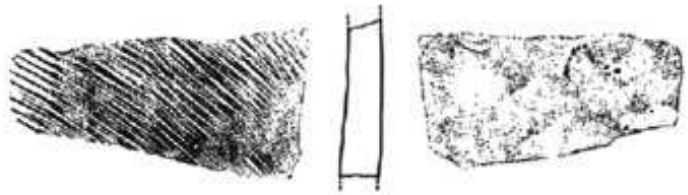
全体で約40基程検出された。いずれも覆土は黒色土を主体としており、分布的には85～90—102～104グリッドに集中している。これらは柱列構成は明確にはならないものの、周辺の土壙あるいは井戸跡と覆土が類似しており何らかの関連性をもつものと考えられる。したがって、時期的には中世を主体とする所産と考えるのが今の段階では妥当であろう。

以上、A地区について概述した。SK95から珠洲系の陶器（甕体部片）が出土しており、この遺物がこの地区の時期を決定するひとつのメルクマールとなると考えられる。

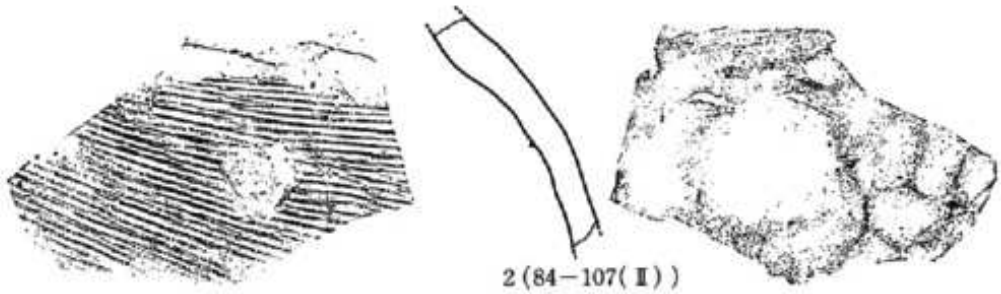
なお、各地区の主要な遺構についてその出土遺物は表—10～16に記載した。



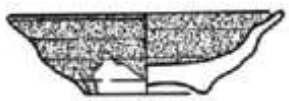
第6図　ＳＥ84井戸跡・ＳＫ100土壙実測図



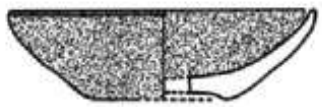
1 (SE95)



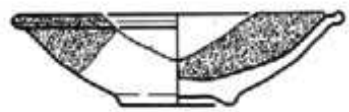
2 (84−107(Ⅱ))



3 (SK100Y)

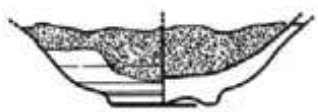


4 (SK100Y)



5 (SK100Y)

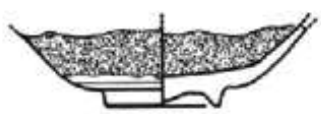
6 (SK100Y)



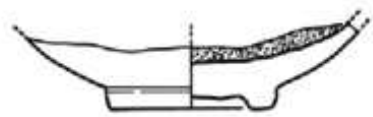
7 (SK100Y)

8 (SK100Y)

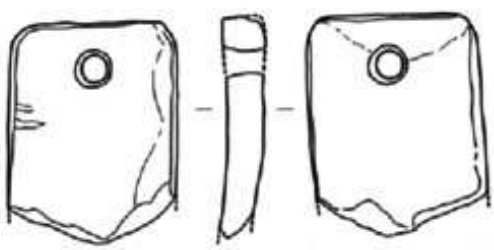
9 (SK100Y)



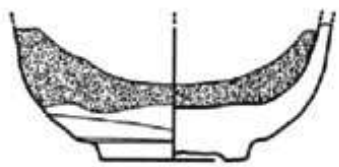
10(SK100Y)



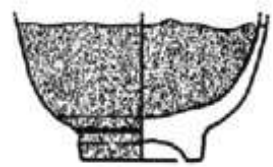
11(SK100Y)



14(A地区) (S=$\frac{1}{2}$)



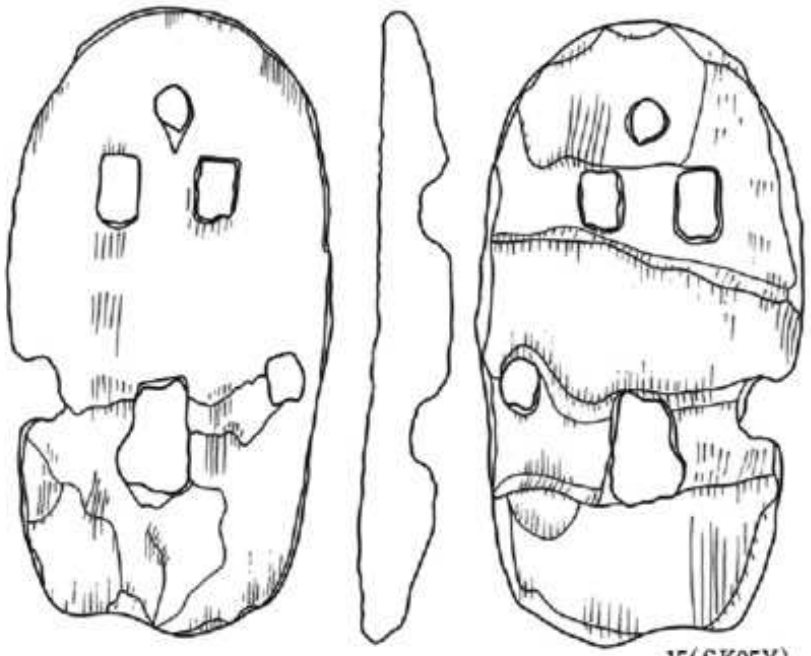
12(SK100Y)



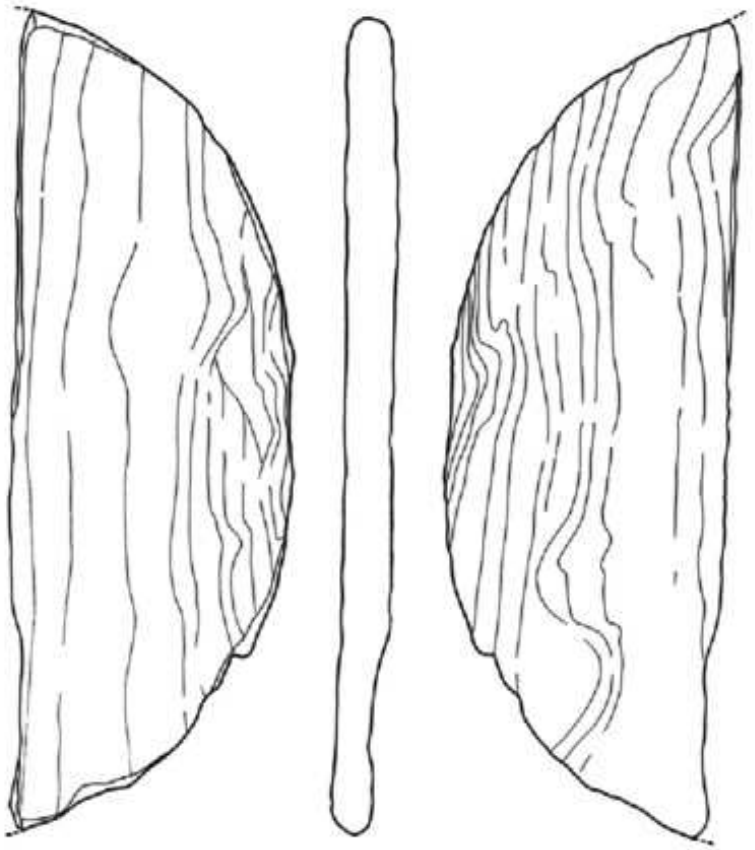
13(SK100Y)

0 5cm

第7図　A地区出土遺物実測図(1)



15(SK95Y)



16(SK95Y)

0 5cm

第8図　A地区出土遺物(2)

2　B地区の遺構と遺物

B地区では掘立柱建物跡1棟、土壙30基、溝跡2基が確認された。グリッドX軸100以東では遺構は希薄になる。この地区は、過去の基盤整備で数10cm削平されており、検出された各遺構も深く構築されたもののみ遺存したものである。

a　掘立柱建物跡　（SB60・第10図）

1棟検出された。調査区西側、96～97—90～92グリッドに位置する。主軸方向はN—11°—Wを測る南北棟の建物跡である。身舎は梁行2間、桁行3間、東側に1間の庇がつく。

柱間距離は桁行西側で北から260cm、140cm、260cm、200cm、東側で北から240cm、160cm、180cm、240cmを測る。梁行は北側中央で柱穴が未検出、南側で西から220cm、230cmを、庇部で西から240cm、230cmを測る。梁行はほぼ等間だが桁行では身舎中央(EP 8 — 9 間、EP 3 — 4 間）が狭く不規則となる。

建物跡を構成する柱穴は12検出されたが、そのうちの3柱穴（EP 6・8・10）でアタリ最深部で柱根が確認された。いずれも遺存状態が悪く、ごく少量の木片が検出されたにとどまる。

柱穴からの出土遺物は、EP11であかやき土器坏（ⅢA 2 類)、同場口縁部片（ⅢE 4 類）が、その他の柱穴でも覆土から主にあかやき土器細片が出土している。

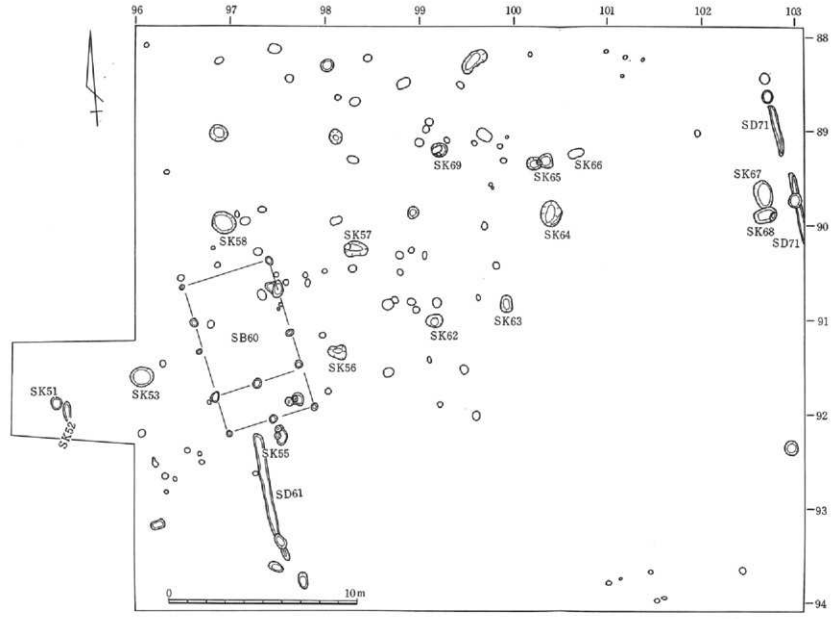
また、本建物跡周辺の土壙出土遺物をみた場合、大半があかやき土器を主体とする出土遺物である点、さらに、B地区全体が、後述する遺物等の年代から概ね10世紀初頭を中心とする遺物の組成であること等により、本建物跡の年代は、10世紀初頭頃と考えられる。

b　土　壙（第11図）

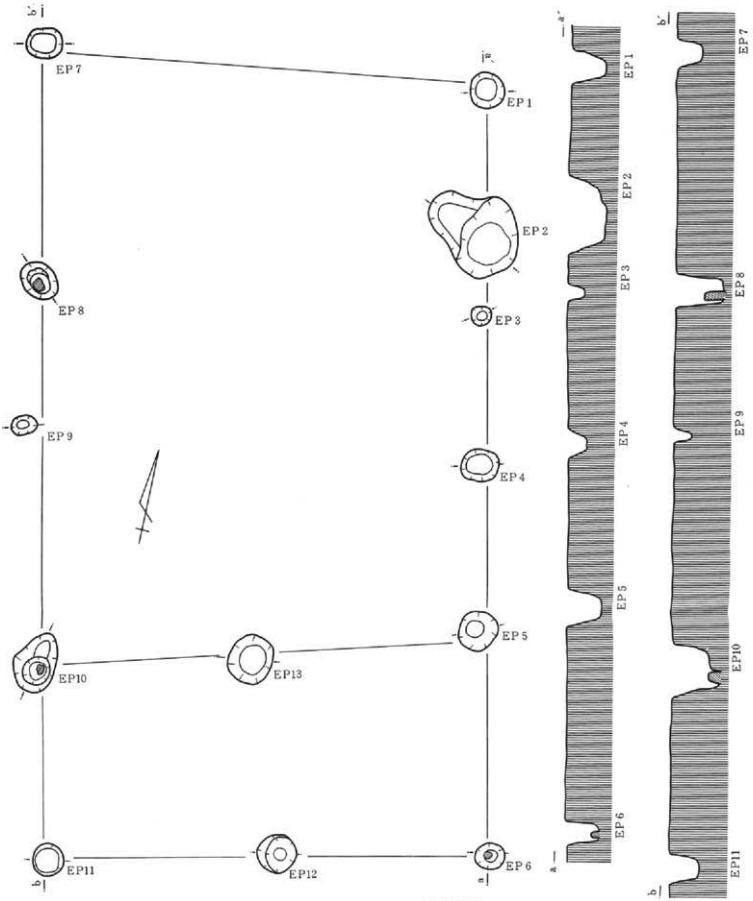
検出された30基のうち13基について図示した。いずれも古代の所産と考えられる。中世以降の所産とみられるA地区の土壙とは明らかにその形状、覆土、遺物の出土状況が異なる。以下では図示した各土壙について簡単に記述する。

SK53　95～96—91Gに位置する。長径134cm、短径106cm、最深部まで12cmを測る。底面は平坦、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は人為堆積の様相を呈し、比較的多量の遺物を含む。図示した資料は 8 点、いずれもあかやき土器坏ⅢA 1 ～ 3 類に属する。図示以外の遺物は須恵器 3 点、あかやき土器470点、土師器坏10点、炭化物 3 点と、圧倒的あかやき土器の出土量が多い。しかも、器種でいえば坏類が多い特徴を有する。時期的には10世紀初頭の所産と考えられる。

SK55　97—92Gに位置する。柱穴 2 基と重複する。新旧関係は、旧SK55→新柱穴となる。平面形は長径110cm、短径70cm、深さ 6 ～ 8 cmを測る。遺物はあかやき坏 1 点（ⅢA2 b）を図示したが、全体で111点、SK53同様あかやき土器が大多数を占める（94%)。


96
97
98
99
100
101
102
103
88
89
90
91
92
93
94
SD71
SK69
SK65
SK66
SK67
SK68
SD71
SK64
SK58
SK57
SK63
SK62
SB60
SK56
SK51
SK53
SK52
SK55
SD61
0
10m

第9図　B地区全体図



SB60 掘立土層注記

EP1：1　オリーブ黒色粘質土(5Y3/1) マダイ混り、炭化物、土器細片を含む。
2　オリーブ黒色粘質(2.5Y3/2) 2～3cmの地山ブロックを多量に含む。
EP2：1　黒褐色粘質土(10YR3/1) 2～3cmの地山ブロック、土器細片を少量に含む。
2　暗灰色粘質土(7.5GY4/1) 1cmの炭化物を若干含む。
③　オリーブ黒色土(2.5Y4/3) 1～3cmの黄色土ブロックを少量含む。
EP3：1　黒褐色粘質土(2.5Y3/1) 3～5mmの黄色土ブロックを若干含む。
2　黒褐色粘質土(2.5Y2/1) 1cm大の炭化物を少量含む。
EP4：1　黒褐色粘質土(10YR3/1) 1cm大の炭化物、1cm大の地山ブロックを若干含む。
2　暗灰色粘質土(2.5Y4/2) 2cm大の炭化物を若干含む。
3　黒色粘質土(2.5Y3/1) 均質で粘性強。
EP5：1　黒褐色粘質土(10YR2/2) 土器細片を多く含む。
2　暗灰色粘質(2.5Y4/2) 2cm大の炭化物を若干含む。
EP6：1　黒褐色粘質土(10YR2/3) マダイ混り、炭化物均質。
2　灰オリーブ黒色(7.5Y4/2) 1cm大の黄色土ブロックを含む。
EP7：1　オリーブ黒色粘質土(5Y3/1) 炭化物を含む。
2　オリーブ黒色粘質(2.5Y3/2) 2～3cm大の地山ブロックを大量に含む。
EP8：1　黒褐色粘質土(10YR3/1) マダイ混り、炭化物、土器細片を多量に含む。
2　オリーブ黒色粘質(2.5Y3/2) 2～3cm大の地山ブロックを大量に含む。
EP9：1　黒褐色粘質土(10YR3/1) マダイ混り、1～2cm大の地山ブロックを少量含む。
2　オリーブ黒色粘質(2.5Y3/2) 炭化物、2～3cm大の地山ブロックを少量含む。
EP10：1　黒褐色粘質土(10YR3/1) 2～3cm大の地山ブロック、土器細片を多量に含む。
EP11：1　黒褐色粘質土(10YR3/1) 1～2cm大の地山ブロックを多量に含む。
2　灰オリーブ黒色(7.5Y4/2) 炭化物を少量含む。
EP12：1　黒褐色粘質土(10YR3/1) マダイ混り、1～2cm大の地山ブロックを少量含む。
2　オリーブ黒色粘質(5Y3/1) 炭化物、2～3cm大の地山ブロックを少量含む。
3　暗灰色粘質土(7.5GY4/1) 1cm大の炭化物を若干含む。

第10図　ＳＢ60掘立柱建物跡実測図

SK56　97～98—91Gに位置する。南東で柱穴と重複する。長径100cm、短径60cmの不整形を呈する。検出面からの深さは30cm前後を測り、覆土は単一層、堆積状況は人為的なものと考えられる。遺物はあかやき土器坏IIIA２類が２点出土した。

SK58　96～97—88～89Gに位置する。長径134cm、短径112cm、深さ14cm前後を測る略楕円形を呈する。土壙中央底面よりあかやき土器甕IIID３b（第12図11）が出土した。全体では153点の遺物が出土したが、やはりあかやき土器が98%を占める。そのほとんどが坏である。

SK59　97—88～89Gに位置する。径100cm程の円形を呈する。遺物の出土は10点と少ない。10点のうち９点があかやき土器（７点が坏）である。

SK62　79—90Gに位置する。長径90cm、短径70cm、深さ12cmで覆土は単一層である。出土遺物22点すべてがあかやき土器、そのうち20点が坏IIIA２類である。

SK63　100—90Gに位置する。長径90cm、短径70cm、深さ８cmを測る。覆土は単一層、遺物は出土しなかった。

SK64　100—89Gに位置する。長径140cm、短径115cm、最深部まで24cmを測る。出土遺物は総数９点、すべてがあかやき土器である。

SK65　100—89Gに位置する。長径144cm、短径80cm、最深部まで20cmを測る不整楕円形を呈する。中央で柱穴と重複するが、新旧関係は旧柱穴→新SK65となる。出土遺物は須恵器１点のみである。

SK67　102—89Gに位置する。SK68と一部重複する。新旧関係はセクションの観察により、旧SK68→新SK67となる。長径144cm、短径104cm、最深部までの深さ26cmを測る。出土遺物総数は35点、（２点が須恵器、33点があかやき土器）、覆土は比較的短い期間で埋まった様相を呈するが、自然堆積か人為堆積かは不明である。

SK68　102—89Gに位置する。重複関係は既述のとおりである。長径124cm、短径96cm、最深部まで22cmを測る。遺物は全く出土しない。

SK69　79—89Gに位置する。長径80cm、短径70cmの楕円形を呈する。柱穴と重複する。出土遺物は須恵器坏IIA１類が１点出土したにとどまる。

SK70　98—88Gに位置する。長径88cm、短径55cm、最深部まで22cmを測る楕円形を呈する。覆土は自然堆積の様相を呈する。出土遺物総数11点のうち須恵器坏IIA１類が１点、口縁部１点の他はあかやき土器が９点となる。

以上、図示した土壙の他、SK73、74等で遺物が出土しているが、いずれもあかやき土器のみの出土である。この地区の表土・包含層出土土器の割合があかやき土器78.3%、須恵器18.1%という様相からも本遺跡のII期に主体をもつ遺構群と考えられる。

C 溝 跡

2基検出された。いずれもほぼ南北方向に走る。

SD61　97—92～93Gに位置する。この地区は既述のとおり削平を受けているため、溝の深い部分のみ遺存したものと思われる。検出面での形状は、南北方向に7m、幅40～50cm、深さ10～20cm程で、出土遺物総数は155点、土師器坏2点以外はすべてあかやき土器である。全体に摩滅が著しい。II期の範囲でとらえられる遺構と考えられる。

SD71　102～103—88～90に位置する。調査区の関係で南側が未検出である。遺存、覆土の状況はSD61に類似する。出土遺物は5点（いずれもあかやき土器）と少ない。やはりII期の範囲でとらえられる遺構と考えられる。

B地区土壙土層注記

SK53
1　黒褐色粘質微砂（2.5Y3/1）1～2cm大の炭化物、土器細片を大量に含む。
2　黒色炭化層（N1.5/）炭化物の単一層。
3　黒褐色粘質土（10YR3/2）5mm大の炭化物、1cm大の地山小ブロックを含む。
4　褐色粘質微砂（10YR4/4）均質。他の土質はほとんど含まない。

SK55
1　黒褐色粘土質（10YR3/2）1～2cm大の炭化物、土器細片を大量に含む。
2　黒色粘質土（7.5YR2/1）1～2cm大の炭化物、土器細片を大量に含む。

SK56
1　オリーブ褐色粘質微砂（2.5Y4/3）5cm大の黒色土ブロックをレンズ状に含む。

SK58
1　黒褐色粘質微砂（10YR3/2）5mm～1cm大の炭化物、土器小片を大量に含む。
2　黒褐色微砂（2.5YR3/2）5mm大の炭化物を若干含むが全体に均質。
3　暗灰黄色微砂（2.5Y4/2）1～2mm大の炭化物、地山砂小ブロックを含む。

SK59
1　黒褐色粘質微砂（2.5Y3/2）1cm大の黒色土ブロック、1mm大の炭化物を少量含む。
2　暗オリーブ灰砂（5GY4/1）全体に均質。

SK62
1　オリーブ褐色粘質微砂（2.5Y4/3）1cm大の黒色土ブロックを少量含む。全体に均質。

SK63
1　暗灰黄色粘質微砂（2.5Y4/2）2mm大の炭化物を若干含む。

SK64
1　黒褐色粘質微砂（2.5Y3/2）1～3mm大の炭化物を少量含む。
2　暗オリーブ褐色粘質土（2.5Y3/3）2～5cm大の黒色土ブロックをまばらに含む。

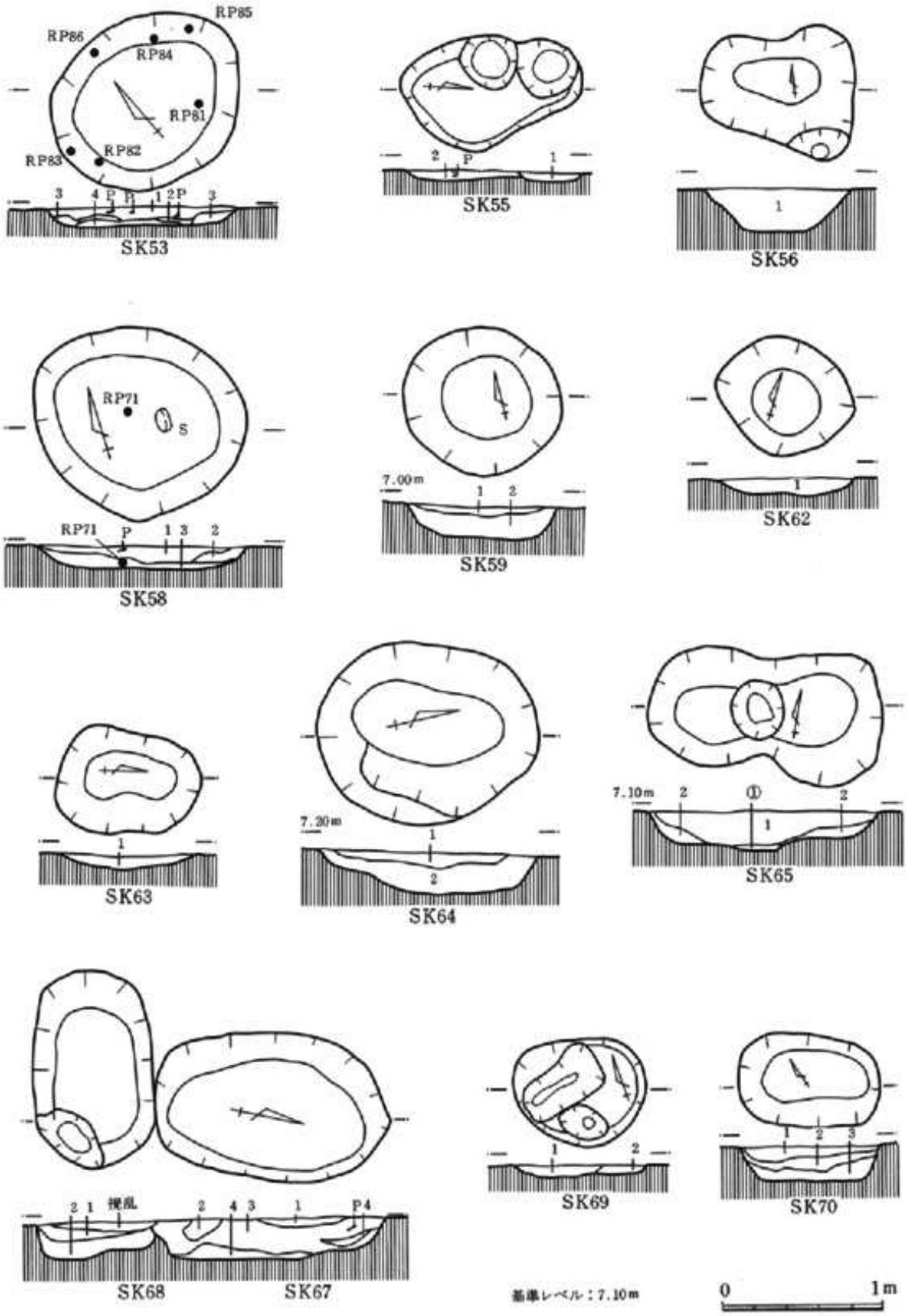
SK65
1　オリーブ褐色粘質微砂（2.5Y4/3）2～5mm大の炭化物、2～5cm大の黒色土ブロックを少量含む。
2　黄褐色微砂（2.5Y5/4）均質。他の土質はほとんど含まない。
①　黒褐色粘質土（2.5Y3/2）粘性強。5mm大の炭化物を含む。

SK67
1　オリーブ褐色微砂（2.5Y4/3）均質。若干の炭化物を含む。
2　黒褐色粘質微砂（2.5Y3/2）〃
3　黒褐色粘質微砂（2.5Y3/1）5mm大の炭化物、1cm大の地山ブロックを少量含む。
4　黄褐色粘質微砂（2.5Y4/4）均質。地山に似るが若干の炭化物を含む。

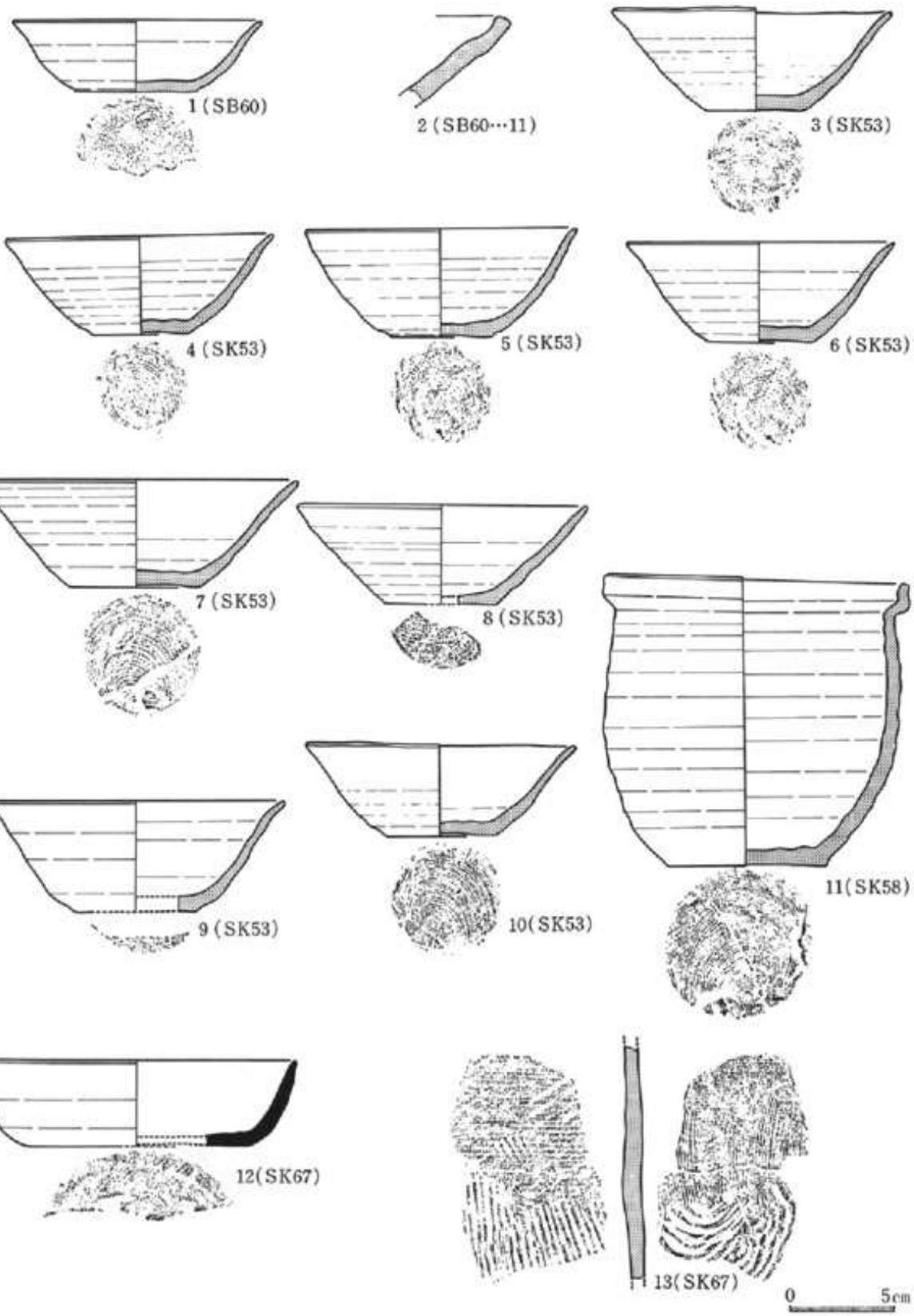
SK68
1　暗オリーブ褐色微砂（2.5Y3/3）5mm～1cm大の炭化物を少量含む。
2　黄褐色微砂（2.5Y5/4）1cm大の黒色土ブロックを少量含む。全体に均質。

SK69
1　オリーブ黒色粘土（5Y3/1）0.5～2mm大の炭化物を多量に含む。
2　灰オリーブ色粘土（5Y4/2）均質でしまっている。

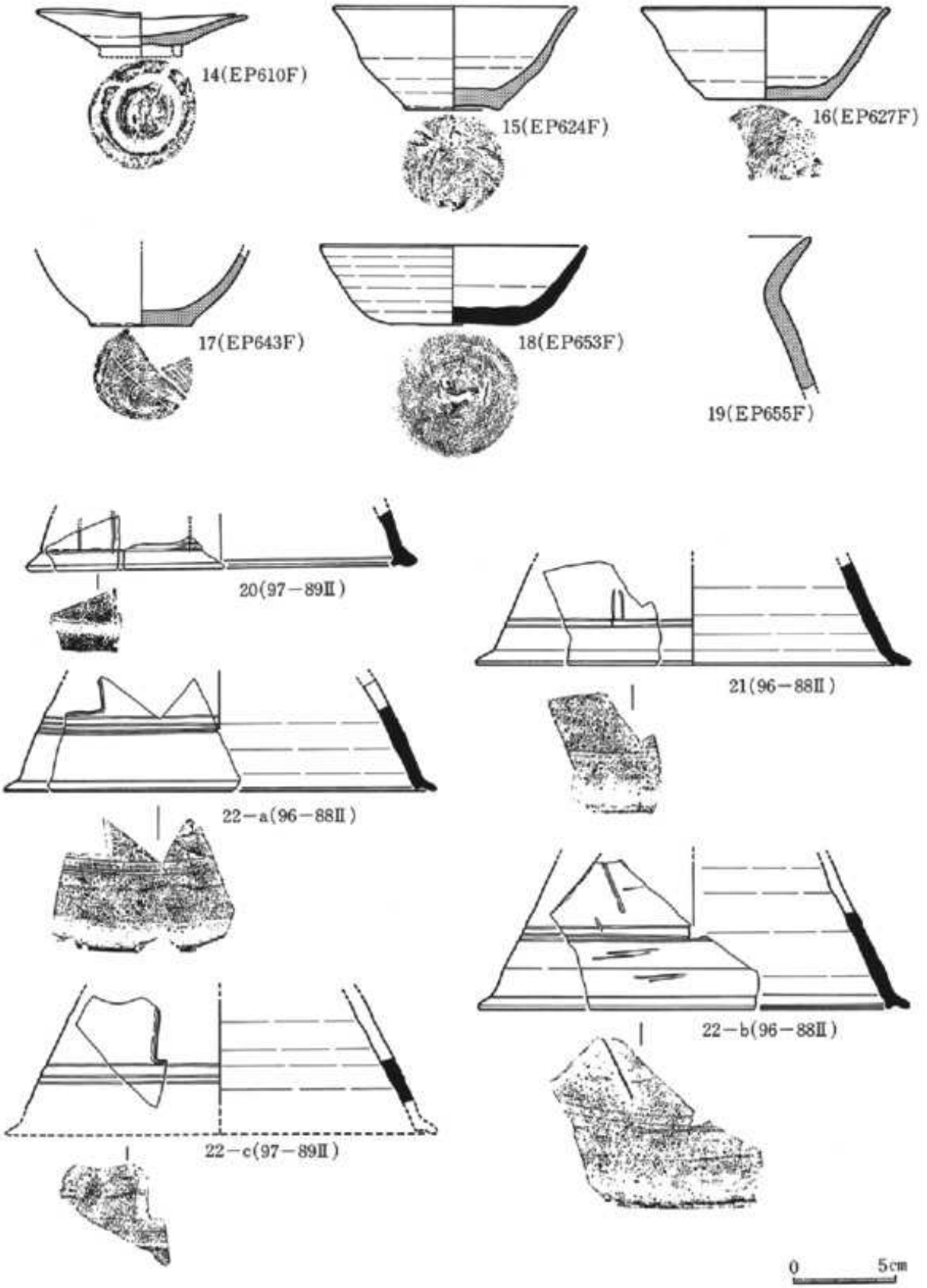
SK70
1　暗オリーブ褐色粘質微砂（2.5Y3/3）1～2mm大の炭化物をやや多量に含む。全体に均質。
2　暗オリーブ褐色粘質微砂（2.5Y3/3）1の土質に5cm大の地山ブロックを少量含む。
3　黒褐色粘土（2.5Y3/2）1～2mm大の炭化物を少量含む。



第11図　B地区土壙実測図



第12図　B地区出土遺物実測図(1)



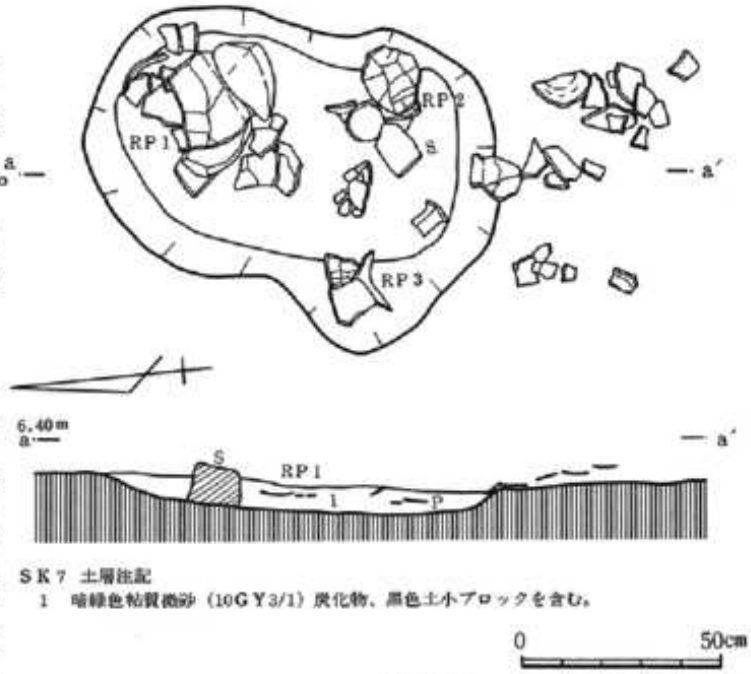
第13図　B地区出土遺物実測図(2)

3　C地区の遺構と遺物

C地区では土壙2基、溝跡4基、旧河川1基が検出された。柱穴、建物跡等は未検出であった。この地区は出土遺物から本遺跡では古い時期（Ⅰ期）に属するものが主体を占めると考えられる。

a　土　壙

SK5・SK7の2基が検出された。このうちSK5は近・現代の攪乱による所産と考えられる。ここでは出土遺物に比較的まとまりのあるSK7について記述する。



第14図　SK7土壙実測図

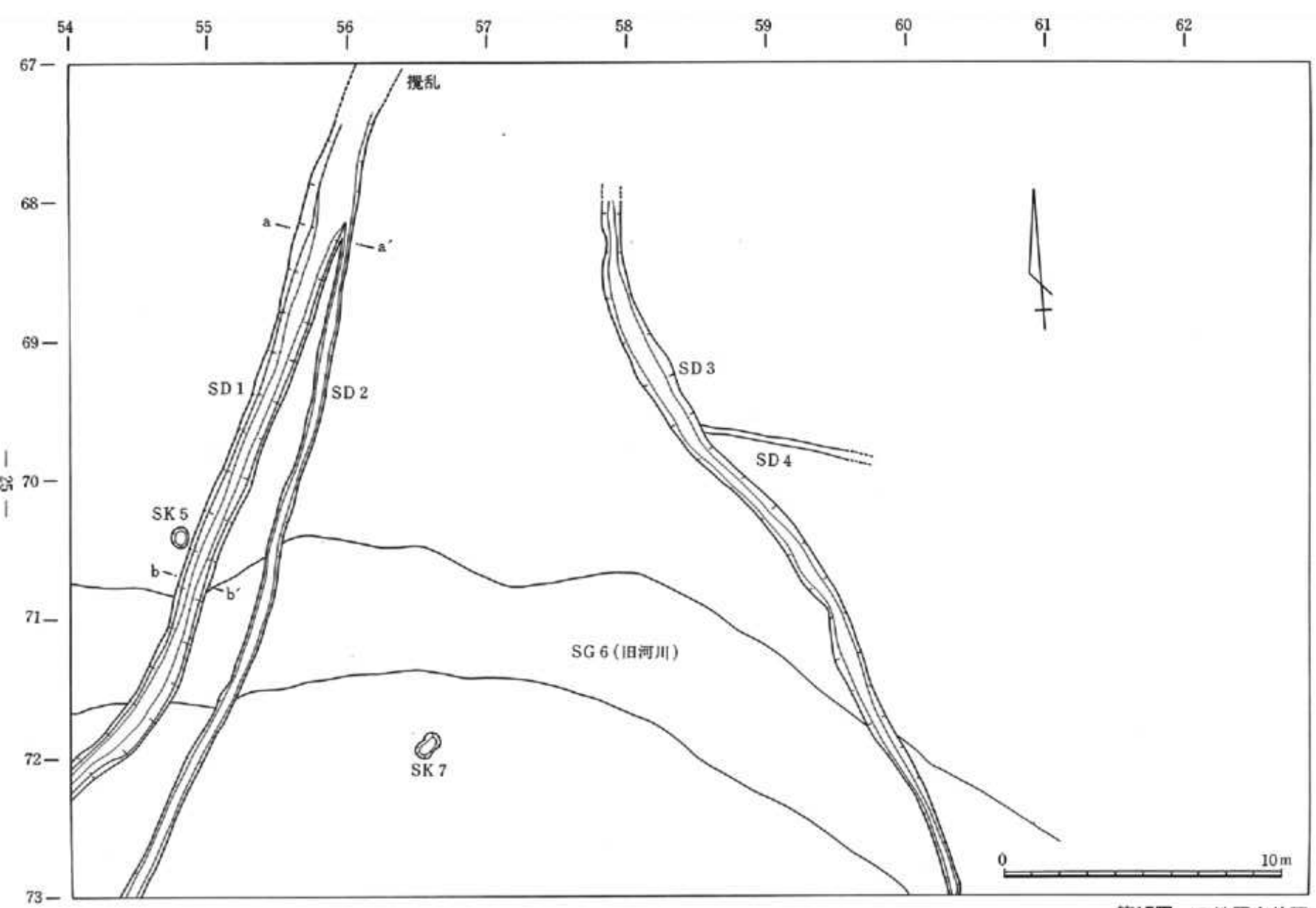
SK7　56—71Gに位置する。上部が過去の基盤整備で削平されており、遺存したのは土壙底面部と考えられる。検出面での平面形は長径105cm、短径約70cmの不整楕円形を呈し、最深部までは7～10cmを測る。遺物は壙底及び本来土壙内と考えられる南側に集中的にみられる。大半が接合したため、図示した遺物（第18図20～23）で時期が推定される。分類による須恵器ⅡD2a、ⅡD1b、あかやき土器甕ⅢD6、鍋ⅢE1がセットとなる。本遺跡のⅠ期の土器で構成される。

b　溝　跡

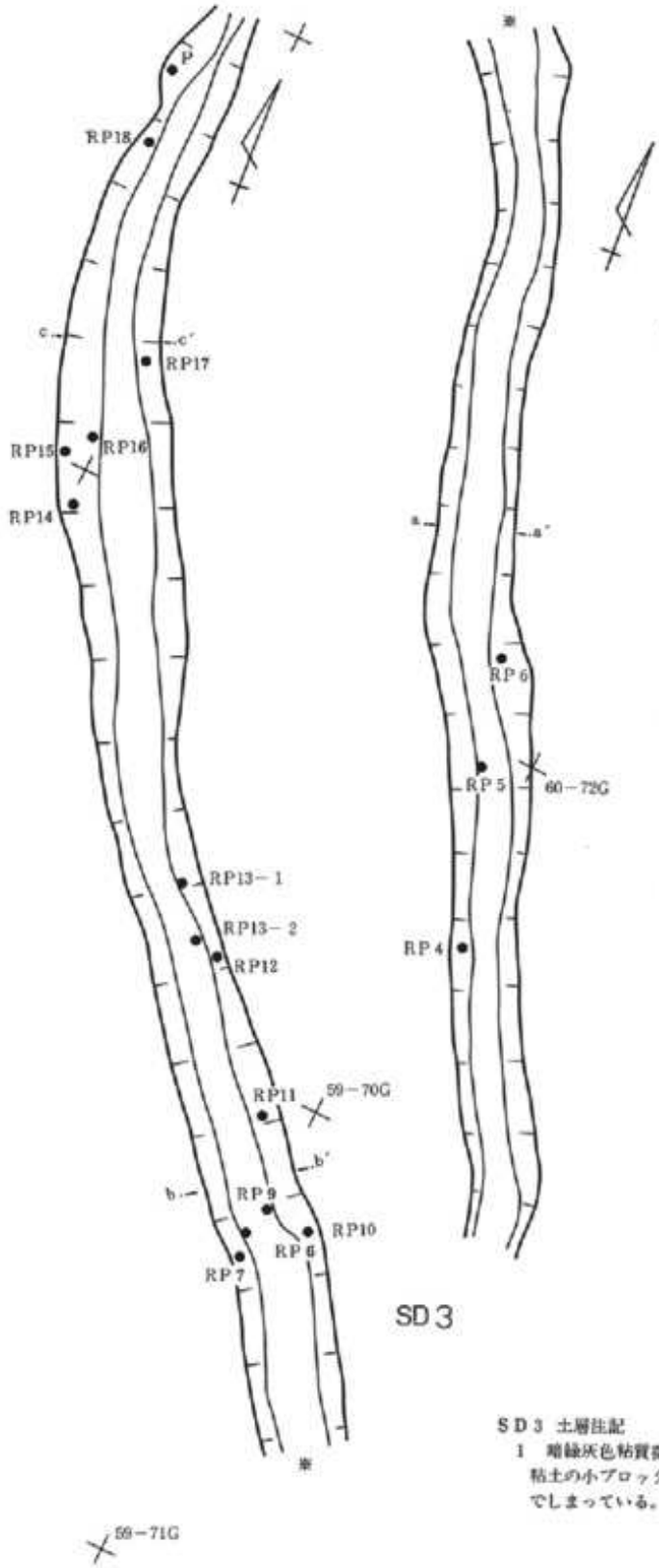
SD1・SD2は近・現代の堰跡と考えられる。遺物は攪乱により覆土中に混入していたが、溝自体の形状、覆土から判断された。古代に属する溝跡はSD3である。

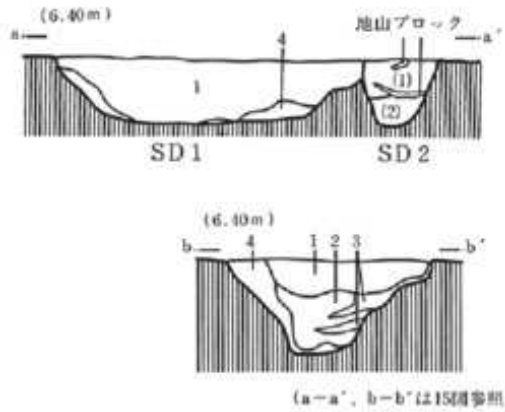
SD3　調査区中央57～60—67～73G内をほぼ南北に走る幅50cm前後、深さ20～30cmの溝跡である。底面は平坦、一部丸味を持ち、壁は比較的緩やかに立ち上がる。覆土は暗緑灰色粘土の単一層で、遺物は壁際に多い。出土総量は103点、内訳は須恵器74点（72%）あかやき土器29点（28%）と、須恵器の占める割合が高い。出土遺物の分類では、須恵器坏ⅡA1類が主体となり、さらにⅡB1、あかやきⅢD3ab、ⅢD5d等を共伴する。本遺跡Ⅰ期の所産と考えられる。

その他、遺跡の立地する自然堤防上に旧河川（SG6）が走っているが、遺物等の出土は全くなく、奈良時代前半以前に形成された河川と考えられる。


54
55
56
57
58
59
60
61
62
67
68
69
70
71
72
73
攪乱
a
a′
SD 1
SD 2
SD 3
SD 4
SK 5
b
b′
SG 6（旧河川）
SK 7
0
10m

第15図　C地区全体図



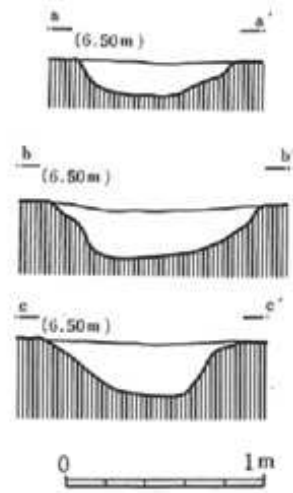


SD1 土層注記

1 オリーブ黒色粘質土（5Y3/1）全体に地山礫小ブロックを若干含む。
2 黒色粘質土（2.5GY2/1）粘性強。均質でしまっている。
3 黒色粘質土（2.5GY2/1）地山砂粒を多く含む。
4 オリーブ黒色粘質土（5Y3/1）5mm～1cm大の地山砂をブロック状に含む。

SD2 土層注記

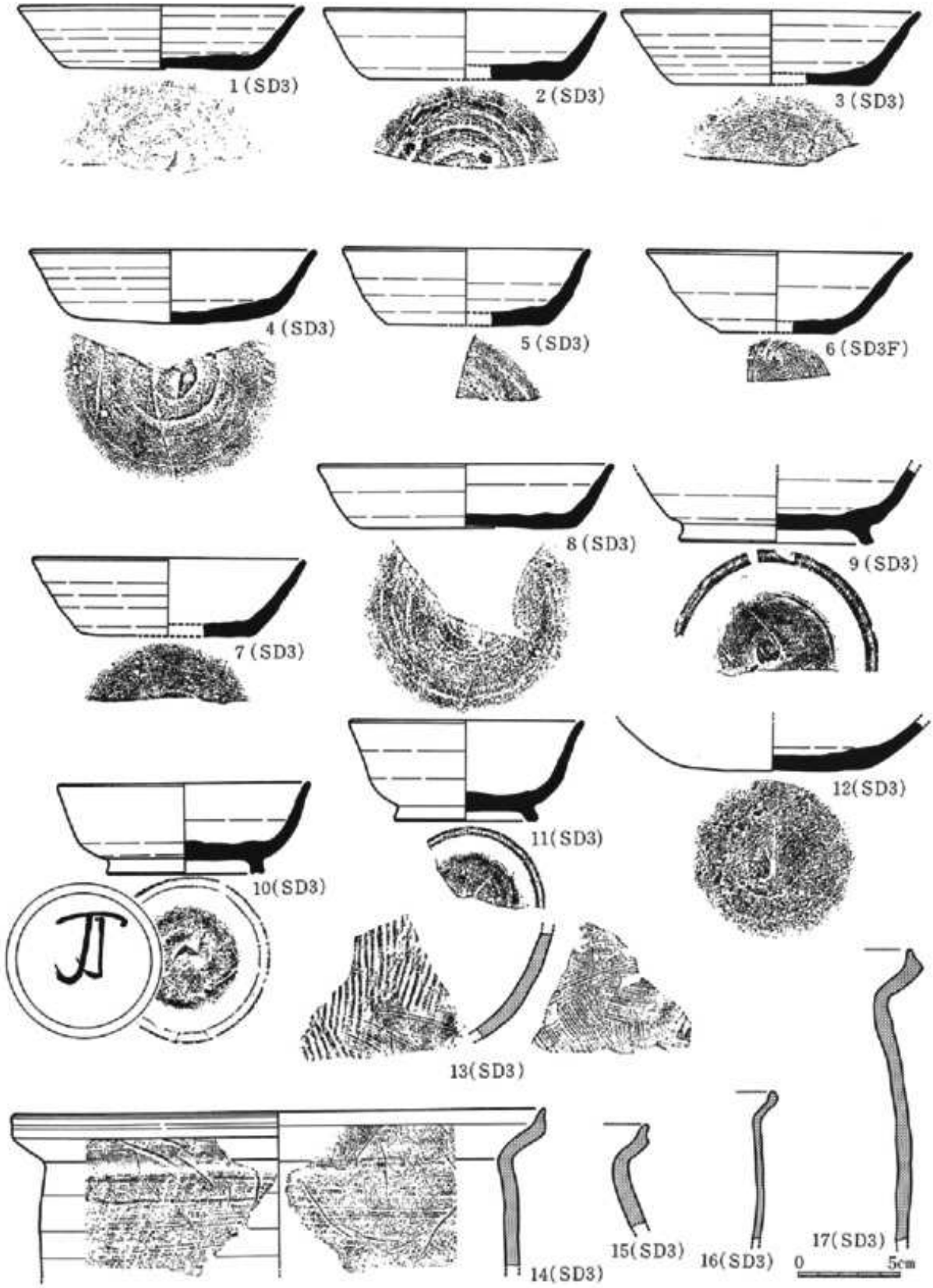
(1) オリーブ黒色粘質土（5Y3/1）粘性強。均質。
(2) 黒色粘質土（2.5GY2/1）粘性強。均質でしまっている。



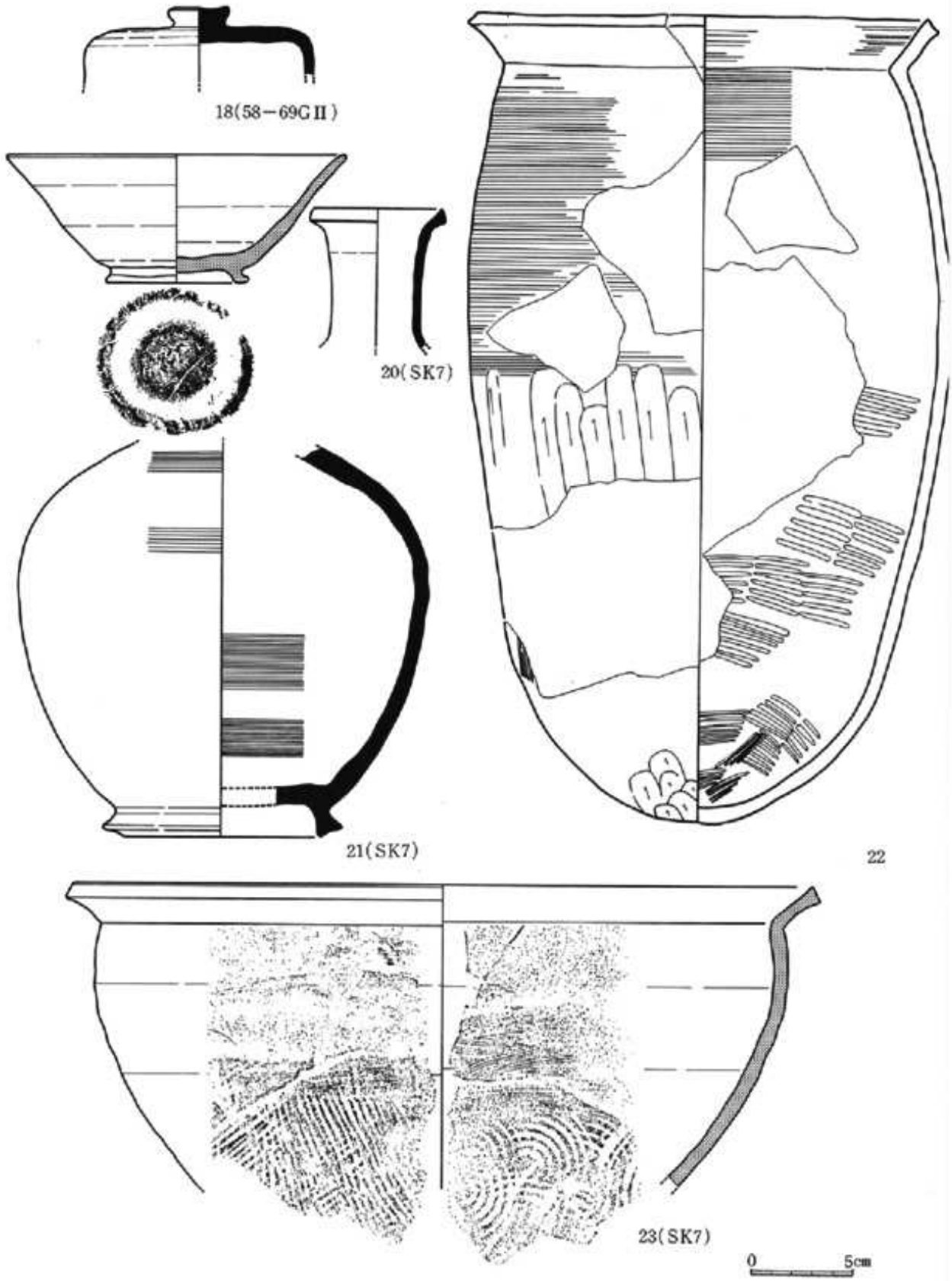
SD3 土層注記

1 暗緑灰色粘質微砂（7.5GY4/1）黒色粘土の小ブロック、炭化粒を含む。均質でしまっている。

第16図 SD1・2土層断面、SD3実測図



第17図　C地区出土遺物実測図(1)



第18図　C地区出土遺物実測図(2)

4　D地区の遺構と遺物

C地区と新設の農道をはさんで隣接する調査区である。農道部分は昭和60年度に分布調査を実施した地区である。

遺構は、掘立柱建物跡2棟、土壙29基（図示27基）、溝跡5基、柱穴60基が検出された。遺物はSK11、SD14、SK16、26、27、32、36、43等で100点を越える出土をみている。組成・年代等については第Ⅴ章で触れるため、ここでは概述するにとどめる。

a　掘立柱建物跡

SB40（第20図）　42～43—68Gに位置する。2間×2間の総柱で主軸はN－17°－Eを測る。柱間距離は柱穴の中心で南北列西側EP1～4間が190cm、EP4～7間が160cm、中央列EP2～5間が170cm、EP5～8間が160cm、東側EP3～6間が150cm、EP6～9間が160cmを測り、やや不規則である。柱穴は検出面から20cm未満と浅く、平面形は径40～60cmの不整円形・不整方形を呈する。EP2でアタリが認められた他は不明である。柱穴覆土にあかやき土器細片；炭化物が含まれており、本遺跡Ⅱ期の建物跡（倉庫跡）と考えられる。

SB41　（第21図）　42～43—68～69Gに位置する。2間×2間の建物跡で主軸はN－7°－Eを測る。北側東西柱列で中央の柱穴が未検出である。柱間距離はアタリあるいは柱穴の中心で、南北列西側EP1～2間が210cm、EP3～5間が220cm、東側列で北からEP2～4間が190cm、EP4～7間が210cm、南側EP5～6間が220cm、EP6～7間が210cmを測る。アタリはEP2・3・4・5で認められたが柱根は遺存していない。各柱穴からの出土遺物は表—16に示したとおりで、EP1～5から総数で64点出土している。98.6%があかやき土器である。須恵器坏はⅡA2類で、この傾向からⅡ期の建物跡としてとらえるのが妥当と考えられる。

b　土　壙　（第22図～24図）

D地区で29基検出された。27基について図示した。これら土壙の分布についてみると、①調査区北西部（39～42—66～69G）②調査区北東寄り中央部（42～45—67～69G）③調査区南側（Y軸70G以南）の3区域にやや集中して分布している。これら土壙のうち50点以上の遺物が出土したもの、あるいは良好な遺存状況で土器を含むものについては第Ⅴ章の遺構内出土土器の組成の項で触れている。ここで主要な土壙について記述する。

SK10（a：位置39—69G　b：規模長径106cm、短径90cm、深8cm、　c：平面形不整形）覆土中に炭化物を多量に含み、土器が細片で出土している。Ⅱ期の所産と考えられる。

SK11（a：41—71G　b：190cm、140cm、8cm、不整楕円形）壙底及び覆土第2層に多量の土器、炭化物を含む、土器は153点出土のうちあかやき土器が、87%を占める。分類による土師器ⅠA5、3、あかやき土器ⅢA1a、2a、ⅢD2aが出土している。

SK16（a：44—69G　b：120cm、110cm、10cm、不整楕円形）SD14と重複する。新旧関係は、旧SD14→新SK16となる。遺物は壙底及び覆土第2層より総数301点の出土をみた。あかやき土器が87%を占める。完形品では分類によるⅢA2b、ⅢD5Cが出土している。

SK19（a：45—69G　b：76cm、70cm、16cm、不整円形）遺物総数は47点と少ないが器形の判明する遺物が4個体ある。分類によるIB、ⅡC2、ⅢA1a、ⅢA3dで、この他両黒の土師器坏も8点含む。

SK26（a：40～41—67G　b：240cm、230cm、16cm、不整方形）D地区で最も平面形の大きな土壙である。遺物総数178点、うち内面黒色処理土師器坏片が16点とやや量比が多い。あかやき土器は77%を占める。

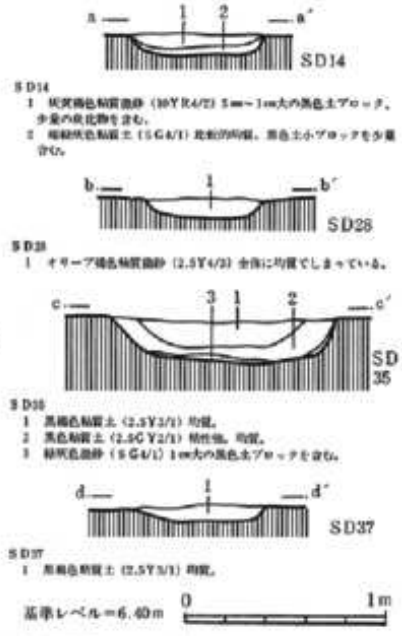
SK27（a：40—67G　b：156cm、120cm、20cm、不整楕円形）SK26に隣接する。壙底はやや凹凸がある。遺物総数207点、完形土器がややまとまって出土しており一括資料としてとらえられる。分類によるIA3、ⅡA2a、ⅢD2c、ⅢD3b、ⅢAなどがセットとなる。

SK32（a：41～42—68、b：130cm、110cm、25cm、不整楕円形）SD36と重複する。新旧関係は、旧SD36→新SK32となる。遺物総数は121点（あかやき土器が90%を占める）とやや少ないが、完形品が一括出土している。分類によるIA4、ⅡD2b、ⅡD3、ⅢA2a・b、ⅢA3b、ⅢA1a、ⅢD2a、ⅢE2等がセットで出土している。

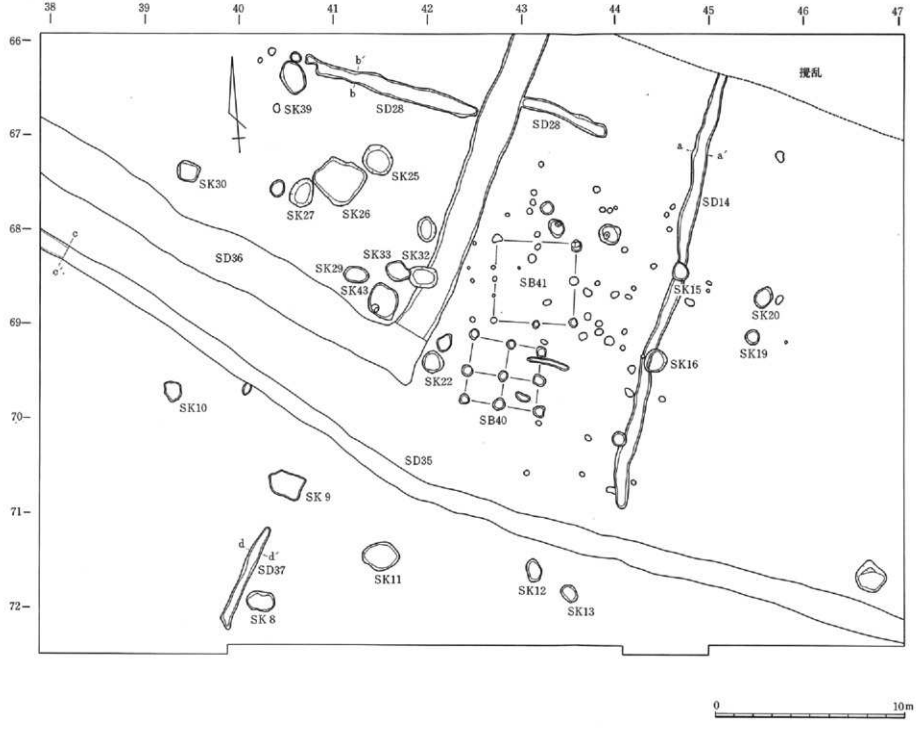
SK43（a：41—68G　b：200cm、160cm、18cm、不整楕円形）遺物総数は98点、やはりあかやき土器の占める割合が86%と多い。土器組成ではⅡA2、ⅡB1e、ⅡC2、ⅡE1・2、ⅢD1b、ⅢD2c、ⅢD3b、ⅢD5b、c等がみられる。

C　溝　跡

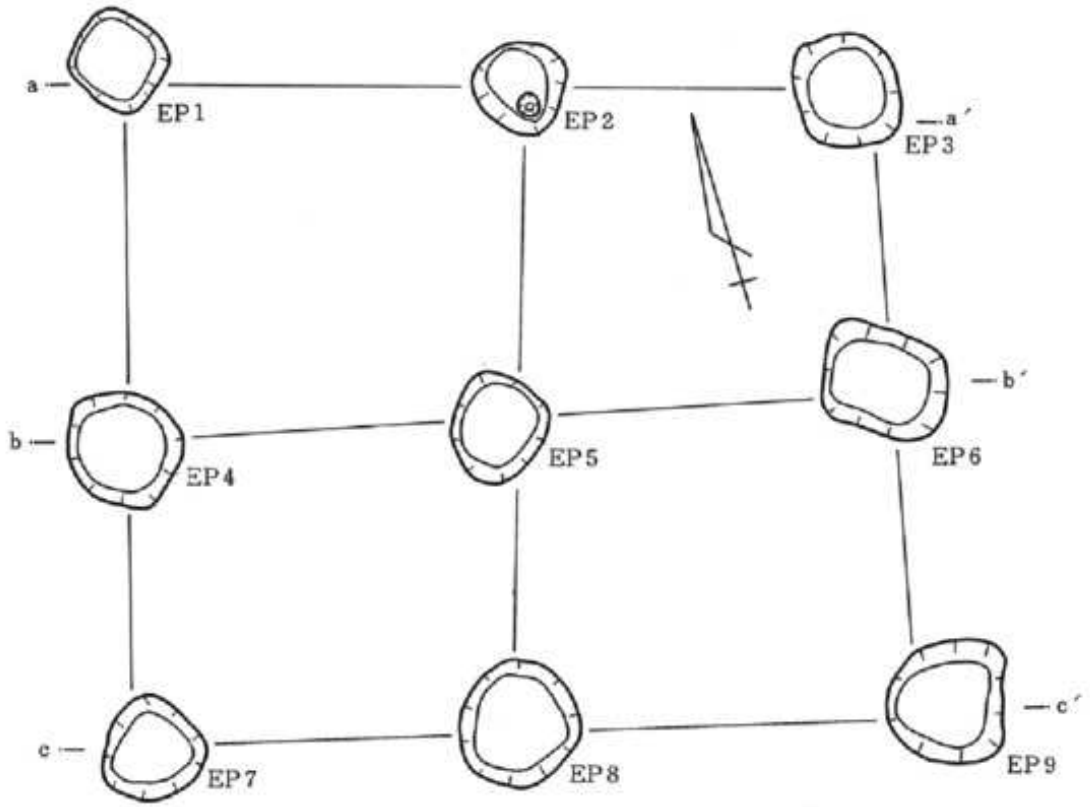
5基検出されたがここではSD14について触れる。SD14は調査区東側44～45—66～70Gを南北に走る幅70～80cm、深さ10～15cmの溝跡で、覆土は大きく2層に分けられる。図示した遺物は2層を中心に出土している。遺物総数264点（須恵器19%、あかやき土器80%、土師器1%未満）のうちやや須恵器の占める割合が多い。分類による組成ではIA1、ⅡA1b・c・d、ⅡB1b、c・d、ⅡE2、ⅢA2a・c、ⅢD1a、2a、3a等がセットとなる。本遺跡Ⅰ期の所産と考えられる。

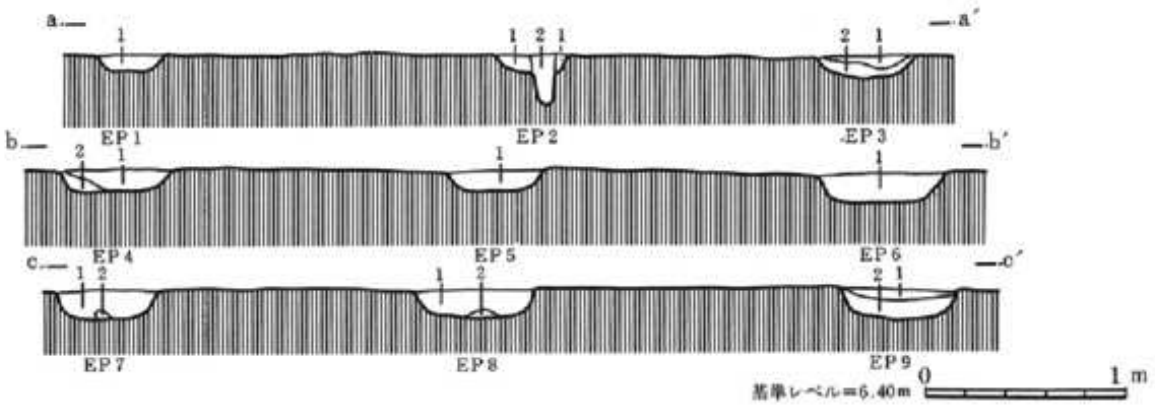


第25図　D地区溝跡断面実測図


38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
66
67
68
69
70
71
72
攪乱
SK39
SD28
SD28
SK30
SK25
SK27
SK26
SD14
SD36
SK33
SK32
SK29
SK43
SB41
SK15
SK20
SK19
SK16
SK22
SK10
SB40
SD35
SK 9
SD37
SK11
SK12
SK13
SK 8
0
10m

第19図　D地区全体図

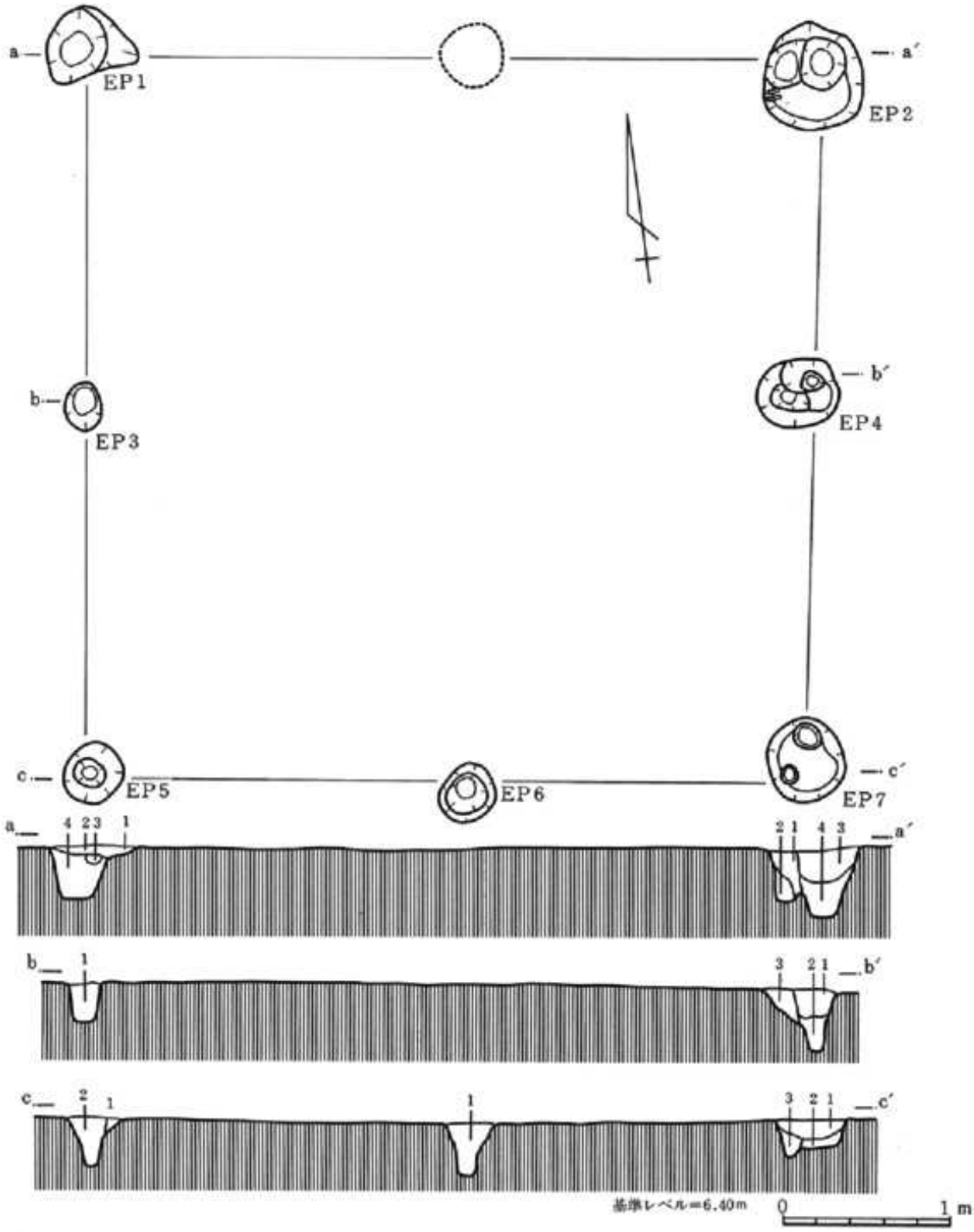




SB40 柱穴土層注記

EP1：1　オリーブ褐色土（2.5Y4/3）
　　1cm大の黒色土ブロックを含む。
EP2：1　EP1と同質
　　2　黒褐色粘質土（2.5Y3/1）
EP3：1　EP1と同質
　　2　緑灰色粘質微砂（5G3/1）
EP4：1
　　2　} EP3、1・2と同質。
EP5：1　EP1と同質。
EP6：1　EP1と同質。
EP7：1
　　2　} EP3、1・2と同質。
EP8：1
　　2　} EP3、1・2と同質。
EP9：1
　　2　} EP3、1・2と同質。

第20図　SB40掘立柱建物跡実測図



SB41 柱穴土層注記

EP1：1 暗灰黄色粘質微砂(2.5Y4/2)
2 黒褐色微砂(2.5Y3/1)
3 緑灰色粘質土(5G4/1)
4 黒色粘土(2.5GY2/1)

EP2：1 黒褐色粘質微砂(2.5Y3/2)
2 黒褐色粘質微砂(2.5Y3/1)
3 オリーブ黒色粘質微砂(5Y3/1)
4 黒色粘土(2.5GY2/1)

EP3：1 オリーブ黒色粘質土(5Y3/1)

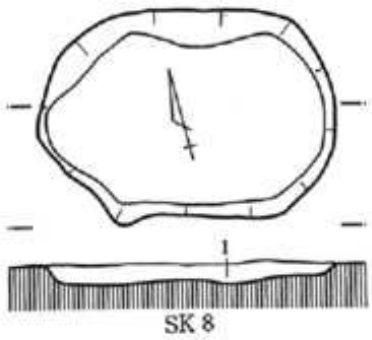
EP4：1 黒褐色粘質微砂(2.5Y3/2)
2 オリーブ黒色粘質微砂(7.5Y3/1)
3 暗オリーブ灰色粘質微砂(5GY3/1)
4 黒色粘土(2.5GY2/1)

EP5：1 オリーブ黒色粘土(7.5Y3/1)
2 黒色粘質土(10Y1.7/)

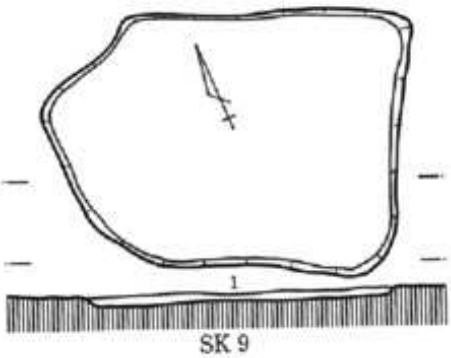
EP6：1 オリーブ黒色粘質土(5Y2/2)

EP7：1 オリーブ黒色粘質土(7.5Y3/1)
2 オリーブ黒色粘質土(7.5Y3/2)
3 黒色粘質土(2.5GY2/1)

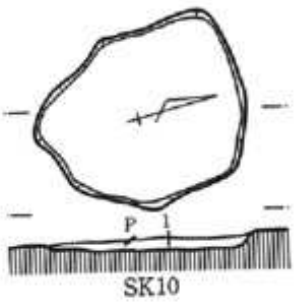
第21図　SB41掘立柱建物跡実測図



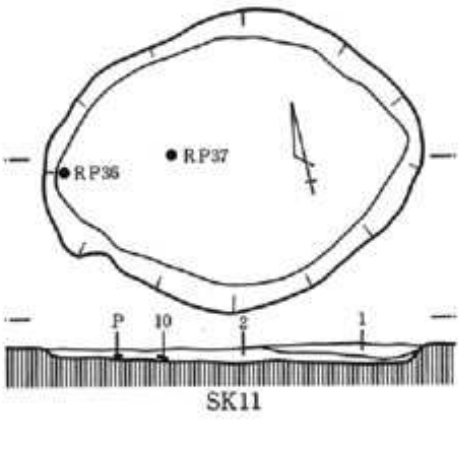
SK 8



SK 9

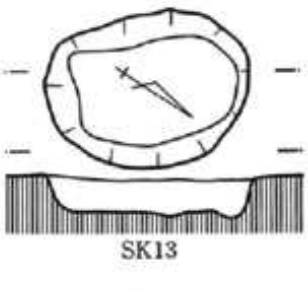


SK10

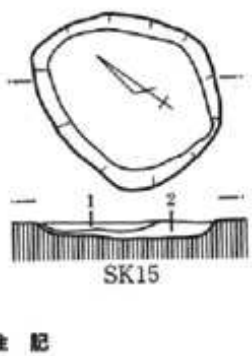


SK11

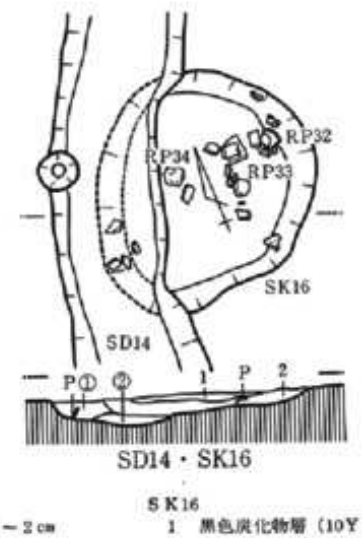
SK12



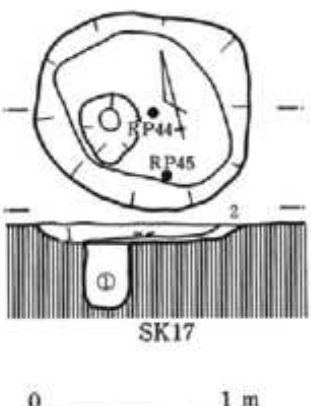
SK13



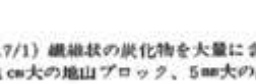
SK15



SD14・SK16



SK17



土 層 注 記

S K 8
1 黒色粘質微砂（10YR1.7/1）暗青灰色砂・粘質土の1－2cmブロック、5mm大の炭化物を含む。

S K 9
1 黒色粘質微砂（2.5GY2/1）暗青灰色(地山)粘土をブロック状に大量に含む。

S K10
1 黒色粘質微砂（5Y2/1）5mm大の炭化物、地山小ブロックを多量に含む。

S K11
1 暗オリーブ灰色微砂（2.5GY）5mm大の黒色土ブロックを少量含む。
2 黒色粘質微砂（N2/1）粘性強。炭化物、炭化粒を多量に含む。

S K12・S K13
1 緑灰色粘質微砂（10G3/1）1－3mm大の炭化物を少量含む。

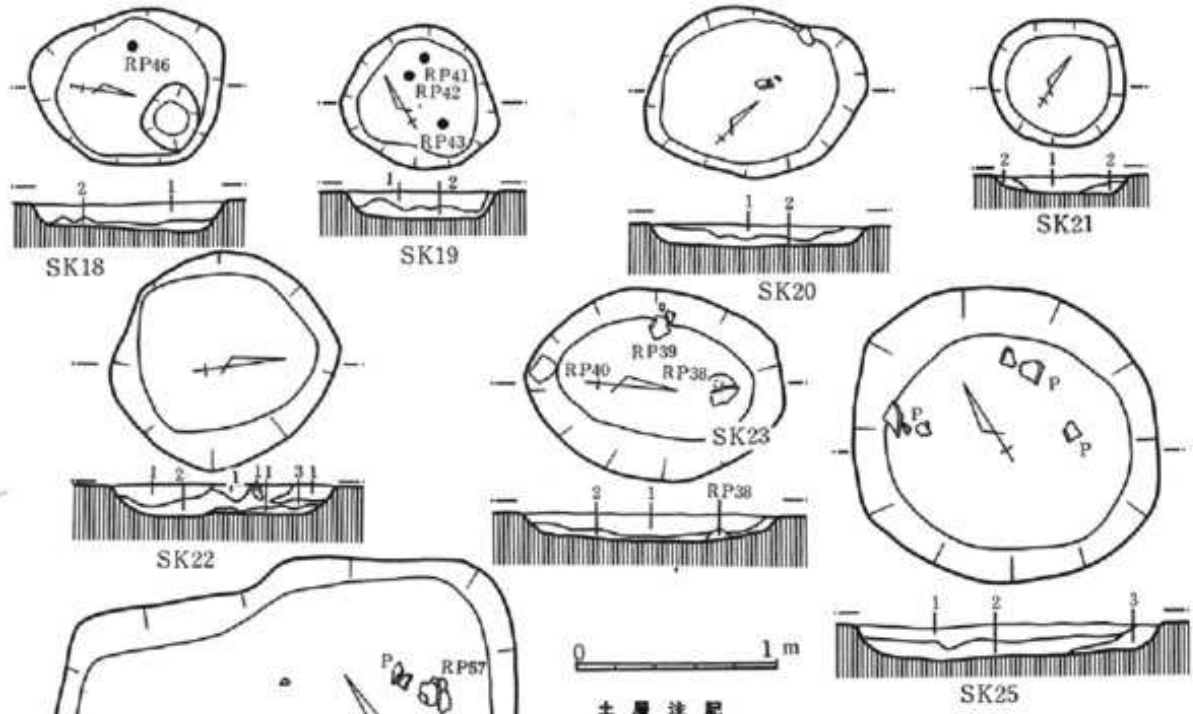
S K15
1 暗褐色粘質微砂（10YR3/3）炭化物、1cm大の地山ブロックをまだらに含む。
2 暗オリーブ灰色微砂（2.5GY3/2）暗褐色土小ブロックを少量含む。

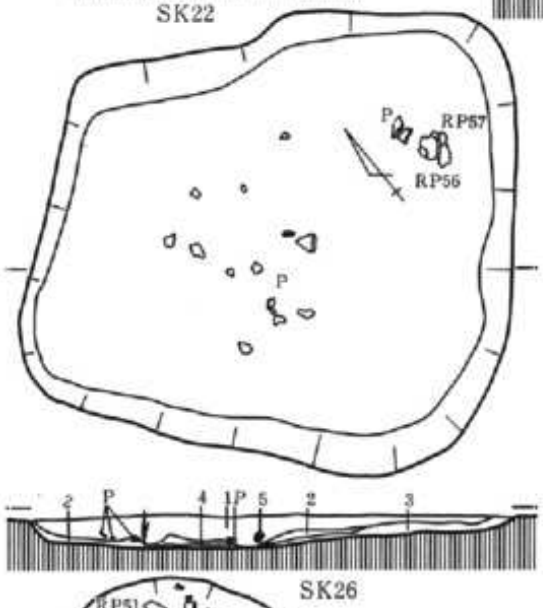
S K16
1 黒色炭化物層（10YR1.7/1）繊維状の炭化物を大量に含む。
2 緑黒色微砂（5G2/1）1cm大の地山ブロック、5mm大の黒色粘土を含む。

S D14
① 灰黄褐色粘質微砂（10YR4/2）5mm－1cm大の黒色土ブロック、少量の炭化物を含み、しまっている。
② 暗緑灰色粘質土（5G4/1）比較的均質だが、黒色土小ブロックを少量含む。

S K17
1 暗褐色微砂（10YR3/3）1cm大の地山ブロック、3～5mmの炭化物を少量含む。
2 暗緑灰色砂（7.5GY4/1）比較的均質。少量の炭化物を含む。
① 暗緑灰色粘質土（7.5GY3/1）2cm大の黒色粘土ブロックを含む。

第22図　D地区土壙実測図(1)





基準レベル＝6.40m

土層注記

SK18
1 暗灰黄色粘質微砂（2.5Y4/2）5㎜大の炭化物を若干含む。
2 暗オリーブ灰色微砂（2.5GY4/1）黒色粘土の小ブロックを含む。

SK19
1 黒褐色微砂（2.5Y3/2）1㎜の炭化物、灰粒子を含む。
2 暗緑灰色粘質土（10G3/1）1～2㎝大の黒色土の粘土ブロックを含む。

SK20
1 黒褐色微砂（2.5Y3/2）1㎜大の黒色土小ブロック、炭化物を含む。
2 暗緑灰色粘質土（5G4/1）少量の炭化物を含む。比較的均質。

SK21
1 オリーブ黒微砂（5Y3/2）1～2㎜大の炭化物、1㎝大の黒色土ブロックを含む。
2 灰オリーブ粘質微砂（5Y4/2）均質。地山小ブロックを少量含む。

SK22
1 暗緑灰色微砂（10G3/1）1㎝大の黒色粘土、1㎜大の炭化物を少量含む。
2 黒色粘質土（N2/1）粘性強。1の小ブロックをまばらに含む。
3 黒色粘質土（N2/1）灰オリーブ微砂（5Y6/2）をまばらに含む。灰と考えられる。

SK23
1 暗灰黄色微砂（2.5Y4/2）1㎜大の炭化物、少量の地山小ブロックを含む。
2 暗オリーブ灰色粘質土（2.5GY4/1）比較的均質。遺物を含む。

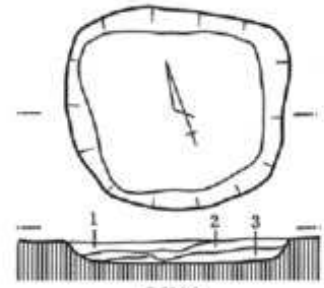
SK25
1 黒褐色微砂（10YR3/2）1㎜大の炭化物、5㎜大の黒色土ブロックを含む。比較的均質。
2 暗緑灰色粘質土（5G3/1）粘性強。1～3㎝大の黒色粘土を大量に含む。
3 暗オリーブ灰色微砂（2.5GY4/1）均質だが、1㎝大の黒色土ブロックを含む。

SK26
1 暗灰黄色微砂（2.5Y4/2）1～3㎜大の炭化物、1㎝大の黒色土ブロックを含む。
2 暗オリーブ灰色粘質微砂（2.5GY3/1）大量の炭化物、炭化物（繊維状）を含む。
3 暗緑灰色粘質土（10G3/1）黒色土ブロックを大量に含む。
4 緑黒色炭化物層（5G1.7/1）大量の炭化物を含む。

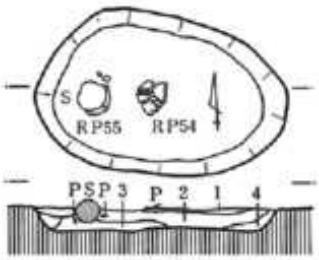
SK27
1 暗オリーブ褐色微砂（2.5Y3/3）1～3㎜大の炭化物、1㎝大の黒色土ブロックを含む。
2 オリーブ灰色微砂（10Y4/2）1㎝大の黒色土ブロック、1の小ブロックをまばらに含む。
3 黒色粘質土（5Y2/1）大量の炭化物（繊維状）を含む。
4 緑灰色砂（7.5GY5/1）ブロックで混入する。

SK29
1 オリーブ黒色微砂（7.5Y3/2）5㎜～3㎝大の黒色土ブロック、1㎜大の炭化物を含む。

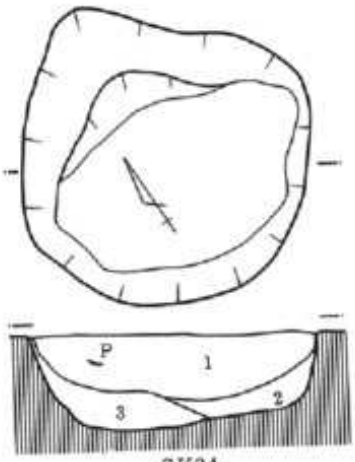
第23図　D地区土壙実測図(2)



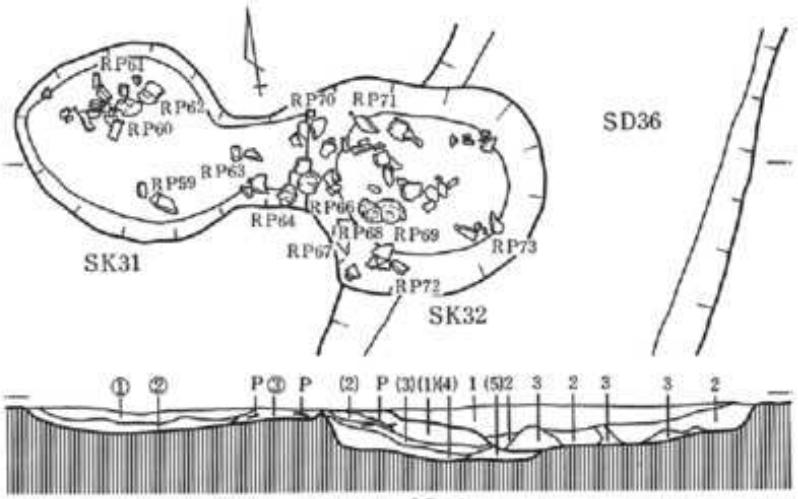
SK30



SK33

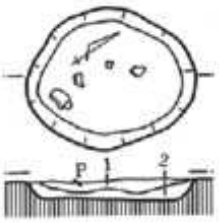


SK34



SK31・32・SD36

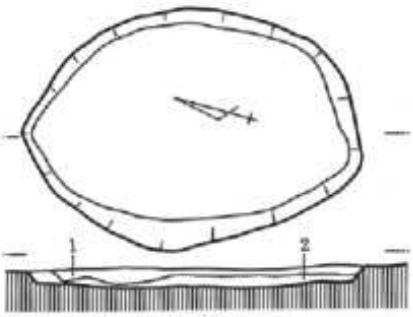
SD36



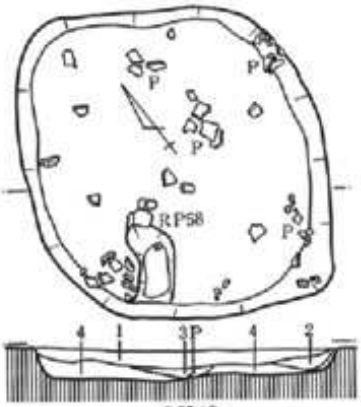
SK42

0 1 m

基準レベル＝6.40



SK39



SK43

土 層 注 記

SK30
1 暗オリーブ褐色微砂（2.5Y3/3）均質。
2 黒褐色微砂（2.5Y3/1）2～5㎜大の炭化物、1の1㎝大ブロックを含む。

SK31
① 黒褐色微砂（2.5Y3/2）均質でしまっている。1㎜大の炭化物を少量含む。
② 暗緑灰色粘質微砂（5G4/1）均質でしまっている。少量の炭化物、黒色土小ブロックを含む。
③ 暗緑灰色粘質微砂（5G4/1）②に比し炭化物が少ない。

SK32
(1) 暗オリーブ灰色粘質微砂（5GY3/1）比較的均質。遺物を多く含む。
(2) 暗オリーブ褐色微砂（2.5Y3/3）1㎜大の炭化物を少量含む。
(3) 黒色粘質土（N2/）炭化物、繊維状の炭化物を大量に含む。
(4) 暗緑灰色粘質土（7.5GY3/1）2㎝大の地山ブロック、1㎜大の炭化物を含む。
(5) 暗緑灰色粘質土（5G4/1）粘性強。ほとんど均質。

SD36
1 黒褐色粘質土（10YR2/2）均質でしまっている。
2 黒色粘土（N2/）粘性強、しまっている。
3 暗緑灰色粘質微砂（5G4/1）1～3㎝大の黒色土ブロックを含む。

SK33
1 暗オリーブ褐色微砂（2.5Y3/3）1㎝大の黒色土ブロックを含む。
2 にぶい黄褐色粘質微砂（10YR4/3）少量の炭化物、1㎝大の地山ブロックを含む。
3 暗灰オリーブ灰色粘質微砂（5GY3/1）1㎜大の炭化物、1㎝大の黒色土ブロックを含む。
4 オリーブ黒色微砂（7.5Y3/2）竪隙にブロックで入る。

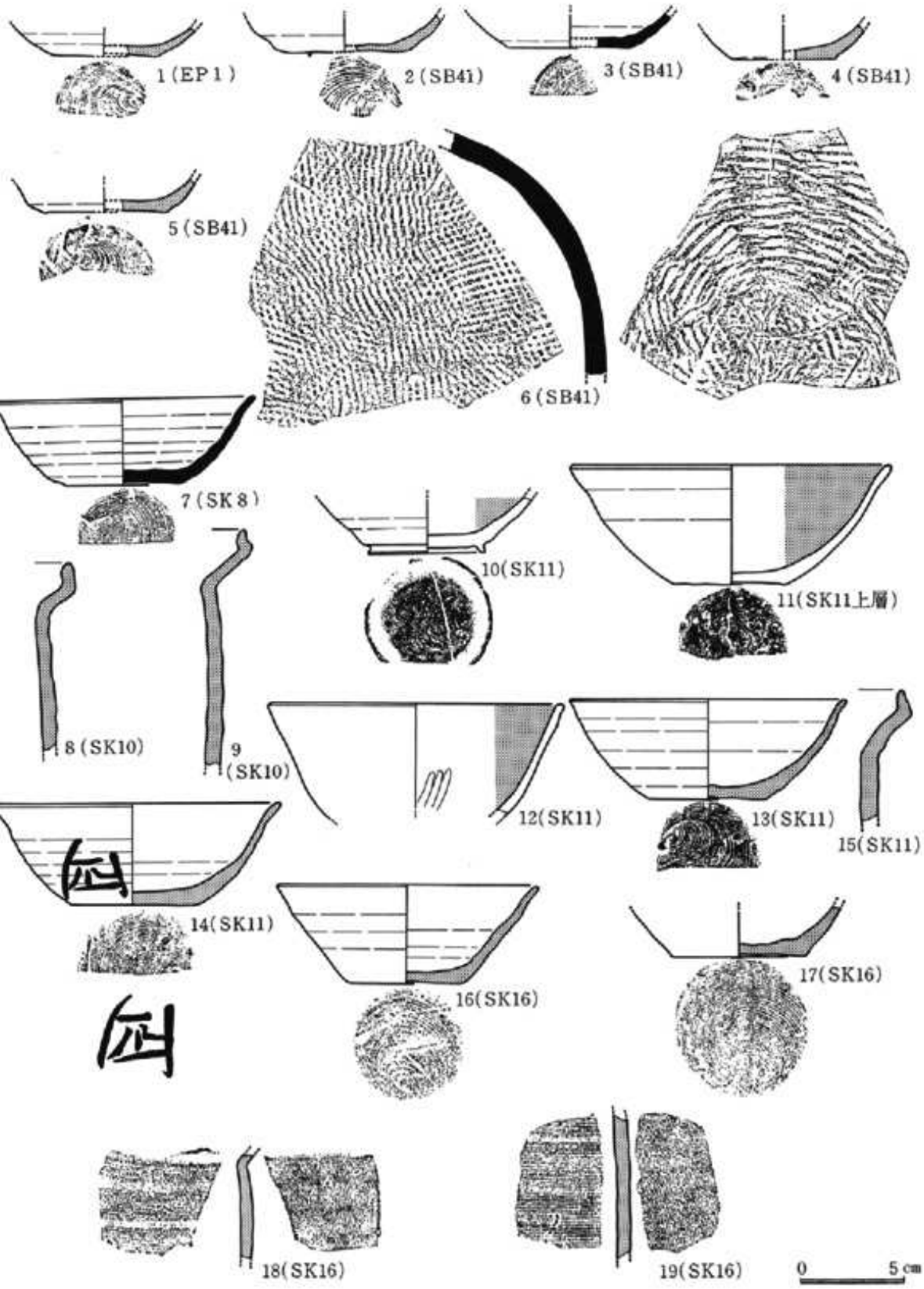
SK34
1 オリーブ黒色粘質土（7.5Y2/2）5㎝大の暗緑色ブロックを斑状に大量に含む。
2 オリーブ黒色粘質土（5Y3/1）粘性強。均質で他の土質はほとんど含まない。
3 黒色粘質土（7.5Y2/1）1に比し粘性強。暗緑色ブロックの量が少ない。

SK39
1 オリーブ黒色微砂（7.5Y3/2）5㎜大の炭化物を含む。しまっている。
2 灰オリーブ粘質微砂（7.5Y4/2）均質。炭化物を若干含む。

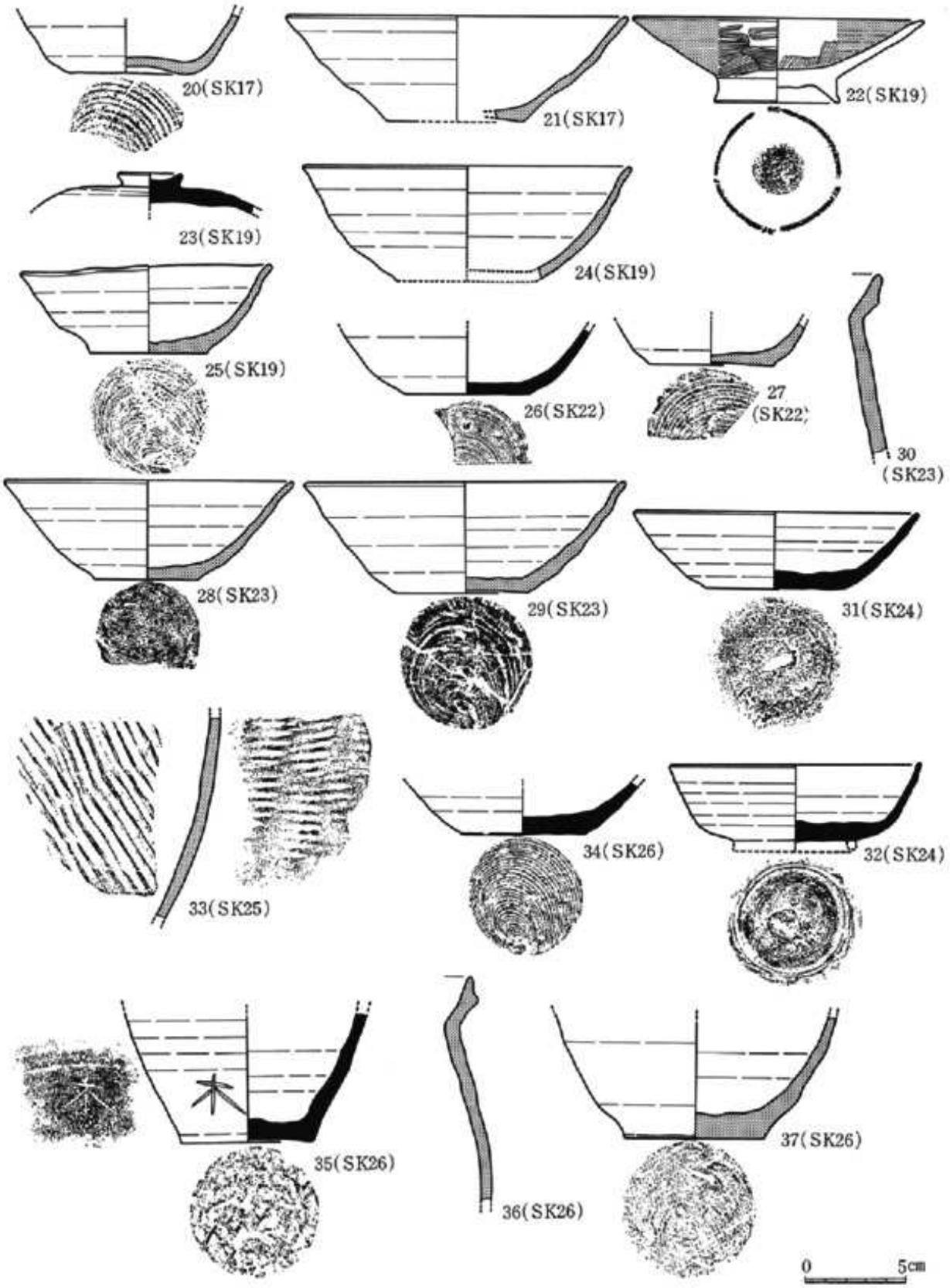
SK42
1 黒色微砂（10YR2/1）炭化物、5㎜大の黄灰色土ブロックを少量含む。
2 暗緑灰色粘質微砂（7.5GY4/1）均質。少量の炭化物を含む。

SK43
1 暗灰黄色微砂（2.5Y4/2）1～10㎜大の炭化物、少量の灰、2㎝大の地山ブロックを含む。
2 オリーブ黒色粘質土（10Y3/1）2㎝大の炭化物を含む。
3 オリーブ黒色粘質土（10Y3/1）炭化物をほとんど含まない。
4 暗緑色粘質土（7.5GY4/1）下層に1㎝大の炭化物を含む。

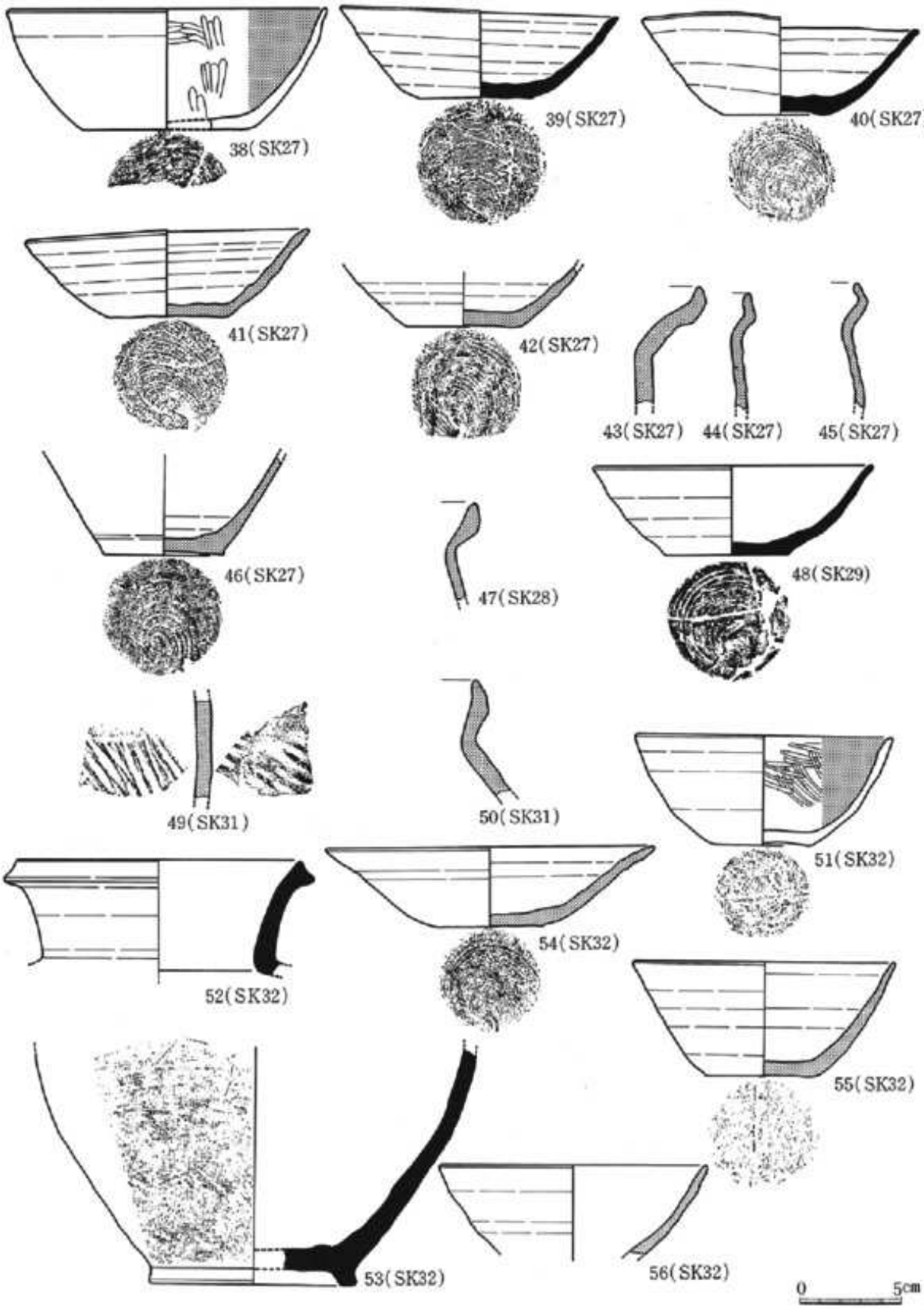
第24図　D地区土壙実測図(3)



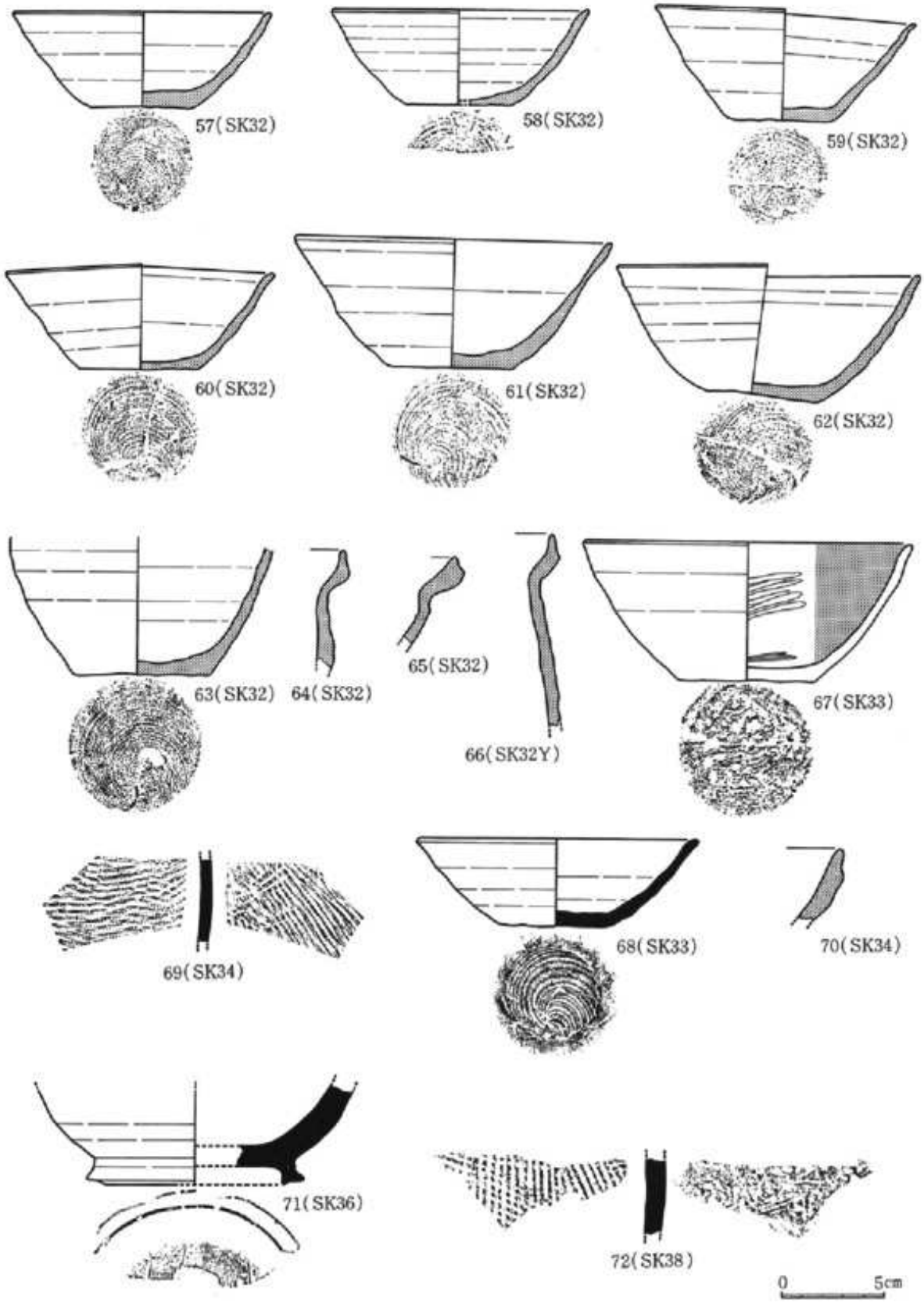
第26図　D地区出土遺物実測図(1)



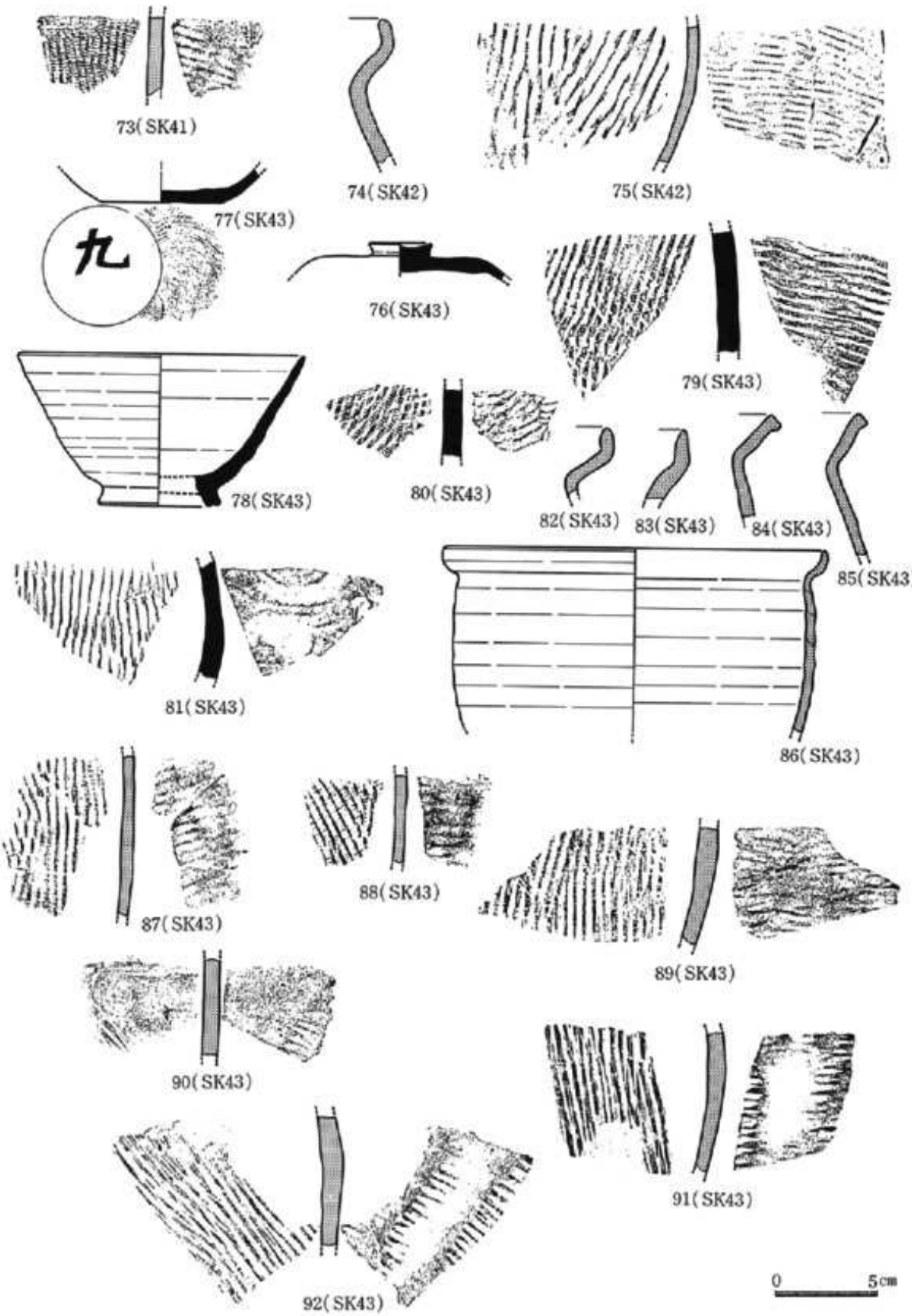
第27図　D地区出土遺物実測図(2)



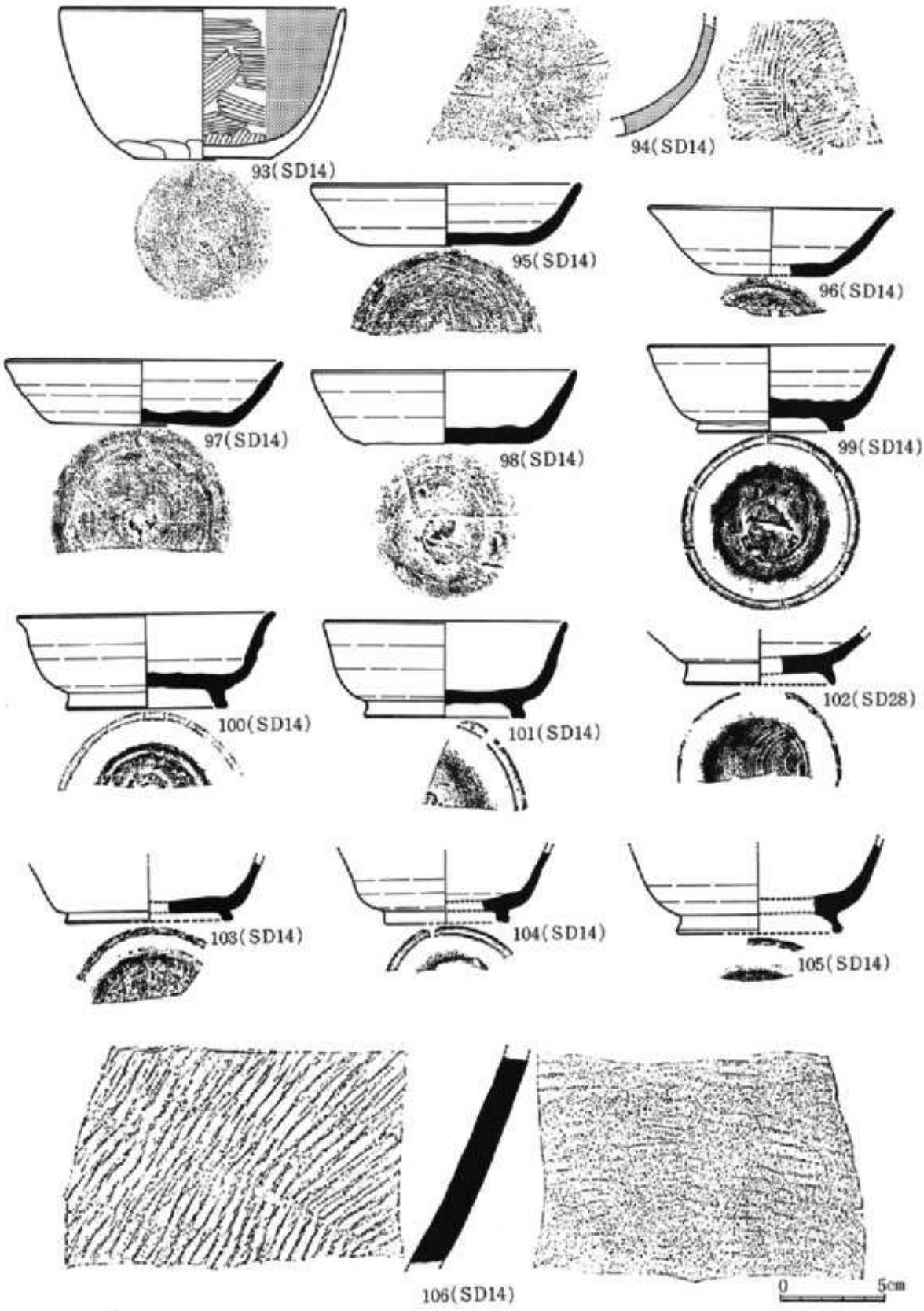
第28図　D地区出土遺物実測図(3)



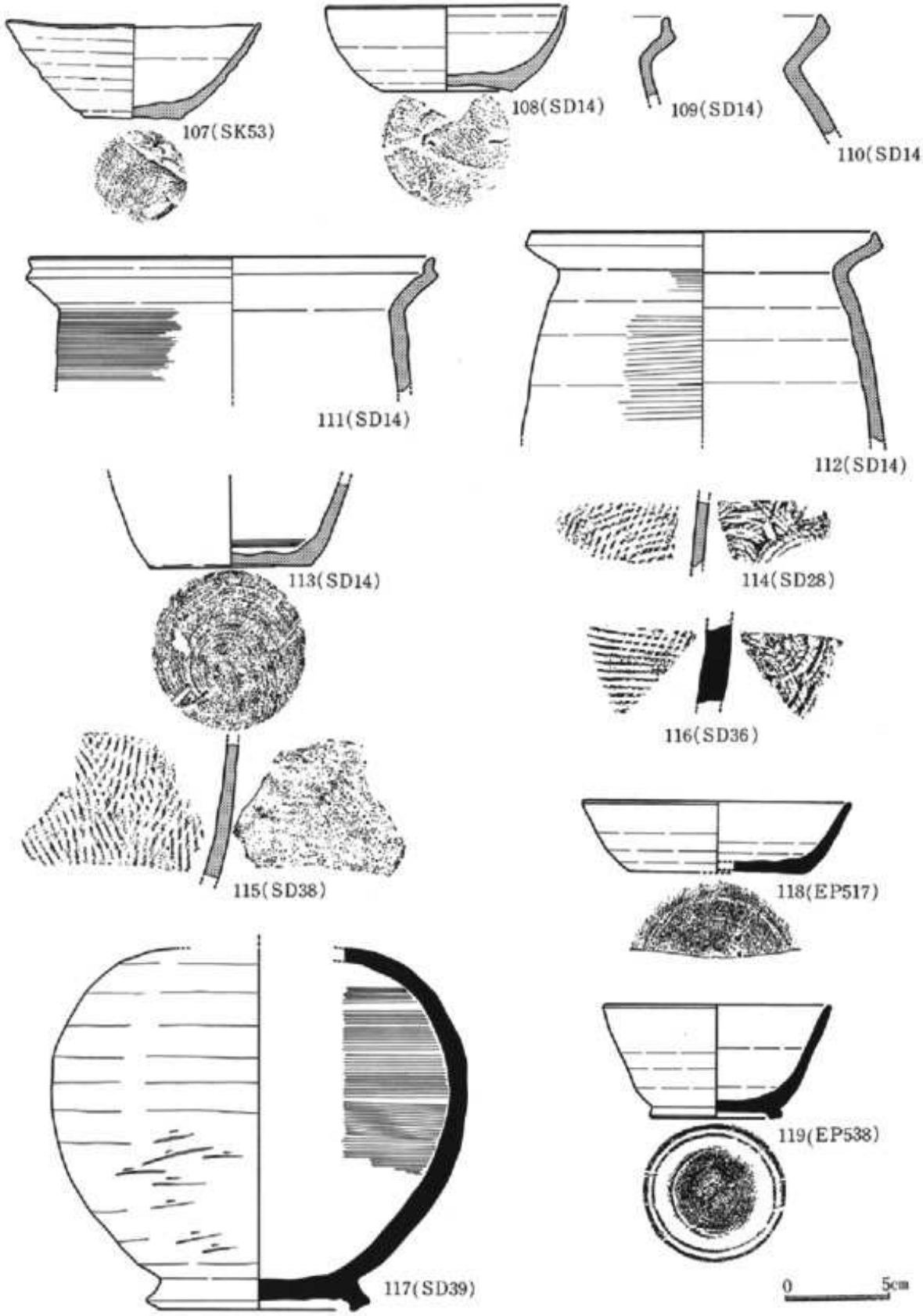
第29図　D地区出土遺物実測図(4)



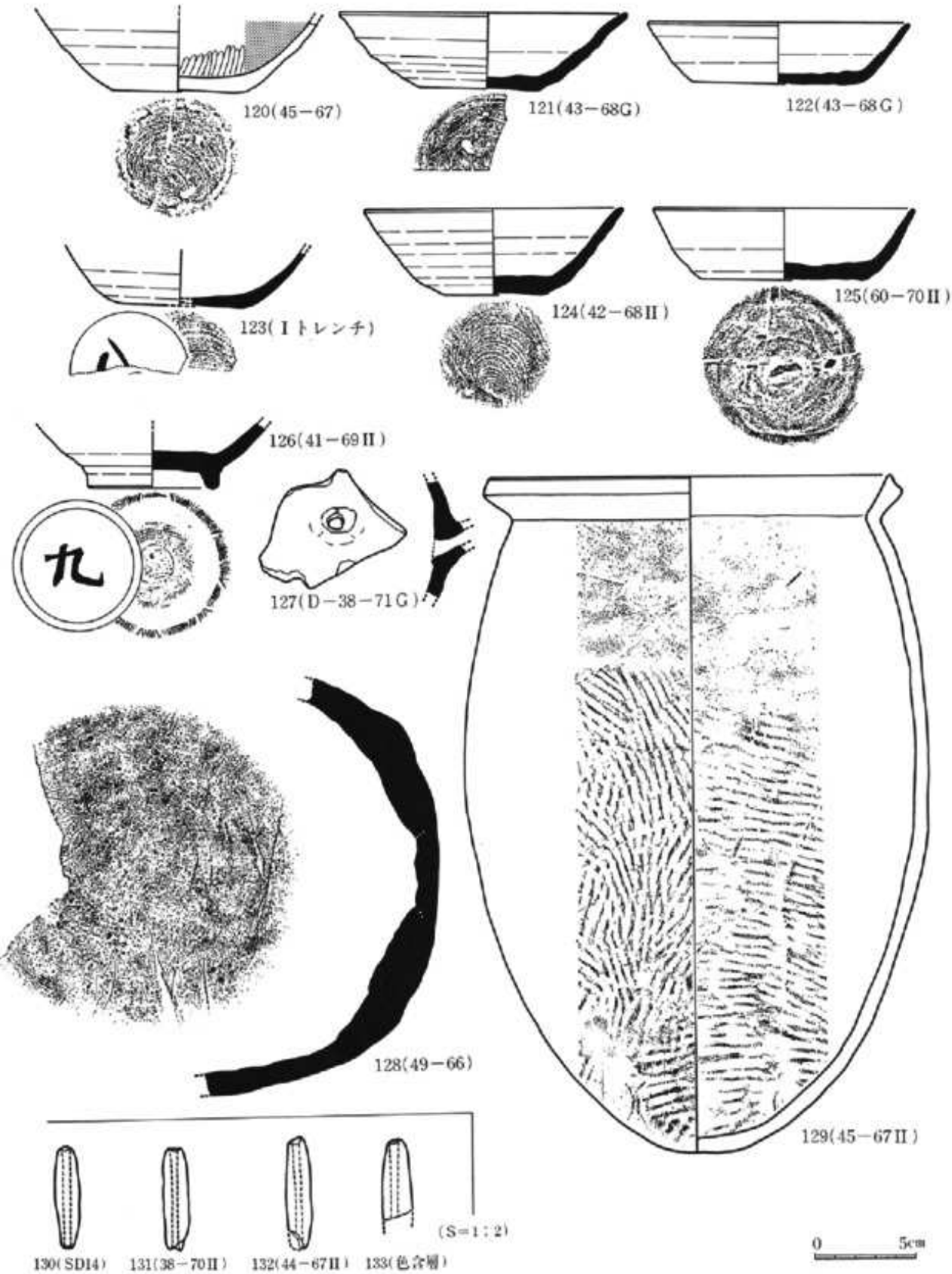
第30図　D地区出土遺物実測図(5)



第31図　D地区出土遺物実測図(6)



第32図　D地区出土遺物実測図(7)



第33図　D地区出土遺物実測図(8)

V　ま　と　め

1　遺物について

本遺跡からは古代の土器、土製品、石製品、木器等の他、中世陶器、近世以降の陶器が出土している。出土土器の総数は14,431点を数える。以下では、主に各地区の遺構出土の遺物を中心に分類する。分類は第34図～38図による。

1）土師器(I)

土師器には坏(A)、高台付坏(B)皿(C)がある。法量、器形等から細分される。

坏A・高台付坏Bはいずれもロクロ成形、内面黒色処理、ミガキ調整である。

A1類：底部切り離し後、調整を受ける。底部付近で手持ちヘラ削りによる調整がみられる。口径に比し底径が大きい。**A2類**：口径160㎜(以下㎜は略)、器高68と法量が大きい。底部に回転糸切り痕が明瞭に残る。**A3類**：器高が60とやや低い。底部から口縁へのひらきが大きい。**A4類**：口径125前後、器高60前後でA1～3類に比し法量が小さい。

B類　1点のみの出土。高台は低く、底部に回転糸切り痕を残す。ロクロ成形。

C類　内外面ミガキ、黒色処理が施される。ロクロ成形。

2）須恵器(II)

須恵器には坏(A)、高台付坏(B)、蓋(C)、甕(D)、甕(E)、横瓶(F)、注口土器(G)、硯(H)等の器種がある。F・G・Hを除く器種について法量、調整等から細分される。

坏A・高台付坏Bはそれぞれ底部切り離し手法の違いにより1類(回転ヘラ切り)、2類(回転糸切り)に分けられ、さらに法量・器形等で細分される。

坏A1類　a：口径152、底径106と法量が大きい。ケズリ等の再調整は行われない。b：口径120～145、器高36～40の範囲に入る。C地区－3は底部から口縁へやや直線的に立ち上がる。c：口径(130～145)に比し器高(30～34)が低い。底部から口縁へ直線的あるいはやや丸味をもって立ちあがる2種がある。d：口径130前後、器高40前後と、やや器高があり、底部から口縁へややひらき気味に立ち上がる。

高台付坏B1類　a：口径110に対し器高が52と高く直線的に立つ。口縁部の外反・内弯は顕著でない。b：口径120前後、器高45前後でaに比し低く、口縁が外反気味にひらく。C：数値的にはbに似る。底部から口縁へはやや内弯気味に立ち上がる。d：底部資料である。底径が85を越し法量は大きくなると思われる。e：器高が74と高く、径60の底部から直線的に大きくひらく。

坏A2類　a：口径140、器高40前後で底部からややひらきながら立ち上がる。器形はIIA1類dに似る。ケズリ等の再調整はみられない。

高台付坏B２類　底部資料のため全体の器形、法量は不明である。

蓋Cは、つまみ部の型態や切り離し面の形状・調整から大略２類に分けられる。

Ｃ１類　つまみの中央がやや突出し、天井部が平坦、身が深い。回転ヘラ切りによる切り離し痕をとどめる。

Ｃ２類　つまみの中央はやや突出する程度で身が浅い。天井部に回転ヘラ切りによる切り離し痕をとどめる。

壺Dは完形品の出土資料がないもののその口縁部～頸部形態、器形、調整等により細分される。なお、Ｄ１類ａ・ｂのD地区117、C地区21は外面に自然釉がかかる。

Ｄ１類　ａ：体部は球形に近い形状を呈する。体部下半にケズリによる調整がみられる。高台部が外に「く」字状に張り出す特徴を有する。ｂ：若干肩が張る。ａに比しやや長胴となる。高台部形態はａと共通する。

Ｄ２類　壺口縁部～頸部資料である。ａ：長頸壺。長い頸部から口縁が外反してひらき口縁を逆「く」字状に作り出し縁帯とする。ｂ：短頸壺。肩部からやや外反してひらく。口縁のつくりはａに似る。

Ｄ３類　体部下半～底部資料である。ロクロータタキーケズリ調整で、内面にはアテ痕、ハケ目調整がみられる。高台部がＤ２類と異なり「く」字状にならない。

甕Eは全体の器形が判明する資料はない。したがってタタキ・アテ等により分けられる。

Ｅ１類　外面が格子目風のタタキ、内面に同心円状のアテを有するもの。

Ｅ２類　内・外面とも格子目風あるいは平行のタタキ・アテを有するもの。

Ｅ３類　小形の甕で、タタキ等は認められない。

横瓶Fは米俵状の体部で、破片資料の中に「甕E」で分類して資料中にさらに含まれる可能性があるが器形が判明せず、抽出は難しい。外面はタタキ一カキ目、内面はアテ痕を有する。

注口土器Gは全資料中１点の出土である。破片資料のため全体の器形はうかがえないが、明らかに注口部を有する。ロクロ、内面に細かい横方向のハケ目様の調整がみられる。

３）あかやき土器(Ⅲ)

あかやき土器には、坏(A)、高台付坏(B)、Ⅲ(C)、甕(D)、堝(E)、の器種がある。量的には甕(堝は破片資料については分類時に器形が判明しないため甕へ入れた。)堝が多い。これらは、製作技法や口縁部形態から細分される。

坏Aはすべてロクロ使用、底部は回転糸切りによる切り離しである。体部の立ち上がり形態や法量から細分される。

Ａ１類　ａ：口径160・器高50～60と法量が大きい。体部はやや丸味をもって立ち上が

る。b類：法量はaと共通である。体部が直線的に立ち上がり口縁部でやや外反する。

A2類　口径130前後・器高45～55とA1類に比法量は小さくなる。a：体部がやや丸味をもって立ち上がる。b：体部が直線的に立ち上がり口縁部がやや外反する。c：体部が内弯しながら立ち上がる。d：体部中央に軽い稜が形成され、口縁部は外反する。

A3類　口径に比し器高が低い。法量は異なる。a：口径に比し底径が大きい。体部はやや内弯しながら立ち上がる。b：器高が著しく低く皿に近い器形となる。口径が底径に比し大きく、体部は外反しながら大きくひらく。c：口径、底径とも大きく法量は大きい。体部は直線的に立ち上がる。d：口径、底径とも小さく法量は小さい。体部下半ですぼまり結果的に稜を形成する。

高台付坏Bは図示した資料は1点、全体に占める量も極めて少ない。全体の器形は坏A3類Cに類似する。高台部はやや外側にめくれ、最終的な調整は行われない。

皿Cは図示した資料は1点、やはり全体に占める割合は少ない。

甕Dは完形品が少なく、破片資料が大半を占める。口縁部資料についても、口径を推定するのにやや不安の残る資料が多いためここでは法量よりは口縁部形態、体部の調整等により分類を行なう。1～4類は口縁部形態、5は体部の調整による細分である。これらの組み合せ等については後述する。なお、大型の甕完形品については6、7類として独立させて扱う。

D1類　頸部から口縁部へ「く」字状に屈曲する。口唇部のつまみ出しは顕著ではない。a：口唇部が内側に若干つまみ出される。b：口唇のつまみ出しは全くない。

D2類　くびれる頸部から体部が膨らみをもってひろがる。(体部上半が内弯して頸部へ接続する)1類も器形的にはこの類に属するが、口唇のつくりが大きく異なるため分離した。a：口唇部が内側あるいは直立気味に作り出される。b：頸部のくびれから口唇部までが短く、口唇のつまみ出しがさほど顕著でない。c：頸部の屈曲がやや緩やかで口唇のつまみ出しがみられない。

D3類　くびれる頸部からやや直線的に体部へと移行する(体部上半の内弯が少ない)。a：頸部のくびれから口唇までが長く、口唇が直立気味につまみ出される。b：頸部のくびれから口唇部まで短く、すぐ立ち上がる。小～中形の甕に多いと推測される。

D4類　頸部が「く」字状に屈曲し、口唇部のつくりが単調で外反しながらそのままひらく。

D5類　体部資料を一括する。いずれも外面タタキ・内面アテがあり、部位によりケズリ・ハケ目の調整もみられる。a：内面のアテが同心円を呈する。B地区13は甕体部上半でタタキ・アテと上方のハケ目が共存する。b：外面のタタキが格子目風、内面が主に横方向の平行のアテとなる。C：タタキをもつ甕の体部上半資料でロクロ—ハケ目となる。

これの下半資料として縦あるいは斜方向のタタキと横平行のアテの甕を一括する。d：丸底の甕底部資料。外面がタタキ、内面がアテ→ハケ目で調整される。D地区94は外面のタタキが調整により痕跡をとどめないものとみられる。

D6類　完形資料。丸底で体部が直線的、頸部から口縁部がやや外反しながらひらく。外面はタタキ→ケズリ→ハケ目、内面タタキ、ハケ目調整が施される。

D7類　完形資料。丸底で砲弾型を呈する。体部上半が内側面ともハケ目、下半～底部は内外面ともタタキがみられ、ケズリ等の調整は認められない。

壜Eのうち、全体の器形・調整等が明らかになるものはE1類(C地区23)のみである。口縁部形態により4類に細分される。

E1類　丸底になると思われる。体部下半～底部は外面タタキ・内面同心円状のアテ、体部中央から上がロクロ→ハケ目となる。外画は体部中央タタキ→ハケ目、その上部がケズリの調整がみられる。口縁部は、「く」字状に屈曲し、そのままひらく。

E2類　口縁部が肥厚し外にひらく。

E3類　口縁部～頸部の屈曲がなく、口唇がやや薄くなり内弯する。

E4類　口縁部～頸部の屈曲がなく、そのまま外へひらき気味に立つ。

4）中世陶器・近世陶器

量的には極めて少ない。珠洲系の甕体部片をIV群とした。全体で2点の出土である。近世陶器はA地区SK100に限られる。内外に釉が施される。V群として一括する。

2　遺構における土器組成について

遺物の量的あるいは器種的なまとまりをもつ遺構について、その出土土器の組成を概略的にみてみる。なお、ここで扱う資料は、主として本報告に図示したものが中心となったこと、遺構のもつ性格的な問題等による偏りがあるものもあり、必ずしも十分なものと言えないことを付記する。(表－2参照)

A地区　一括土器が出土したのはSK100に限られる。若干のまぎれ込みによる須恵器(坏底部ヘラ切り他)は認められるが、V群土器をその主体とする。

B地区　SK53はあかやき土器坏A類の出土が顕著である。出土土器総数485点のうちあかやき土器坏片が73%(あかやき土器片総数では96%)を占める。須恵器は3点と極めて僅少である。内面黒色処理の土師器坏も10点出土した。

C地区　SD3とSK7で組成をみる。SD3は出土土器総数141点のうち須恵器が71%(坏・ヘラ切り79%)あかやき土器28%と、圧倒的に須恵器の割合が多く、類別では須恵器坏IIA1類、IIB1類が主体を占めるようである。SK7はIID2a、IID1b、IIID6、IIIE1のセットがみられ、SD3と同様、本遺跡のI期にあたる土器組成をもつ。

D地区　表－2では、18基の遺構について取り上げたが、ここでは、出土点数(一括性の高いもの)の多い遺構及び土器組成に特徴のある遺構について絞り記述する。

SK10はあかやき土器が86%を占め、須恵器は1%に満たない。須恵器坏はⅡA2類、あかやき土器坏はⅢA類(復元不能)が多く、同甕はⅢD3類が主体を占める。SK11は85%があかやき土器、分類可能な資料では甕ⅢD2a、ⅢD5c、須恵器ⅡA2aが共伴する。SD14は出土総類264点のうち須恵器が19%、あかやき土器が80%の割合である。須恵器は坏、高台付坏ともすべてヘラ切りのⅡA1類、ⅡB1類に限られる特色をもつ。共伴する須恵器甕E2類、あかやき土器坏ⅢA2類、甕ⅢD1・2・3・5のうちⅢD5類d(丸底・内面ハケ目)が特徴的である。SK16は総数301点のうちあかやき土器を占める割合は87%と高い。図示した資料ではあかやき土器坏ⅢA2類b、同ⅢD5類cに限られる。須恵器との関係では、破片資料だがⅡA2類と共伴するようである。SK19は出土総数47点のうち、あかやき土器83%、土師器17%と他の遺構に比し土師器の占める割合が高い。分類では土師器高台付坏ⅠB類、須恵器蓋ⅡC2類、あかやき土器坏ⅢA1類a、同A3類dと共伴する。SK27は出土総数203点のうち、須恵器10%、あかやき土器88%、土師器2%の割合がみられる。須恵器は破片資料ながら坏ⅡA2類、あかやき土器坏ⅢA3類a、同甕ⅢC2類c、同ⅢC3類bと共伴する。SK32は土器総数121点で、須恵器8%、あかやき土器90%、土師器2%の割合を示す。図示資料あるいは破片資料の共伴関係は須恵器坏ⅡA2類、あかやき土器坏ⅢA1類a、同A2類a・b、同ⅢA3b、同甕ⅢD2a、鍋ⅢE2類が認められる。

3　遺物の変遷と年代

庄内における古代土器については近年の発掘調査例の増加に伴い活発に行なわれている。ここでは紙数の制限から、現在までに想起されている成果を踏まえ、大方の年代を示したい。

本遺跡の出土土器は古代については概ね2期に分けられる。すなわち土師器では坏をみた場合、法量が大きく内弯気味に立ち上がり、底部～体部に手持ちヘラ削りによる調整を受けるIA1類がSD14で須恵器坏ヘラ切り無調整のⅡA1類と共伴しており本遺跡では最も古い段階の資料といえる。庄内地方では、俵田遺跡第Ⅳ層出土の土器群、新田目城出土の須恵器坏等の検討により奈良時代に遡上する土器の存在が確実となっている。時期的には奈良時代中葉(8世紀中葉)とする見解(阿部・1985)に従えば、これらに型式的に後続する(直続ではない)と考えられる本遺跡の古い段階の土器群の年代は奈良時代後葉～平安時代初頭(8世紀末葉～9世紀初頭)の時期が相当と考えられよう。遺構内の遺物組成によれば、C地区SD3・SK7、D地区SD14出土の土器群およびこれらと分類を同じくする資料

表－2　主要遺構内土器組成

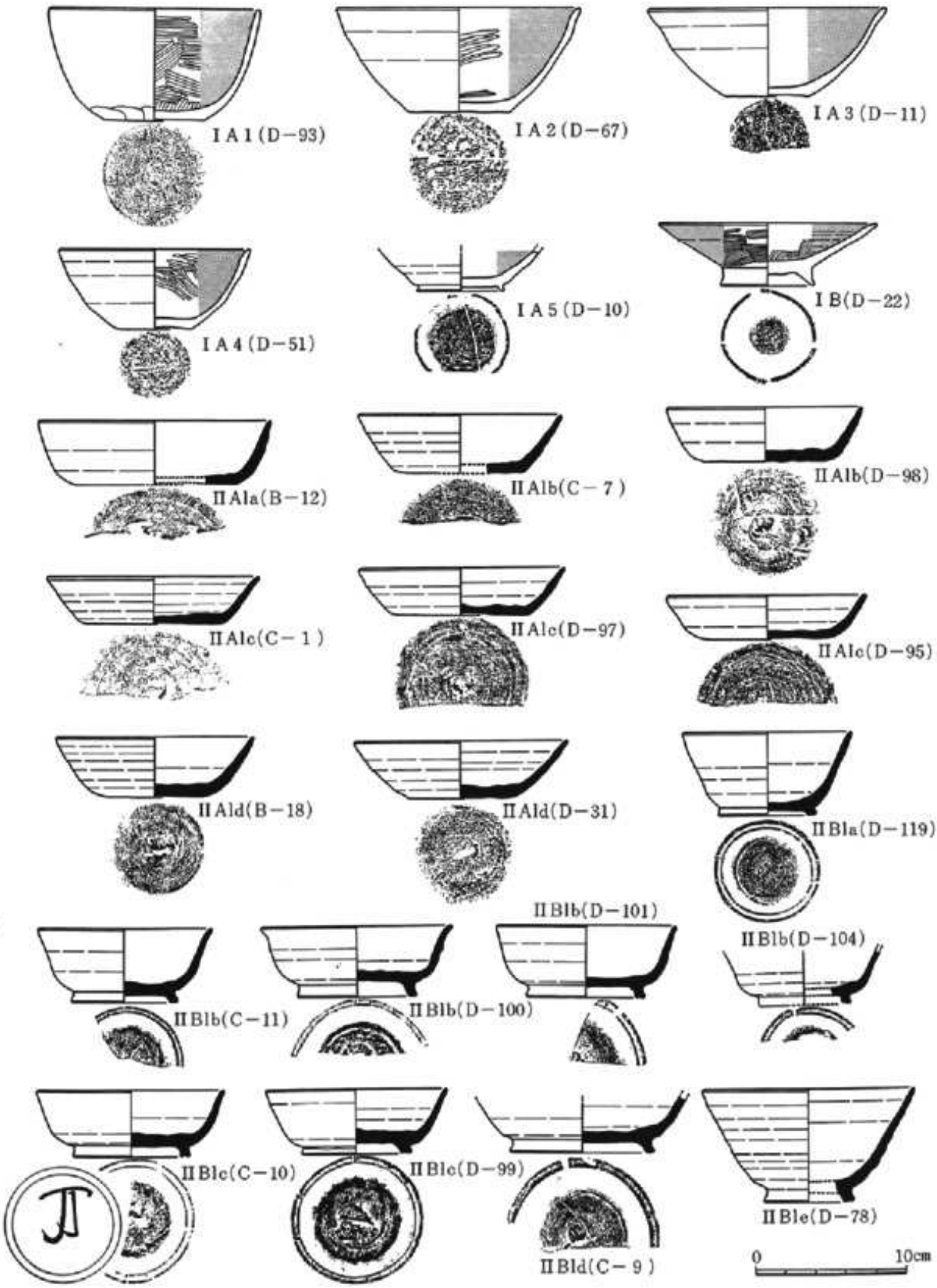
種別		I (土師器)							II (須恵器)																							III (あかやき土器)																												IV	V
器種		A					B	C	A						B						C		D					E				A										B	C	D												E					
類別		1	2	3	4	5			1				2		1					2	1	2	1		2		3	1	2	3	4	1		2				3						1		2			3		4	5				1	2	3	4		
地区	遺構								a	b	c	d	a		a	b	c	d	e				a	b	a	b						a	b	a	b	c	d	a	b	c	d			a	b	a	b	c	a	b		a	b	c	d						
A	SK100																																																										●
B	SK53												●																			●	●	●			●																							
C	SD 3									●	●		●			●	●	●													●															●			●	●					●						
〃	SK 7																							●	●																														●						
D	SB41-EP													●															●																																
〃	SK10																																															●	●										
〃	SK11																															●		●												●															
〃	SK16																																		●																			●							
〃	SK17																																							●																					
〃	SK19						●															●										●									●																				
〃	SK22													●																																															
〃	SK23																															●						●									●														
〃	SK24											●					●																																												
〃	SK26													●																																●															
〃	SK27												●																									●										●		●											
〃	SK31																																														●							●							
〃	SK32																								●	●					●		●	●				●							●										●						
〃	SK33												●																																																
〃	SK34																												●	●																												●			
〃	SK42																																															●						●							
〃	SK43													●					●			●						●	●																●			●		●			●	●							
〃	SD14	●								●	●	●				●	●	●											●					●		●								●		●			●						●						

で、分類による、IA1、IIA1、IIB1(eは除く)、IID1、IIE1、IIE4、IIIA2c、IIID1、IIID2a、IIID3a、b、IIID5d、IIIE1の各類がこれに当たる。この中で特徴的な資料は、あかやき土器IIID1a、b、IIID5d、IIID6、IIIE1である。すなわち、あかやき甕の中で頸部が「く」字状となり口唇がつまみ出されたり、立ったりしないもの、底部が丸底で内面に刷毛目の調整を施すもの、場で頸部～口唇が前述IIID1abと共通性をもつものの存在である。これらは須恵器坏IIA1類とセットで出土しており(SK3・SD14等)、須恵器・あかやき土器の共伴関係を示す良好な資料といえよう。以上を本遺跡のI期とすれば、II期は以下のセットで示される。主としてSK32出土の土器を基準にし、他の遺構との関連も併わせてみれば、概ね、IIA2a、IIC2、IID2a・b、IID3、IIIA1a・b、IIIA2a・b、IIIA3a・b・d、IIIE2・3が、さらに庄内地方の土器編年に併わせればIA2～5、IIID7等がII期と考えられる。時期的には、須恵器坏がヘラ切りから糸切りへと主体が移り、遺構内におけるあかやき土器の割合が急増する様相を呈すること等も合わせ年代幅はやや大きくとって9世紀後葉～10世紀前半代ととらえておく。なお、各期に入らないI・II・III群土器の類別は、土器組成と遺構との関連、あるいは破片資料のため全体の器形が判然としない等の事由で意識的にはずした。

4 総 括

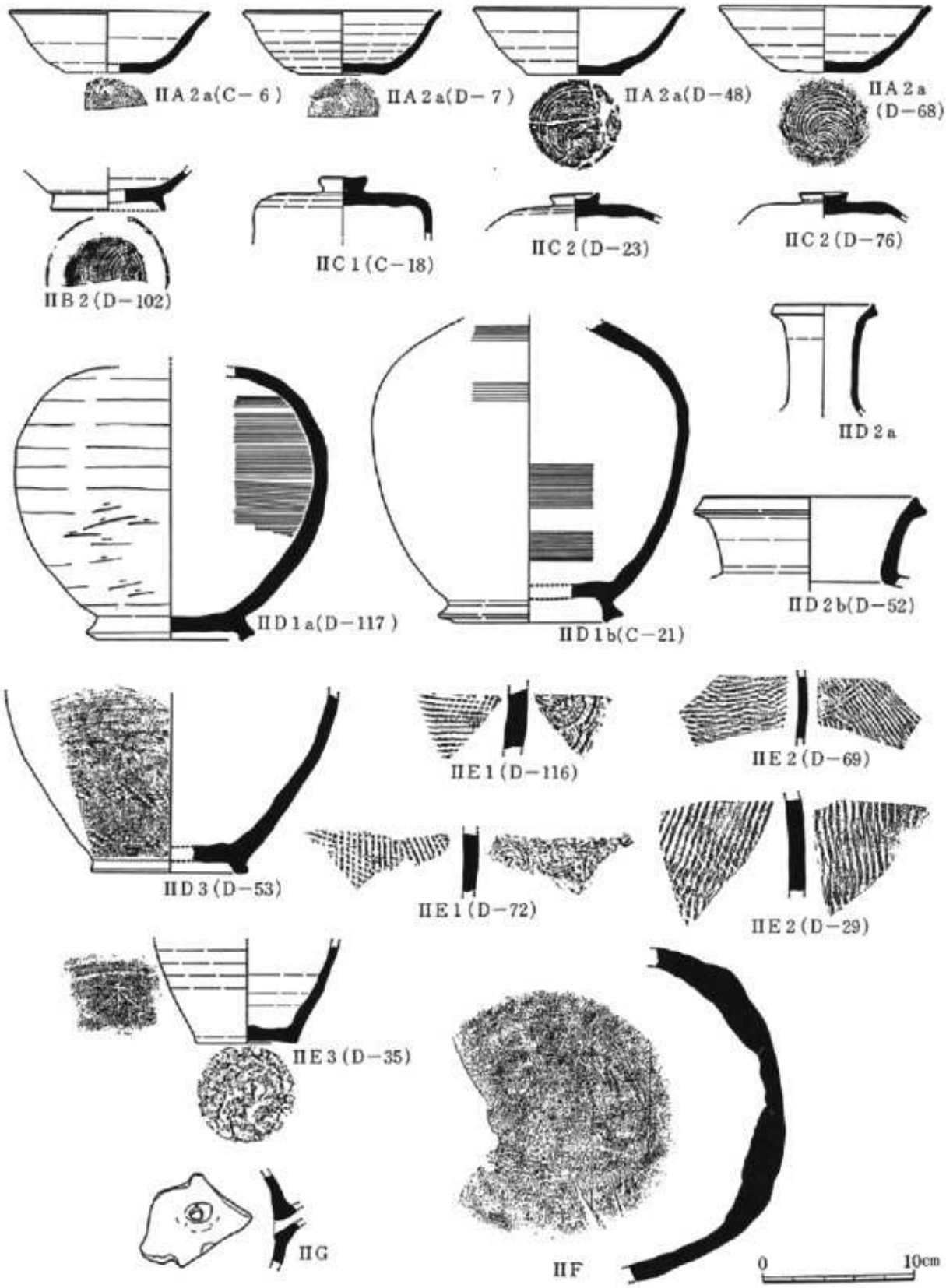
本報告では、主に遺構内出土土器を中心に取り上げ、分類・組成をみた。遺構自体についての考察は紙数の都合上省かざる得ないが、本文で既述のとおり、古代の遺物は2時期に分けられた。すなわち、I期：8世紀末葉～9世紀初頭、II期：9世紀後葉～10世紀初頭である。I期に属する遺構はSD3・SK7・SD14、その他の遺構はII期に属するものと思われる。I期はC・D地区でのみ検出され、この意味で、I期の遺跡の在り方がうかがえる。また、中世以降は特にA地区に関連遺構が認められ、現在の桜林興野集落の成立を考える上で興味深い。

今回の調査は、古代律令制下における村落の一部を調査したものと思われるが、城輪柵跡成立とされる9世紀前半よりやや遡ると考えられる時期に本遺跡のI期があたる。このことは古代村落の在り方、あるいは城輪柵創建と周辺遺跡の在り方、さらには、II期をも含め、古代出羽国飽海郡衙擬定地が本遺跡に隣接する点などを併わせれば興味深い問題を内在するものといえる。今回は、直接的に郡衙に関連する要素は認められないものの、来年度以降本地域の発掘調査が予定されており、その進展、成果等により、新たな展開も予想される。本報告書が、今後の研究の基礎的データとなれば幸いである。

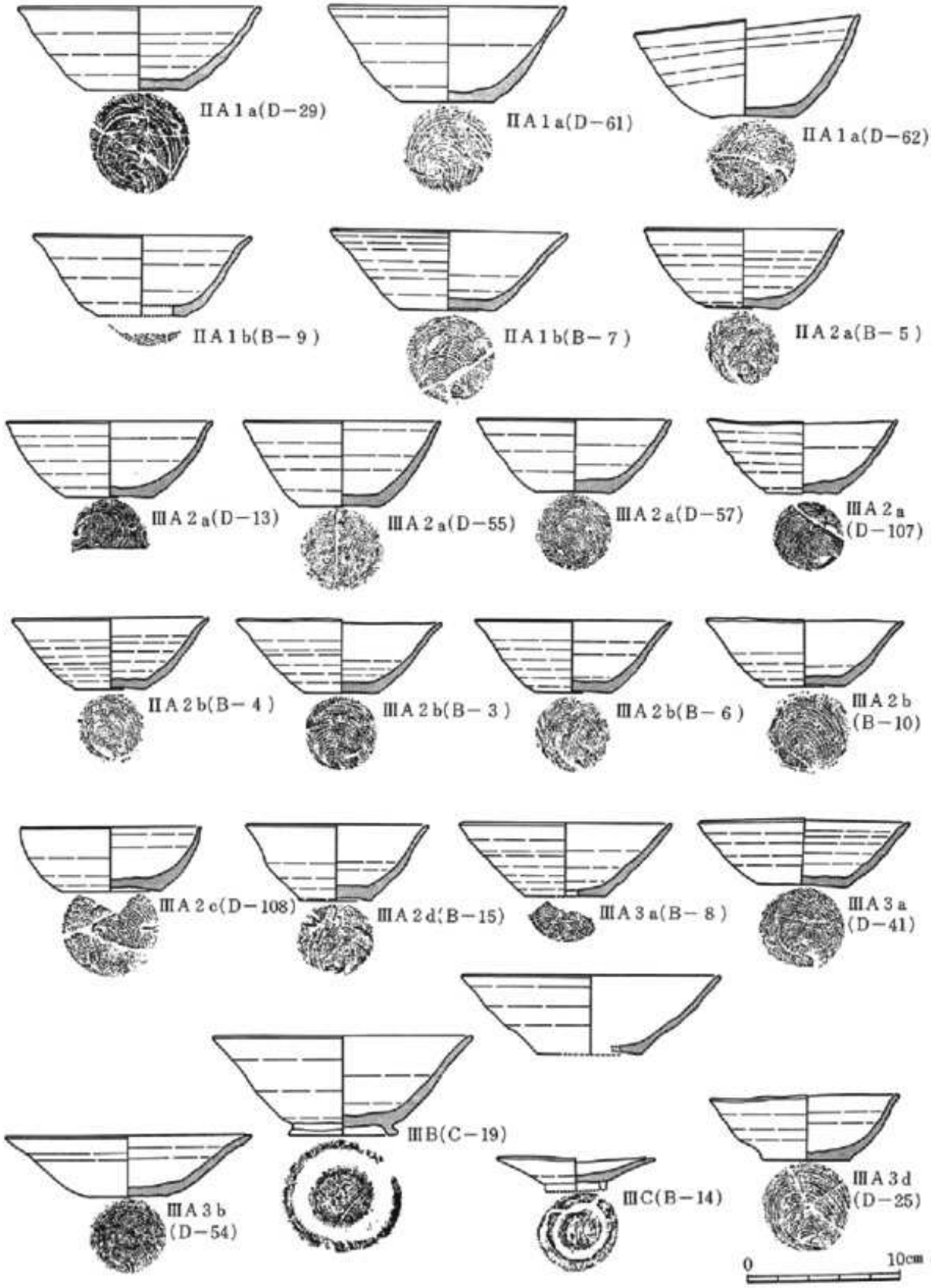


例：(D−93)はD地区出土遺物挿図番号を示す。

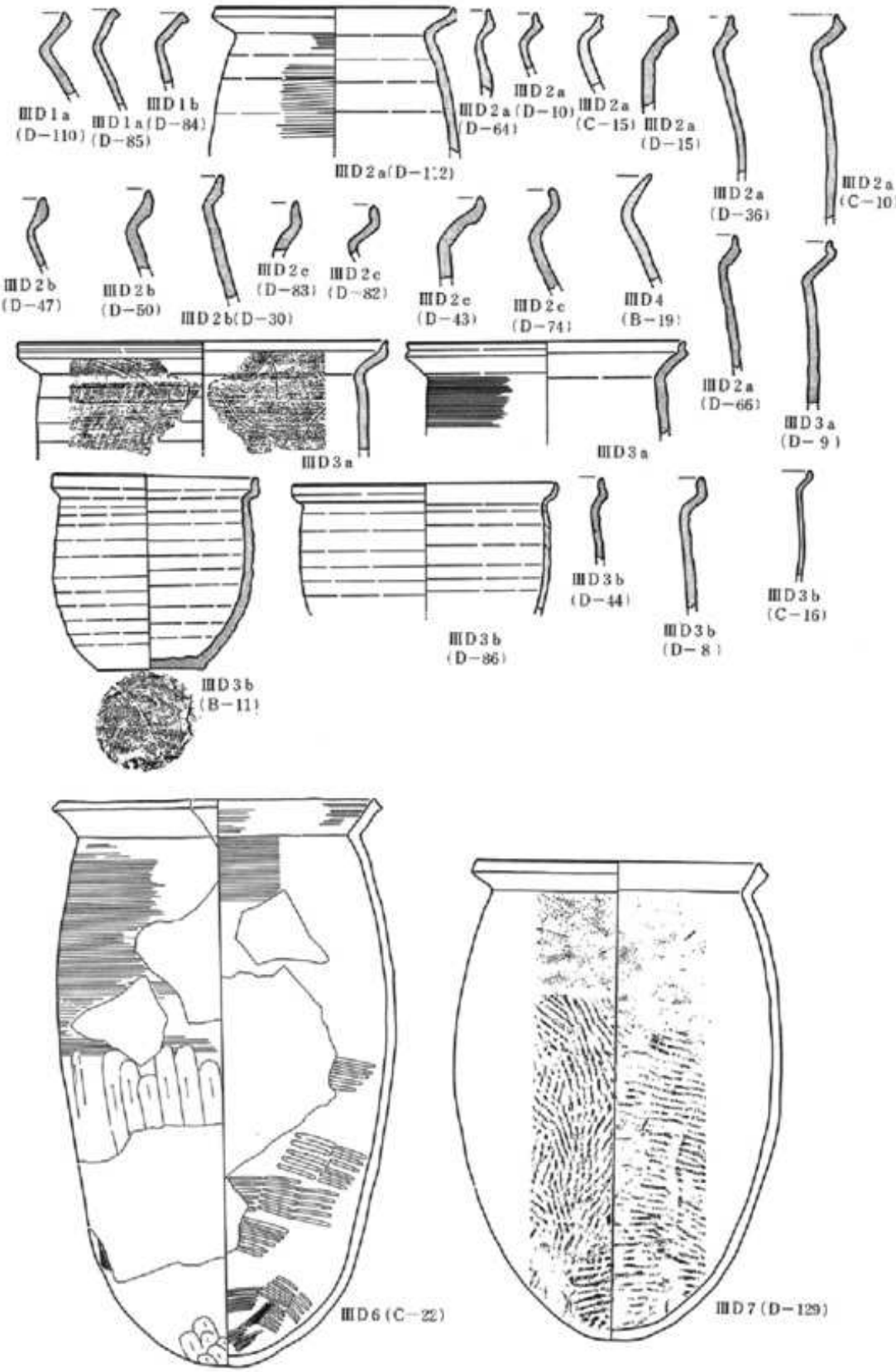
第34図　土器分類図(1)


ⅡA 2a(C－6)
ⅡA 2a(D－7)
ⅡA 2a(D－48)
ⅡA 2a (D－68)
ⅡB 2 (D－102)
ⅡC 1 (C－18)
ⅡC 2 (D－23)
ⅡC 2 (D－76)
ⅡD 2a
ⅡD 1a(D－117)
ⅡD 1b(C－21)
ⅡD 2b(D－52)
ⅡD 3 (D－53)
ⅡE 1 (D－116)
ⅡE 2 (D－69)
ⅡE 1 (D－72)
ⅡE 2 (D－29)
ⅡE 3 (D－35)
ⅡG
ⅡF
0
10cm

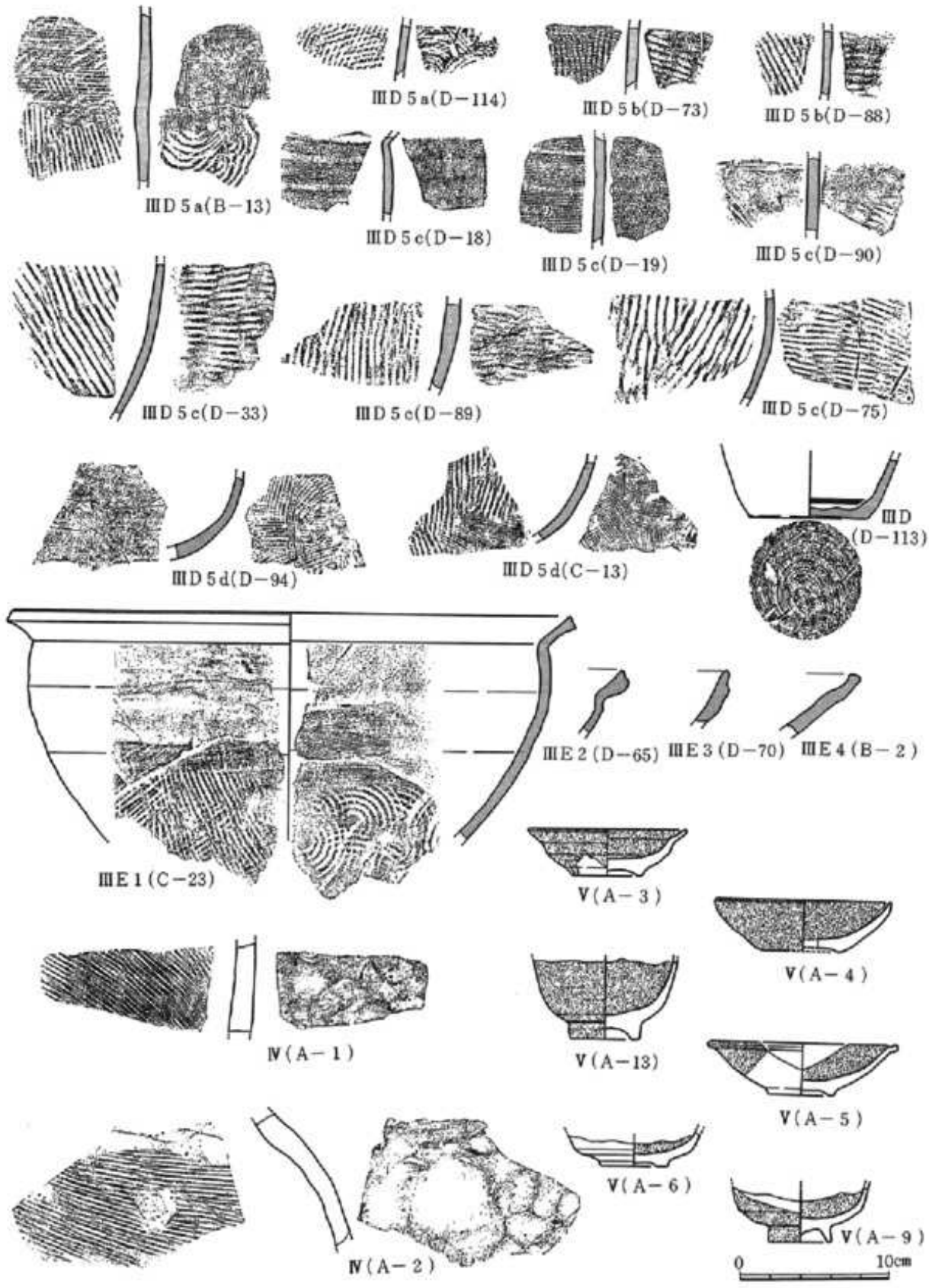
第35図　土器分類図(2)


IIA1a(D−29)
IIA1a(D−61)
IIA1a(D−62)
IIA1b(B−9)
IIA1b(B−7)
IIA2a(B−5)
IIIA2a(D−13)
IIIA2a(D−55)
IIIA2a(D−57)
IIIA2a
(D−107)
IIA2b(B−4)
IIIA2b(B−3)
IIIA2b(B−6)
IIIA2b
(B−10)
IIIA2c(D−108)
IIIA2d(B−15)
IIIA3a(B−8)
IIIA3a
(D−41)
IIIB(C−19)
IIIA3b
(D−54)
IIIC(B−14)
IIIA3d
(D−25)
0
10cm

第36図　土器分類図(3)


ⅢD1a (D−110)
ⅢD1a (D−85)
ⅢD1b (D−84)
ⅢD2a (D−64)
ⅢD2a (D−10)
ⅢD2a (C−15)
ⅢD2a (D−15)
ⅢD2a (D−36)
ⅢD2a (C−10)
ⅢD2a (D−12)
ⅢD2b (D−47)
ⅢD2b (D−50)
ⅢD2b (D−30)
ⅢD2c (D−83)
ⅢD2c (D−82)
ⅢD2c (D−43)
ⅢD2c (D−74)
ⅢD4 (B−19)
ⅢD2a (D−66)
ⅢD3a (D−9)
ⅢD3a
ⅢD3a
ⅢD3b (D−44)
ⅢD3b (C−16)
ⅢD3b (D−86)
ⅢD3b (D−8)
ⅢD3b (B−11)
ⅢD6 (C−22)
ⅢD7 (D−129)

第37図　土器分類図(4)


ⅢD 5a(B−13)
ⅢD 5a(D−114)
ⅢD 5b(D−73)
ⅢD 5b(D−88)
ⅢD 5c(D−18)
ⅢD 5c(D−19)
ⅢD 5c(D−90)
ⅢD 5c(D−33)
ⅢD 5c(D−89)
ⅢD 5c(D−75)
ⅢD 5d(D−94)
ⅢD 5d(C−13)
ⅢD (D−113)
ⅢE 1 (C−23)
ⅢE 2 (D−65)
ⅢE 3 (D−70)
ⅢE 4 (B−2)
Ⅴ(A−3)
Ⅴ(A−4)
Ⅳ(A−1)
Ⅴ(A−13)
Ⅴ(A−5)
Ⅴ(A−6)
Ⅳ(A−2)
Ⅴ(A−9)
0
10cm

第38図　土器分類図(5)

表－3　A地区出土遺物観察表

挿図	遺物番号	器種		計測値(mm) 口径	底径	器高	底部切離	調整技法	色調	出土地点	分類	RP番号	備考
第7図	1	珠洲系陶器	甕					タタキ	オリーブ灰 N5	SK95	IV		
	2							タタキ	灰オリーブ 7.5Y5/1	84-107II	IV		
	3	陶器	III	108	45	30		ロクロ	釉 灰褐7.5YR5/2 地 にぶい橙2.5YR6/3	SK100Y	V		施釉
	4		椀	114	53	38		〃	釉 (外)10YR2/3・(内)7.5YR2/1 地 黒10YR1.7/1	〃	V		〃
	5		III		44	34		〃	釉 灰白N81 地 7.5YR5/4	〃	V		〃
	6		碗		45	(72)		〃	釉 緑灰7.5GY6/1 地 にぶい橙7.5YR6/3	〃	V		〃
	7				41	(30)		〃	釉 灰黄2.5Y7/2 地 明褐灰7.5YR7/2	〃	V		〃
	8				41	(23)		〃	釉 明オリーブ灰2.5GY7/1 地 灰5Y6/	〃	V		〃
	9				41	(09)		〃	釉 明オリーブ灰5GY7/1 地	〃	V		〃
	10				43	(29)		〃	釉 灰白2.5GY8/1 地 にぶい橙7.5YR7/4	〃	V		〃
	11		皿		62	(32)		〃	釉 灰白2.5GY8/1 地 にぶい橙7.5YR5/3	〃	V		〃
	12		碗		54	(52)		〃	釉 明赤灰2.5YR7/1 地 にぶい黄橙10YR7/4	〃	V		〃
	13				44	(32)		〃	釉 明緑灰7.5GY7/1 地	〃	V		〃
	14	石製品	有孔	厚さ 69	幅 43		厚さ 11						
第8図	15	木製品	下駄	全長 225	幅 139		厚さ 27						
	16		曲物底部	径 (55)	厚さ 16								

表－4　B地区出土遺物観察表

挿図	遺物番号	器種		計測値(mm) 口径	底径	器高	底部切離	調整技法	色調	出土地点	分類	RP番号	備考
第12図	1	あかやき土器	坏	139	57	33	糸切り	ロクロ	浅黄橙 7.5YR8/6	SB60-11	IIIA2		
	2		塊			(42)		〃	にぶい橙 7.5YR7/3	〃	IIIE4		
	3		坏	131	47	47	糸切り	〃	浅黄橙 7.5YR8/6	SK53	IIIA2b	82	
	4			124	44	46	〃	〃	浅橙 5YR8/3	〃	IIIA2b	81	
	5			127	47	51	〃	〃	にぶい橙 7.5YR7/4	〃	IIIA2a	83	
	6			125	48	47		〃	浅赤橙 2.5YR7/4	〃	IIA2a	84	
	7			152	60	51	糸切り	〃	赤橙 10R6/6	〃	IIIA1b		
	8			136	53	47	〃	〃	浅橙 5YR8/4	〃	IIIA3a		
	9			140	(72)	(52)	〃	〃	橙 5YR7/6	〃	IIIA1b		
	10			127	49	45	〃	〃	浅橙 5YR8/4	SK53F-3	IIIA2b		
	11		甕	154	75	139	〃	〃	浅黄橙 10YR8/3	SK58	IIID3b	87	
	12	須恵器	坏	150	100	41	ヘラ切り	〃	浅黄橙 7.5YR8/3	SK67F	IIA1a		
	13	あかやき土器	甕					外面 ロクロ-タタキ-ハケ目 内面 ロクロ-アテ-ハケ目	浅黄橙 7.5YR8/4	〃	IIID5a		体部資料
第13図	14	あかやき土器	III	102	40	19	糸切り	ロクロ	浅黄橙 7.5YR8/6	EP610F	IIIC		高台部欠損
	15		坏	118	46	49	〃	〃	浅黄橙 10YR8/3	EP624F	IIIA2d		
	16			119	60	43	〃	〃	浅黄橙 7.5YR8/3	EP627F	IIIA2b		
	17				48	(37)	〃	〃	浅橙 5YR8/4	EP643F	IIID		底部ヘラ描(X)
	18			129	62	39		〃	灰白 7.5YR8/2	EP653	IIA1d		
	19		甕						灰白 7.5YR8/2	EP655F	IIID4		
	20	須恵器	円面硯					ロクロ	灰白 N7	包含層	IIH		
	21							〃	灰白 7.5Y8/1	〃	IIH		
	22							〃	〃	〃	IIH		

凡 例

1 本表は、本報告書に図示した遺物についてまとめたものである。
2 挿図・遺物番号は本文及び図版と一致する。
3 計測値はmm、( )は現存値を示す。
4 調整技法は、明確に観察し得るものについて記載した。
5 色調は、各遺物で最も特徴的な色調を基準とした。標準土色帖による。
6 分類は第Ⅴ章にその基準を示した。
7 RP番号は、現場で登録したNoである。

表－5 C地区出土遺物観察表

挿図	遺物番号	器種		計測値(mm) 口径	底径	器高	底部切離	調整技法	色調	出土地点	分類	RP番号	備考
第17図	1	須恵器	坏	137	90	31	ヘラ切り	ロクロ	灰白 2.5Y8/1	SD3	IIA1c	5	
	2			127	91	34	〃	〃	灰白 10Y8/1	〃	IIA1b	6	
	3			143	92	36	〃	〃	灰白 7.5Y8/1	〃	IIA1b	10	
	4			138	74	36	〃	〃	灰白 7.5YR8/1	〃	IIA1b	9	
	5			119	76	37	〃	〃	灰白 N8	〃	IIA1b	9	
	6			127	54	40	〃	〃	浅黄 2.5Y8/3	〃	IIA2a		
	7			132	(70)	38	〃	〃	灰白 7.5Y8/1	〃	IIA1b	14	
	8			142	102	30	〃	〃	明オリーブ灰 2.5GY7/1	〃	IIA1c	8	
	9		高台付坏		92	(36)	〃	〃	灰白 N8	〃	IIB1d	16	
	10			122	75	43	〃	〃	灰白 7.5Y8/1	〃	IIB1c	13	墨書(万)
	11			113	68	48	〃	〃	灰白 N7	〃	IIB1b		
	12		甕		85	(34)	〃	〃	灰白 5Y8／1	〃	IIE4	15	
	13	あかやき土器	甕					外面 タタキ→ハケ目 内面 アテ→ハケ目	橙 5YR6/6	〃	IIID5d		丸底
	14					(72)		外面 ロクロ→タタキ→ハケ目 内面 ロクロ→アテ→ハケ目	橙 2.5YR7/6	〃	IIID3a	18	
	15					(50)		外面 ロクロ→ハケ目 内面 不明	浅黄 2.5Y8/3	〃	IIID2a		
	16					(72)		外面 ロクロ→ハケ目 内面 ロクロ→ハケ目	にぶい黄橙 10YR7/3	〃	IIID3b	4	内面に炭化物付着
	17					(102)		外面 ロクロ→タタキ→ハケ目 内面 ロクロ→アテ→ハケ目	浅黄 2.5Y8/3	〃	IIID2a	17	
第18図	18	須恵器	蓋			(44)	ヘラ切り	ロクロ	灰白 N7	58-69II	IIC1		
	19	あかやき土器	坏	167	70	63	〃	〃	浅黄橙 10YR8/3	58-72II	IIIB		
	20	須恵器	壺	69		(46)		〃	灰白 7.5Y7/1	SK7	IID2a	3	
	21					(162)		〃	灰 10Y4/1	〃	IID1b		
	22	あかやき土器	甕	222		394		外面 ロクロ→タタキ→ケズリ 内面 ロクロ→アテ	にぶい黄橙 10YR7/3	〃	IIID6	2	
	23		鉢	169		(145)		外面 ロクロ→タタキ→ケズリ 内面 ロクロ→アテ→ハケ目	浅黄橙 7.5YR8/4	〃	IIIE1	1	炭化物付着

表－6　D地区出土遺物観察表（1）

挿図	遺物番号	器種		計測値(mm) 口径	底径	器高	底部切離	調整技法	色調	出土地点	分類	RP番号	備考
第26図	1	あかやき土器	坏		(69)	(34)	糸切り	ロクロ	浅黄橙 7.5YR8/3	SB41 EP1	IIIA		
	2				58	(17)	〃	〃	(外)褐灰10YR6/1 (内)にぶい橙5YR7/4	SB41 EP2	IIIA		
	3	須恵器		96	60	(17)	〃	〃	灰白 7.5Y7/1	SB41 EP3	IIA2		
	4	あかやき土器			49	(165)	〃	〃	淡橙 5YR8/3	SB41 EP4	IIIA		
	5				(59)	(19)	〃	〃	淡黄 2.5Y8/3	SB41 EP5	IIIA		
	6	須恵器	甕			(115)		ロクロ-タタキ	明オリーブ灰 2.5GY7/1	SB41 EP2	IIE2		
	7		坏	126	53	41	糸切り	ロクロ	灰白 10Y7/1	SK8	IIA2a		
	8	あかやき土器	甕	142		(29)			橙 5YR7/6	SK10	IIID3b		
	9			230		(112)			橙 5YR7/6	〃	IIID3a		
	10	土師器	坏	(111)	55	(29)	糸切り	ロクロ 内面 黒色処理-ミガキ	にぶい橙 7.5YR7/4	SK11	IA5		内黒
	11			154	55	57	〃	〃	にぶい橙 5YR7/4	〃	IA3		〃
	12			140		(59)		〃	〃	〃	IA3	37	〃
	13	あかやき土器		132	55	(49)	糸切り	ロクロ	淡黄 2.5Y8/3	〃	IIIA2a		
	14			129	54	49	〃	〃	にぶい橙 7.5YR7/4	〃	IIIA1a	37	
	15		甕	290		(53)		ロクロ-ハケ目	橙 7.5YR7/6	〃	IIID2a	36	
	16		坏	125	54	48	糸切り	ロクロ	にぶい橙 5YR6/4	SK16	IIIA2b	32	墨色(不明)
	17		甕		64		〃	〃	灰白 7.5YR8/2	〃	IIID	34	
	18							ロクロ-ハケ目	灰白 7.5YR8/2	〃	IIID5c		
	19							〃	淡黄橙 7.5YR8/3	〃	IIID5c		
第27図	20				55	(27)	糸切り	ロクロ	にぶい橙 7.5YR7/4	SK17	IIID	44	
	21		坏	159	68	57		〃	橙 7.5YR7/6	〃	IIIA3c	45	
	22	土師器	皿	162	57	41		ロクロ 黒色処理-ミガキ	オリーブ黒 7.5Y3/1	SK19	IB	42	両黒 高台付
	23	須恵器	蓋	32		(19)		ロクロ	灰 N6	〃	IIC2		
	24	あかやき土器	坏	159	(65)	(53)		〃	淡橙 5YR8/4	〃	IIIA1a	43	
	25			121	56	42	糸切り	〃	橙 7.5YR7/6	〃	IIIA3d	41	
	26	須恵器			58	(30)		〃	明オリーブ灰 2.5GY7/1	SK22	IIA2		
	27	あかやき土器			60	(20)	糸切り	〃	明褐灰 7.5YR7/2	〃	IIID		
	28			141	50	48	〃	〃	黄橙 7.5YR8/8	SK23	IIIA3a	39	
	29			154	62	54		〃	灰白 7.5YR8/2	〃	IIIA1a	38	
	30		甕	264		(62)		ロクロ-タタキ-ハケ目	淡橙 5YR8/4	〃	IIID2b	40	

表－7　D地区出土遺物観察表（2）

挿図	遺物番号	器種		計測値(mm) 口径	底径	器高	底部切離	調整技法	色調	出土地点	分類	RP番号	備考
第27図	31	須恵器	坏	128	67	37	ヘラ切り	ロクロ	灰白 10Y7/1	SK24	IIA1d	30	
	32			121	60	(36)	〃	〃	灰 N6	〃	IIB1c	31	
	33	あかやき土器	甕					タタキ	黄橙 10YR8/4	SK25	IIID5c		
	34	須恵器	坏		58	(25)	糸切り	ロクロ	灰白 5Y7/1	SK26	IIA2	57	
	35		甕		64	(60)		〃	灰白 7.5Y7/1	SK21	IIE3	56	ヘラ描(木)
	36	あかやき土器				(102)		〃	淡黄 2.5Y8/3	SK26	IIID2a	57	
	37			(137)	68	(61)	糸切り	〃	にぶい褐 7.5YR6/3	〃	IIID	57	
第28図	38	土師器	坏	154	80	58	糸切り	外面 ロクロ 内面 黒色処理-ミガキ	灰白 2.5Y8/2	SK27	IA3	49	内黒
	39	須恵器		132	54	41	〃	ロクロ	灰白 5Y7/1	〃	IIA2a	50	
	40			134	50	44	〃	〃	灰白 5Y8/1	〃	IIA2a	48 49	
	41	あかやき土器		135	58	43	〃	〃	灰白 7.5YR8/2	〃	IIIA3a	47	
	42		坏		52	(27)	〃	〃	浅黄橙 7.5YR8/3	〃	IIIA	49	
	43		甕			(56)		〃	浅黄橙 10YR8/4	〃	IIID2c		
	44			150				外面 ロクロ 内面 ロクロ-ハケ目	淡黄 2.5Y8/4	〃	IIID3b	53	
	45			180				ロクロ-ハケ目	浅黄橙 7.5YR8/3	〃	IIID3b		
	46				58	(49)	糸切り	ロクロ	灰白 7.5YR8/2	〃	IIID	52	
	47					(85)		〃	淡橙 5YR8/4	SK28	IIID2b	6F	
	48	須恵器	坏	133	56	42	糸切り	〃	灰白 2.5Y7/1	SK29	IIA2a		
	49	あかやき土器	甕					タタキ	橙 5YR6/6	SK31	IIID5c		
	50					(57)		ロクロ	にぶい褐 7.5YR6/3	〃	IIID2b		
	51	土師器	坏	122	40	48		外面 ロクロ 内面 黒色処理-ミガキ	灰白 7.5YR8/2	SK32	IA4	60	
	52	須恵器	蓋	138				ロクロ	灰白 N7	〃	IID2b	62	
	53		甕		98	(115)		外面 ロクロ-タタキ-ケズリ 内面 ロクロ-アテ	灰白 N7	〃	IID3		転用硯
	54	あかやき土器	坏	158	50	49	糸切り	ロクロ	橙 5YR7/6	〃	IIIA3b	72	
	55			125	53	54	〃	〃	灰白 7.5YR8/2	〃	IIIA2a	66	
	56			128		(42)		〃	浅黄橙 10YR8/3	〃	IIIA2a	71	
第29図	57			124	47	46	糸切り	〃	灰白 2.5Y8/2	〃	IIIA2a	55	
	58			124	52	46		〃	浅黄橙 7.5YR8/6	〃	IIIA2a	67	
	59			124	47	54	糸切り	〃	浅黄橙 7.5YR8/4	〃	IIIA2b	68	
	60			124	57	51	〃	〃	浅黄橙 7.5YR8/6	〃	IIIA2b	70	

表－8　D地区出土遺物観察表（3）

挿図	遺物番号	器種		計測値(mm) 口径	底径	器高	底部切離	調整技法	色調	出土地点	分類	RP番号	備考
第29図	61	あかやき土器	坏	152	58	62	糸切り	ロクロ	浅黄橙 7.5YR8/3	SK32	IIIA1a	69	
	62			144	53	63	〃	〃	浅黄橙 7.5YR8/3	〃	IIIA1a	63	
	63			135	65	67	〃	〃	浅黄橙 7.5YR8/3	〃	IIID	65	
	64		甕					〃	黄橙 7.5YR8/8	〃	IIID2a	68	
	65		鉢			(40)		〃	浅黄橙 7.5YR8/3	〃	IIIE2	73	
	66		甕	206		(30)		ロクロ-ハケ目	浅黄橙 7.5YR8/3	〃	IIID2a		
	67	土師器	坏	109	91	67	糸切り	外面 ロクロ 内面 黒色処理-ミガキ	灰白 2.5Y8/1	SK33	IA2	54	
	68	須恵器		134	50	41	〃	ロクロ	灰白 5Y8/1	〃	IIA2a	55	
	69							タタキ	灰 7.5Y5/1	SK34	IIE2		
	70	あかやき土器	鉢			(35)		ロクロ	にぶい橙 5YR7/4	〃	IIIE3		
	71	須恵器	壺			(40)		〃	灰 7.5Y6/1	SK36	IID1a		
	72							外面 タタキ 内面 アテ	外面 灰10Y5/1 内面 橙5YR6/3	SK38	IIE1		
第30図	73							ロクロ	にぶい橙 7.5YR7/3	SK41	IID5b		
	74	あかやき土器	甕			(69)		〃	浅黄橙 7.5YR8/6	SK42	IID2c		
	75							タタキ	浅黄橙 7.5YR8/4	〃	IID5c		
	76	須恵器	蓋			(26)		ロクロ	灰白 10Y7/1	SK43	IIC2		
	77		坏		56	(15)	糸切り	〃	灰白 5Y7/1	〃	IIA2		墨書底部九
	78			135	58	74		タタキ	灰 10Y6/1	〃	IIB1e		高台付
	79		甕					〃	灰 7.5Y5/1	〃	IIE2		
	80							〃	オリーブ灰 N6/	〃	IIE2		
	81							タタキ-アテ	灰 7.5Y6/1	〃	IIE1		
	82	あかやき土器				(32)		タタキ	浅黄橙 7.5YR8/3	〃	IID2c		
	83					(32)		ロクロ	浅黄橙 7.5YR8/3	〃	IID2c		
	84					(49)		〃	灰白 7.5YR8/2	〃	IID1b		
	85					(57)		〃	灰白 7.5YR8/2	〃	IID1b		
	86			189		(89)		〃	浅橙 5YR8/4	〃	IID3b	58	
	87							タタキ	にぶい橙 7.5YR7/2	〃	IID5c		
	88							〃	にぶい橙 7.5YR7/2	〃	IID5b		
	89							〃	にぶい橙 7.5YR7/3	〃	IID5c		
	90							外面 タタキ-ケズリ 内面 タタキ-ハケ目	にぶい橙 7.5YR7/3	〃	IID5c		

表－9　D地区出土遺物観察表（4）

挿図	遺物番号	器種		計測値(mm) 口径	底径	器高	底部切離	調整技法	色調	出土地点	分類	RP番号	備考
第30図	91	あかやき土器	甕					タタキ	にぶい橙 7.5YR7/3	SK43	IIID5c		
	92							〃	橙 7.5YR7/4	〃	IIID5c		
第31図	93	土師器	坏		66	72	不明	外面 ロクロ-体部下半ケズリ 内面 黒色処理-ミガキ	灰白 2.5Y8/2	SD14	IA1		内黒
	94		甕					外面 ケズリ 内面 ハケ目	灰白 2.5Y8/3	〃	IIID5d	26	
	95	須恵器	坏	128	77	29		ロクロ	灰白 5Y7/1	〃	IIA1c	28	
	96			116	(52)	32	ヘラ	〃	灰白 2.5Y8/2	〃	IIA1d	26	
	97			132	86	31		〃	灰白 10Y8/1	〃	IIA1c	25	
	98			129	77	35		〃	灰白 2.5Y8/1	〃	IIA1b		
	99		高台付坏	116	70	35		〃	灰 10Y6/1	〃	IIB1c	23	高台付
	100			124	78	44		〃	明青灰 5B7/1	〃	IIB1b	27	〃
	101			116	76	47	ヘラ切り	〃	灰白 N7/	〃	IIB1b		〃
	102				72	(20)		〃	灰 7.5Y6/1	SD28	IIB2		〃
	103				80	(27)	ヘラ切り	〃	灰白 7.5Y8/1	SD14	IIB1d		〃
	104					(30)		〃	灰 N5/	〃	IIB1b		〃
	105				78	(39)	ヘラ切り	〃	灰白 N7/	〃	IIB1d		〃
	106		甕					タタキ	灰白 7.5Y7/1	〃	IIE2		
第32図	107	あかやき土器	坏	120	46	44	糸切り	ロクロ	浅橙 5YR8/4	SK53	IIIA2a	84	
	108			115	64	41	〃	〃	浅黄 2.5Y8/3	SD14	IIIA2c		
	109		甕			(40)		〃	灰白 7.5Y8/2	〃	IIID2a	26	
	110					(57)		〃	浅黄橙 7.5YR8/4	〃	IIID1a	26	
	111			156		(66)		外面 ロクロ-ハケ目 内面 ロクロ	にぶい黄橙 10YR7/2	〃	IIID3a		
	112			160		(69)		外面 ロクロ-ハケ目 内面 ロクロ	灰白 10YR8/2	〃	IIID2a	22	
	113				77	(40)	糸切り	ロクロ	にぶい橙 7.5YR5/3	〃	IIID	24	
	114							外面 タタキ 内面 アテ	にぶい黄橙 10YR7/2	SD28	IIID5a		
	115							タタキ	にぶい橙 5YR7/2	SD38	IIID5c		
	116	須恵器						外面 タタキ 内面 アテ	外面 灰オリーブ7.5Y5/2 内面 橙5YR6/3	SD36	IIE1		
	117		壺		116	(171)		外面 ロクロ-ケズリ 内面 ロクロ-ハケ目	灰オリーブ 7.5Y5/2	SD39	IID1a		灰釉
	118		坏	129	84	34	ヘラ切り	ロクロ	灰白 N7/	EP517	IIA1b	74	
	119		高台付坏	160	64	54	〃	〃	灰 N6/	EP538	IIB1a	77	高台付
	120	土師器	坏		63	(30)	糸切り	ロクロ 内面 ミガキ 黒色処理	灰白 2.5Y8/1	45-67G			
第33図	121	須恵器	坏	142	59	38	ヘラ切り	ロクロ	灰白 N7/	43-68G	IIA1		
	122			129	68	40	〃	〃	〃	43-68G	〃		
	123				65	(22)	糸切り	〃	〃	Iトレンチ	IIA2		
	124			129	51	44	〃	〃	〃	42-68G	〃		
	125			128	78	36	ヘラ切り	〃	〃	60-70G	IIA1		
	126		高台付坏		66	(30)	糸切り	〃	〃	41-69G	〃		
	127		注口					〃	〃	38-71G	IIB1		
	128		横瓶					タタキ、カキ目	灰白 N8/	49-66G	F		
	129	あかやき土器	甕	198	—	335	—	ハケ目、タタキ	にぶい黄橙 10YR7/3	45-67G	IIID7		

遺物集計表

凡 例 1 本表は各遺構覆土出土の遺物について集計したものである。

2 a：口縁部、b：頸部、c：体部、d：底部(蓋の場合はツマミ)を示す。

3 数値は、出土破片数で、接合資料については1点としている。

4 本文中と図示したものは本表中の点数には入れていない。

5 須恵器坏底部については、d欄の左が回転ヘラ切り、右欄が回転糸切りによる切り離しを示す。

表—10 A地区遺物集計表

		須恵器									あかやき土器							土師器				その他の遺物(合計)
		坏 ヘラ切り・糸切り	高台付坏	蓋	皿	甕	壺	鉢	横瓶	その他不明	坏	高台付坏	蓋	皿	甕	鴨	その他不明	坏	皿	甕	その他不明	
SK 81	a										8											
	b					1					4											
	c										4	1										
	d																					
	計					1					16	1					4					(22)
SK 82	a			1							6											
	b										2											
	c										1	2						1(内黒)				
	d																					
	計			1							9	2					8	1				(21)
SE 84	a										1											
	b																					
	c																					
	d																					
	計										1											(1)
SK 87	a										1											
	b																					
	c																					
	d																					
	計										1											(1)
SK 89	a										1											1(中近世)
	b																					
	c																					
	d	1									2											
	計	1									3						1(皿)					(6)
SK 91	a																					
	b																					
	c										1											
	d																					
	計										1											(1)
SK 93	a																					
	b										6											
	c										3											
	d																					
	計										9											(9)
SE 94	a																					
	b						3				1				2							
	c										1	1			1							
	d																					
	計						3				2	1			3							(9)
SK 95	a																					
	b																					
	c																					
	d																					
	計																6					(6)
SK 97	a																					
	b										1											
	c																					
	d																					
	計										1						3					(4)

表—11　B地区遺物集計表(1)

		須恵器									あかやき土器							土師器				その他の遺物(合計)
		坏 ヘラ切り・糸切り	高台付坏	蓋	皿	甕	壺	鉢	横瓶	その他不明	坏	高台付坏	蓋	皿	甕	鍋	その他不明	坏	皿	甕	その他不明	
SK 53	a	1									126							3(内黒)				炭3
	b					1	1				142				3			6(内黒)				
	c										38	1						1(内黒)				
	d																					
	計	1				1	1				356	1			3		309	10				(485)
SK 54	a										24		1					3(内黒)				炭1
	b																					
	c					2					29				1							
	d										26							2(内黒)				
	計					2					79		1		1		11	3				(98)
SK 55	a	1									33					1						1(ガラス)
	b																					炭4
	c					1												2(内黒)				
	d										40	2										
	計	1				1					73	2				1	26	2				(111)
SK 56	a																					
	b																					
	c																					
	d										2											
	計										2											
SK 57	a										2											炭2
	b																					
	c																					
	d										5											
	計										7											(9)
SK 58	a										54		1		1							
	b																					
	c	2				1					56											
	d										32											
	計	2				1					42		1		1		6					(153)
SK 59	a										3											
	b																					
	c						1								2							
	d										4											
	計						1				7				2							(10)
SB 60 EP1	a																					
	b																					
	c																					
	d																					
	計										(12)											(12)
SB 60 EP2	a																					
	b																					
	c																					
	d																					
	計										(40)	(2)					(40)					(126)
SB 60 EP3	a																					
	b																					
	c																					
	d																					
	計										(3)											(3)
SB 60 EP4	a																					
	b																					
	c																					
	d																					
	計										(8)						(2)					(10)
SB 60 EP5	a																					
	b																					
	c																					
	d																					
	計						(1)				(13)	(2)										(18)
SB 60 EP6	a																					
	b																					
	c																					
	d																					
	計										(8)						(9)	(1)				(18)
SB 60 EP7	a																					
	b																					
	c																					
	d																					
	計										(7)						(1)					(8)
SB 60 EP8	a																					
	b																					
	c																					
	d																					
	計										(8)	(1)						(1)				(10)

表—12　B地区遺物集計表(2)

		須恵器										あかやき土器							土師器				その他の遺物(合計)
		坏 ヘラ切り・糸切り	高台付坏	蓋	皿	甕	壺	鉢	横瓶	その他不明		坏	高台付坏	蓋	皿	甕	塊	その他不明	坏	皿	甕	その他不明	
SB 60 EP11	a																						
	b																						
	c																						
	d																						
	計											(09)	(1)	(1)		(4)		(25)	(3)				(54)
SB 60 EP13	a																						4(木片)
	b																						
	c																						
	d																						
	計											(7)				(2)		(1)					(14)
SD 61	a																						1(炭)
	b																						
	c																						
	d																						
	計											(52)	(5)			(1)		(90)	(2)				(155)
SK 62	a											7											
	b											9											
	c											4				1							
	d																						
	計											20				1		1					(22)
SK 64	a																						
	b											5				3							
	c												1										
	d																						
	計											5	1			3							(9)
SK 65	a																						
	b																						
	c																						
	d	1																					
	計	1																					(1)
SK 66	a																						
	b																						
	c															1							
	d	1																					
	計	1														1		1					(3)
SK 67	a											2											
	b	2										5											
	c											1				20							
	d																						
	計	2										8				20		5					(35)
SK 69	a																						
	b																						
	c																						
	d	1																					
	計	1																					(1)
SK 70	a																						
	b	1														1							
	c																						
	d	1																					
	計	2														1		8					(11)
SD 71	a																						
	b																						
	c																						
	d																						
	計											(4)	(1)										(5)
SK 72	a											1											
	b																						
	c											1											
	d											1											
	計											3											(3)
SK 73	a																						
	b																						
	c											2											
	d											3											
	計											5											(5)
SK 74	a											4											
	b											11											
	c											3	1			1							
	d																						
	計											18	1			1		5					(25)
SK 75	a											3											
	b											4											
	c											1	1										
	d																						
	計											8	1										(9)

表−13　C地区遺物集計表

		須恵器									あかやき土器							土師器				その他の遺物（合計）
		坏 ヘラ切り・糸切り	高台付坏	蓋	皿	甕	壺	鉢	横瓶	その他不明	坏	高台付坏	蓋	皿	甕	鍋	その他不明	坏	皿	甕	その他不明	
SD 1	a			6							28		1		10	4						炭 7
	b										4				4							
	c	19		1		28	1				8				123			30内黒				
	d	17	2				1				21	1			1							
	計	36	2	7		28	2			1	57	1	1		138	4	552	7			1	(844)
SD 2	a	11		1							4				2	1		30内黒				
	b														1							
	c	7				3	2				2				35			30内黒				
	d		1	1							3							30内黒				
	計	18	1	2		3	2			1	9				38	1	63	3				(141)
SD 3	a	46		1			1				3		2		1							
	b																					
	c	4		2		7	4								12							
	d	8	1								3				2							
	計	58	1	3		7	5				6		2		15		6					(103)
SK 7	a																					
	b																					
	c																					
	d	1	1												5							
	計	1	1												5							(7)

表−14　D地区遺物集計表（1）

		須恵器									あかやき土器							土師器				その他の遺物（合計）
		坏 ヘラ切り・糸切り	高台付坏	蓋	皿	甕	壺	鉢	横瓶	その他不明	坏	高台付坏	蓋	皿	甕	鍋	その他不明	坏	皿	甕	その他不明	
SK 8	a										6											炭 1
	b										12				2							
	c										2											
	d	2																				
	計	2									20				2							(25)
SK 9	a	1									5											
	b																					
	c										4											
	d		1																			
	計	1	1								9											(11)
SK 10	a	1		2							4				1							
	b																					
	c	1					1				20				15							
	d						1				4											
	計	2		2			2				28				16			1				(51)
SK 11	a	4		3							25				2	2	26	30内黒				
	b																					
	c	1		2	4						26				44			30内黒				
	d	3									5											
	計	8		5	4						56				46	2	26	5				(153)
SK 12	a	2													1							炭 1
	b																					
	c	1									1											
	d	1																				
	計	4									1				1							(7)
SK 13	a	6																				
	b																					
	c						1								13							
	d										1											
	計	6					1				1				13							(21)
SD 14	a	22		3							8		4		6	1		1(内黒)				
	b						2								115							
	c	3		3		1					4				5			1(内黒)				
	d	13	3								1	1										
	計	38	3	6		1	2				13	1	4		126	1	67	2				(264)
SK 15	a	1													1	1						
	b																					
	c														2							
	d														1							
	計	1													4	1						(6)

表—15　D地区遺物集計表(2)

		須恵器										あかやき土器							土師器				その他の遺物(合計)
		坏 ヘラ切り・糸切り	高台付坏	蓋	皿	甕	壺	鉢	横瓶	その他不明		坏	高台付坏	蓋	皿	甕	塊	その他不明	坏	皿	甕	その他不明	
SK 16	a	12					1					24				8			4(内黒)				
	b					1										1							
	c	9				1	1					34				53							
	d	8	2									7				4							
	計	29	2			2	2					65				66		111	4				(301)
SK 17	a											5				1	1						
	b																						
	c	2										13				9			3(内黒)				
	d											1											
	計	2										19				10	1		2				(34)
SK 18	a	2		1								2							3(内黒)				
	b																						
	c					1										6							
	d	1																					
	計	3		1		1						2				6			2				(15)
SK 19	a											3				1							
	b																						
	c											23											
	d															12			4(両黒)				
	計											26				13			8				(47)
SK 20	a	1		2								3											
	b																						
	c	2		1								6				5							
	d	1										2											
	計	4		3								11				5							(23)
SK 21	a	1																					
	b																						
	c																						
	d																						
	計	1																1					(2)
SK 22	a	1										3				1							炭 6
	b					1																	
	c					1						5				16							
	d	1										2											
	計	2				2						10				17		9					(46)
SK 23	a			1								7				1	1						
	b																						
	c											7				4							
	d											2											
	計			1								16				5	1						(23)
SK 25	a	1										4				1							
	b																						
	c	3				1						1				17	2						
	d											1											
	計	4				1						6				18	2	7					(38)
SK 26	a	8				1						18				2			4(内黒)				
	b																						
	c	7				4	1					18				27			7(内黒)				
	d	3	1									6	1						1(内黒)				
	計	18	1			5	1					42	1			29		68	16				(178)
SK 27	a	7										18				5			1(内黒)				
	b																						
	c	7				3						10				46			1(内黒)				
	d	3										10				1			2				
	計	17				3						39				52		88	4				(203)
SD 28	a											2				2							
	b																						
	c	6				10	2									15			1(内黒)				
	d	7	2									8				1			1(内黒)				
	計	13	2			10	2			1		10				18		14	1				(71)
SD 29	a											3							1(両黒)				
	b																						
	c											2				6							
	d											2											
	計											7				6		2	1				(16)
SK 30	a	3										3											
	b																						
	c	1										2				2							
	d	1										1											
	計	5										6				2		8					(21)
SK 31	a											8				4			3(内黒)				
	b															1							
	c											8				18			3(内黒)				
	d																						
	計											16				23		3	2				(44)

表−16　D地区遺物集計表(3)

		須恵器									あかやき土器							土師器				その他の遺物(合計)
		坏 ヘラ切り・糸切り	高台付坏	蓋	皿	甕	壺	鉢	横瓶	その他不明	坏	高台付坏	蓋	皿	甕	鍋	その他不明	坏	皿	甕	その他不明	
SK 32	a	3									16				3	1		[illegible]				炭 1
	b																					
	c					4					1				34							
	d	1									8											
	計	4				4				2	25				37	1	45	2				(121)
SK 33	a										10											
	b																					
	c										2				4							
	d										4											
	計									1	16				4							(21)
SK 34	a	1														1						
	b																					
	c					1									2							
	d	1									3											
	計	2				1				1	3				2	1	3					(13)
SK 36	a	5									14				8	1						
	b							1														
	c					6		4			1				41			2(内黒)				
	d	3						2			15				2							
	計	8				6		7			30				51	1	111	2				(216)
SD 38	a																					
	b																					
	c					1					2											
	d										1											
	計					1					3											(4)
SD 39	a	1									2											
	b																					
	c					3					1				4							
	d										1											
	計	1				3					4				4							(12)
SB 41 EP1	a										1											
	b																					
	c																					
	d										2											
	計										3						3					(6)
SB 41 EP2	a	2									5											
	b																					
	c					4	1				1				6							
	d																					
	計	2				4	1				6				6		5					(24)
SB 41 EP3	a										1							2(内黒)			炭 1	
	b																					
	c					1					3				2							
	d	1																				
	計	1				1					4				2		1	2				(12)
SB 41 EP4	a										2											
	b																					
	c										3				6			1(内黒)				
	d										1											
	計										6				6			1				(13)
SB 41 EP5	a																					
	b																					
	c										6				1							
	d										2											
	計										8				1							(9)
SK 42	a													1								
	b													1								
	c													9								
	d										2											
	計										2			11		12						(25)
SK 43	a	2		1							4				9	3		1(両黒)				
	b																					
	c			1		3	1				10				32			3(内黒)				
	d	2									1				2							
	計	4		2		3	1				15				43	3	23	4				(98)

引用参考文献

1）米地文夫「地形分類」『土地分類基本調査、酒田』1979年
2）長井政太郎『新訂山形県地誌』1973年
3）佐藤禎宏「仁和三年条の国府移転に関する覚書」『庄内考古学』第16号　1979年
4）山形県教育委員会『山形県遺跡地図』1978年
5）佐藤庄一「城輪柵跡周辺の村落」『庄内考古学第19号』1985年
6）阿部明彦・渋谷孝雄『宅田遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第75集　1983年
7）佐藤禎宏『八森遺跡　第1次・第2次発掘調査報告書』1978年
8）野尻　侃『八森遺跡一第6次発掘調査報告書一』山形県埋蔵文化財調査報告書第54集　1982年
9）佐藤庄一・野尻　侃・安部　実「II後田遺跡」『農林事業関係遺跡（2）発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第64集
10）佐藤庄一・野尻　侃『沼田遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第78集　1984年
11）佐藤庄一・野尻　侃・安部　実「II上ノ田遺跡」『農林・土木事業関係遺跡発掘調査報告書第52集』山形県埋蔵文化財調査報告書第52集　1982年
12）佐藤庄一・安部　実『俵田遺跡一第2次発掘調査報告書一』山形県埋蔵文化財調査報告書第77集　1984年
13）佐藤庄一・野尻　侃・安部　実『北田遺跡第2次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第53集　1982年
14）佐藤禎宏「山形県の中世陶器について」『庄内考古学第18号』1982年　なお、手蔵田2・12遺跡出土の中世陶器の年代については年代等御教示を得た。
15）安部　実・佐藤庄一『新青渡遺跡第2次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第79集　1984年
16）川崎利夫・安部　実『境興野遺跡』山形県埋蔵文化財調査報告書第46集　1981年
17）安部　実・佐藤庄一『新青渡遺跡一第1次発掘調査報告書一』山形県埋蔵文化財調査報告書第67集　1983年
18）船木義勝也『払田柵跡昭和50年度発掘調査概要』払田柵跡調査事務所年報　1976年
19）川崎利夫・佐藤庄一他『平形遺跡・周辺遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第26集　1980年
20）手塚　孝・藤田宥宣他『伝道遺跡発掘調査報告書』川西町教育委員会　1981年
藤田宥宣『道伝遺跡発掘調査報告書一置賜郡衙推定地一』川西町埋蔵文化財調査報告書第8集　川西町教育委員会　1984年
21）阿部明彦・渋谷孝雄『宅田遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第72集　1983年
22）氏家和典「東北土師器の型式分類とその編年」『歴史』14輯東北史学会　1957年
氏家和典「陸奥国分寺跡出土の丸底坏をめぐって一奈良平安期土師器の諸問題一」『山形県の考古と歴史』1967年
23）渋谷孝雄・佐藤正俊・長橋　至『吹浦遺跡一第1次緊急発掘調査報告書一』山形県埋蔵文化財調査報告書第82集　1984年
24）佐藤庄一・野尻　侃・安部　実「II地正面遺跡」『農林事業関係遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第51集　1982年
25）阿部明彦『手蔵田遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第87集　1985年
26）長橋　至『不動木遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第100集　1986年

図　　版

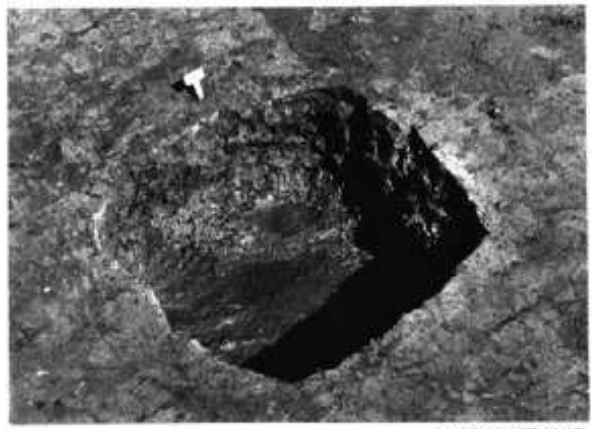
遺跡遠景(東から)

試掘風景

A地区プラン検出状況(北側)

A地区プラン検出状況(南側)

SK81土層断面



SK81完掘状況

SK82完掘状況

SK83土層断面

図版2　A地区

SE84井戸跡完掘状況

SE84井戸跡矢板

SE84井戸跡内側

SD85溝跡土層断面

SD86溝跡土層断面

SK87土層断面

SK87完掘状況

SK88土層断面

SK89土層断面

SK90土層断面

SK91土層断面

SK91完掘状況

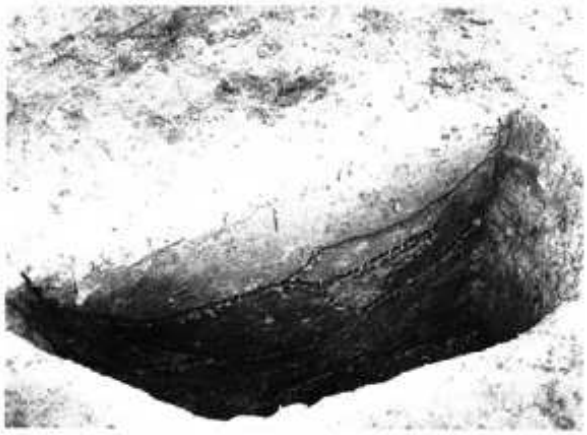
SK92完掘状況

SK93土層断面

SE94土層断面

SE94完掘状況

図版4　A地区



SK95土層断面

SK95完掘状況

SK96土層断面

SK96完掘状況

SK97土層断面

SK97完掘状況

SK98土層断面

SK99土層断面

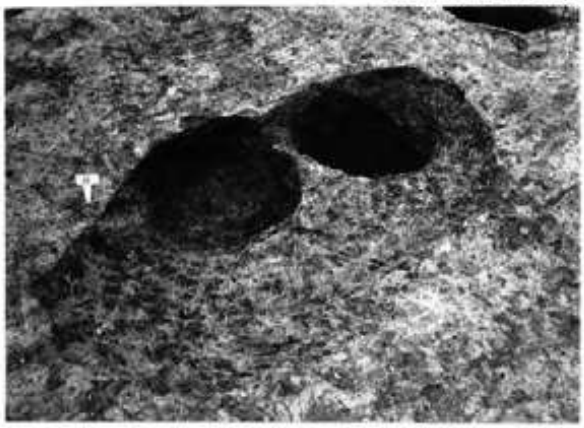
B地区完掘状況(南から)

SK53土層断面

SK53土器出土状況

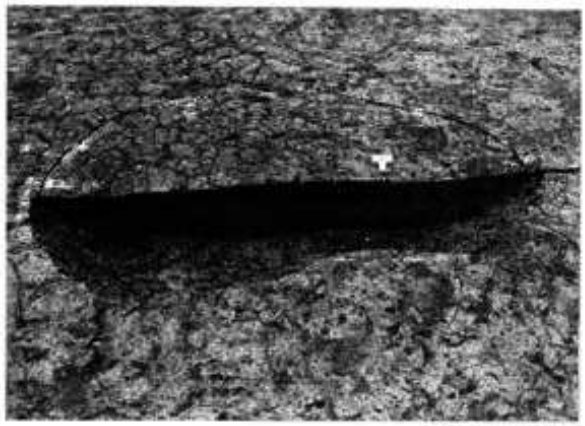
SK53土器出土状況

SK54土層断面

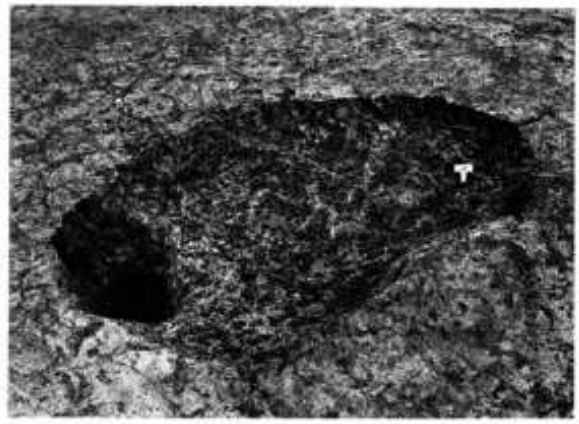


SK55完掘状況

SK56土層断面



SK57土層断面

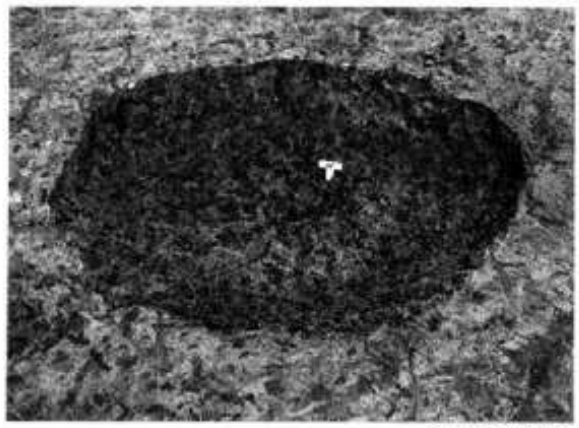


SK57完掘状況

SK58完掘状況

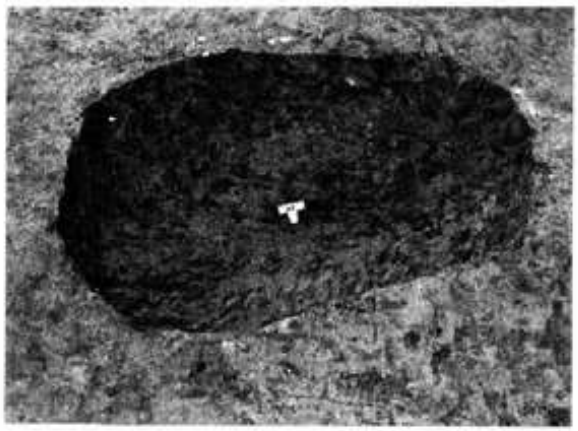
SK58土器出土状況

SK62土層断面



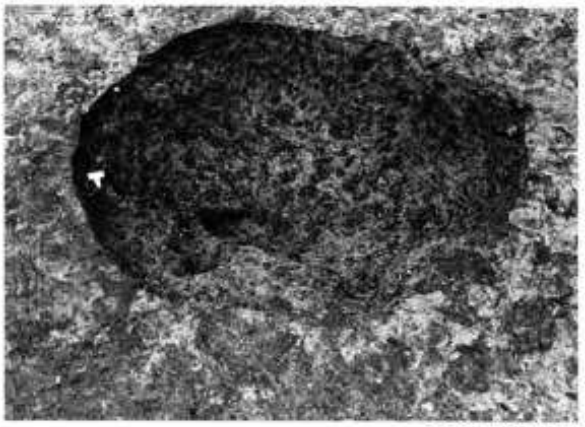
SK62完掘状況

SK63土層断面

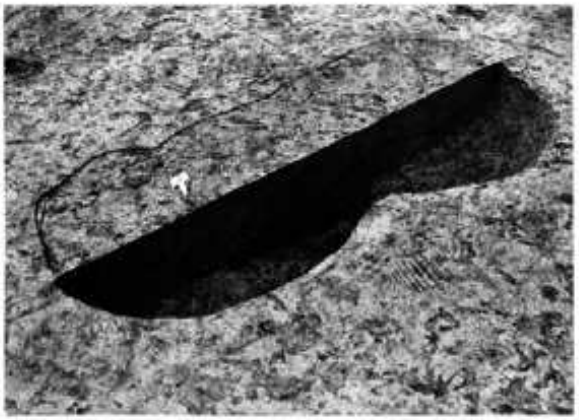


SK63完掘状況

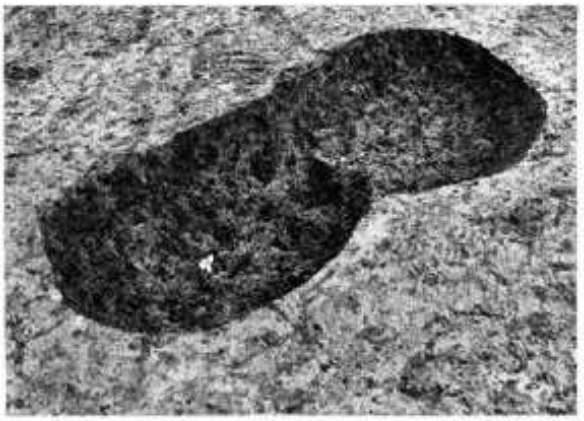
SK64土層断面



SK64完掘状況



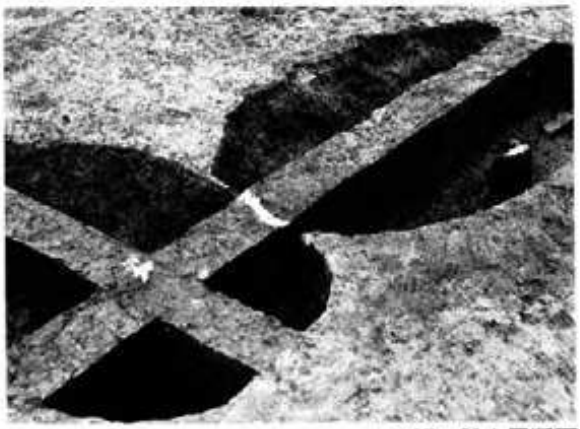
SK65土層断面



SK65完掘状況

SK66土層断面

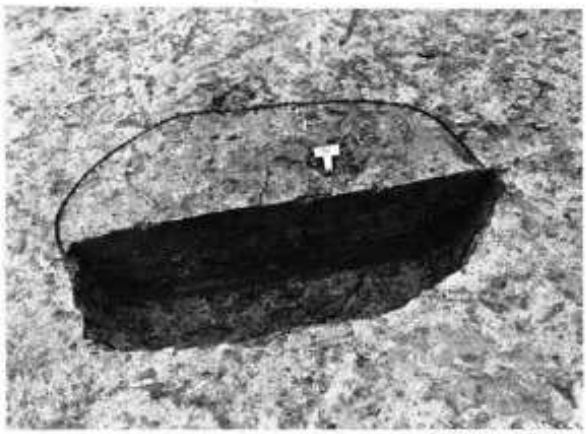
SK66完掘状況



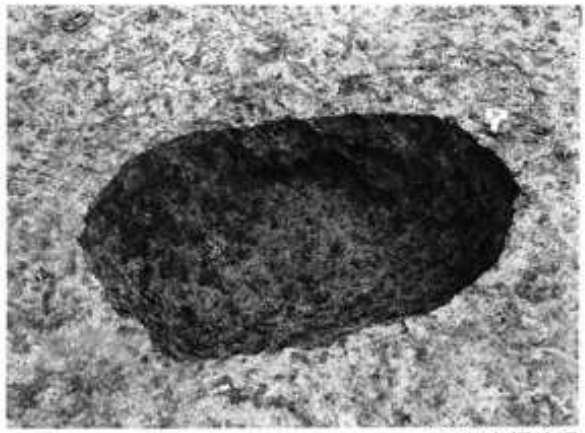
SK67・68土層断面

SK67・68完掘状況

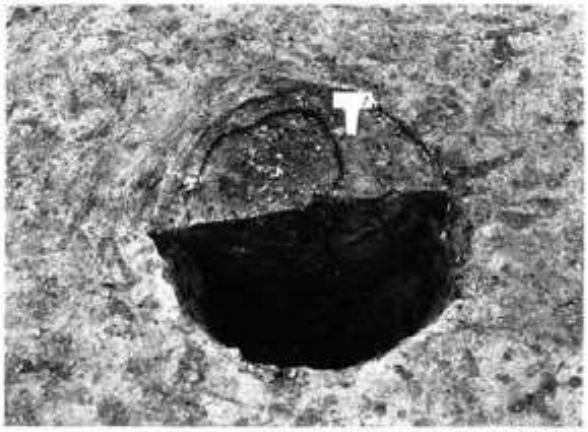
図版8　B地区



SK70土層断面

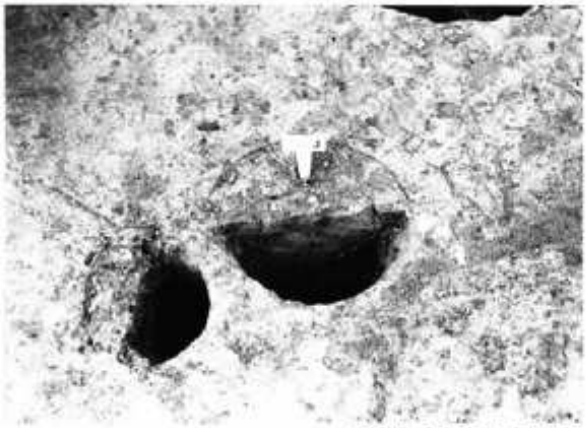


SK70完掘状況



SB60掘立柱建物跡EP1土層断面

SD60・EP2土層断面

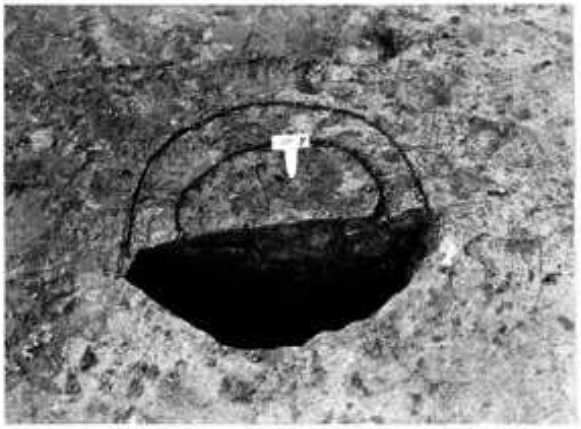


SB60・EP3土層断面

SD60・EP4土層断面

SB60・EP5土層断面

SB60・EP6土層断面



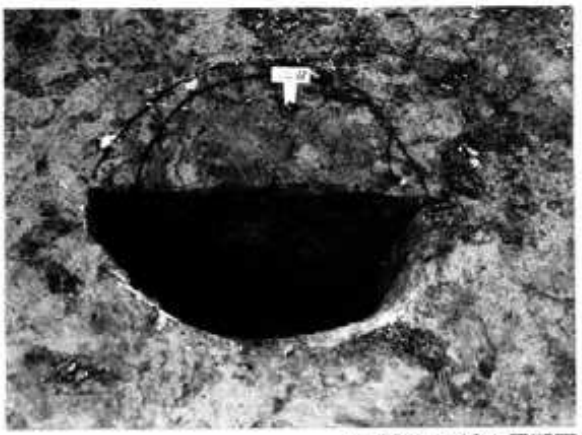
SB60・EP7土層断面

SB60・EP8土層断面

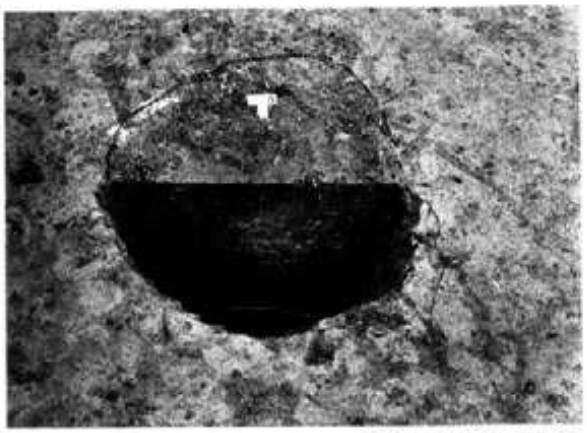
SB60・EP9土層断面

SB60・EP10土層断面

SB60・EP11土層断面



SB60・EP12土層断面



SB60・EP13土層断面

SD61溝跡土層断面

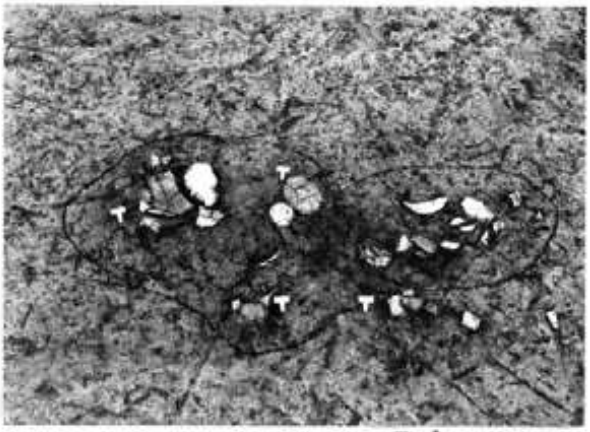
図版10　C地区

C地区プラン検出状況北側(西から)

C地区プラン検出状況南側(西から)

SD1・2溝跡完掘状況

SD1土層断面



SK7プラン検出状況

SK7土器出土状況

SD3溝跡完掘状況

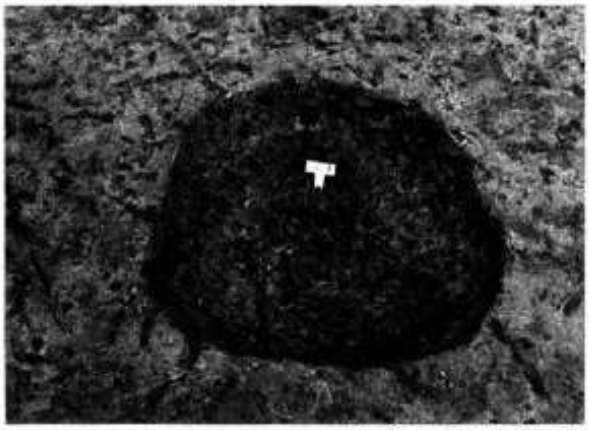
C地区完掘状況

D地区調査区全景（西から）

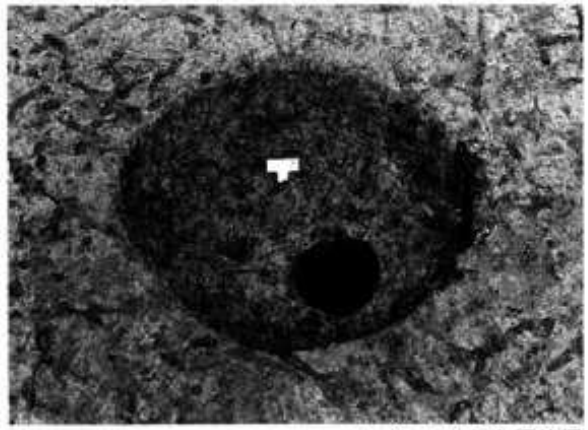
図版12　D地区

SB40・41掘立柱建物跡プラン検出状況

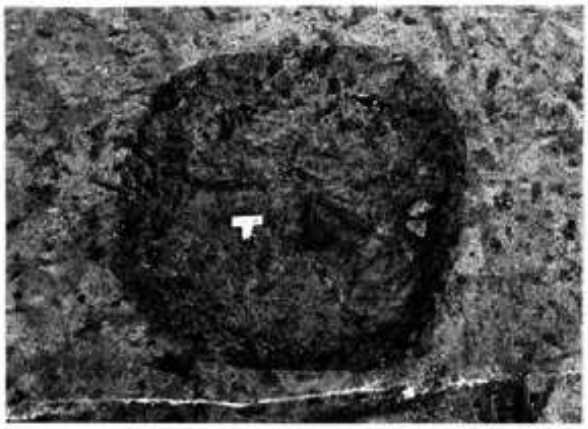
SB40・41完掘状況



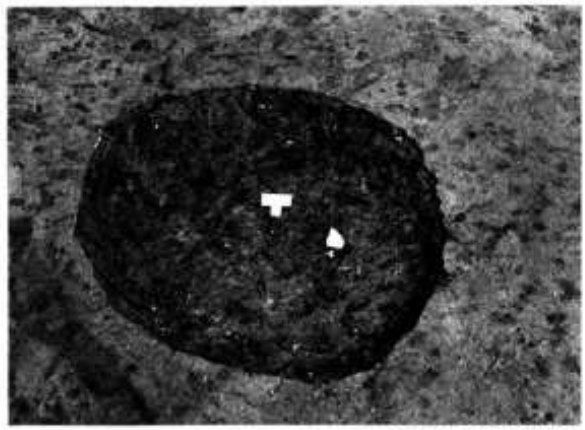
SB40・EP1完掘状況



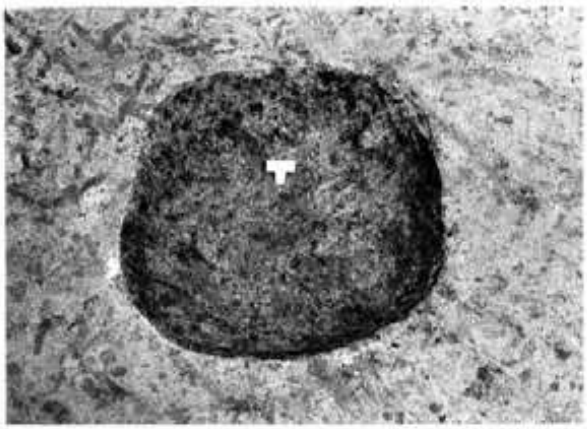
SB40・EP2完掘状況



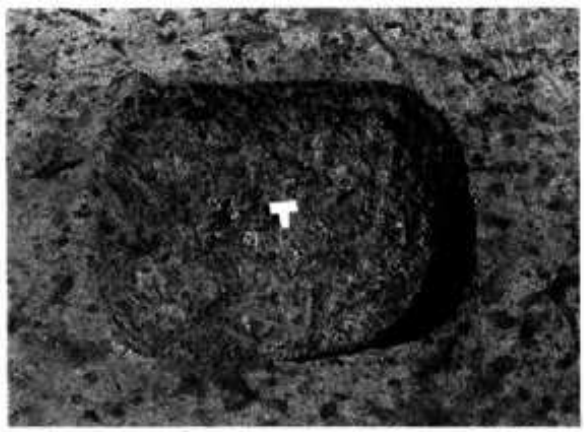
SB40・EP3完掘状況



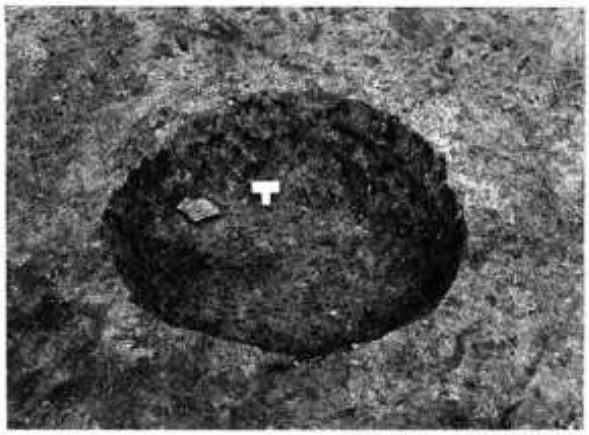
SB40・EP4完掘状況



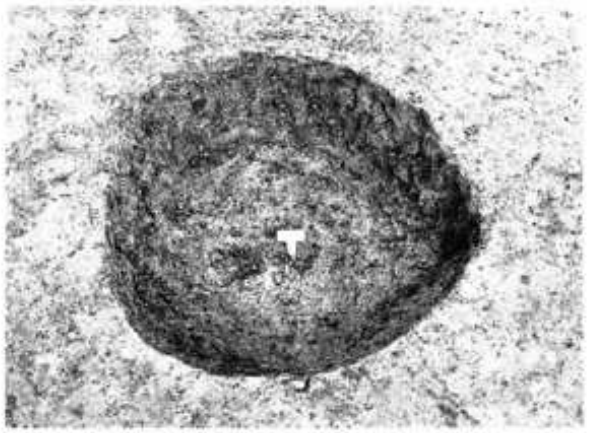
SB40・EP5完掘状況



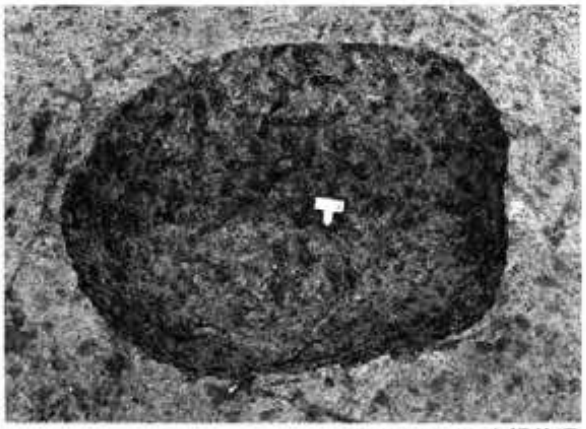
SB40・EP6完掘状況



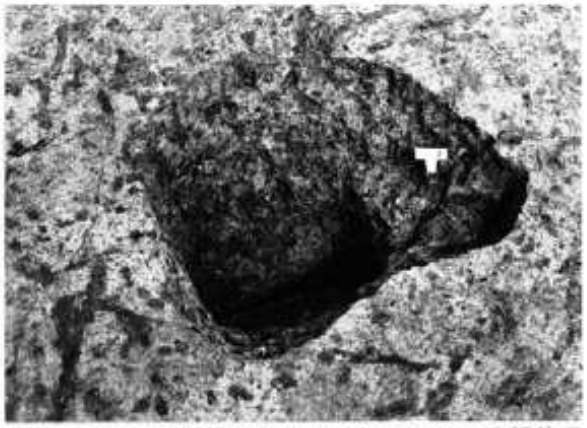
SB40・EP7完掘状況



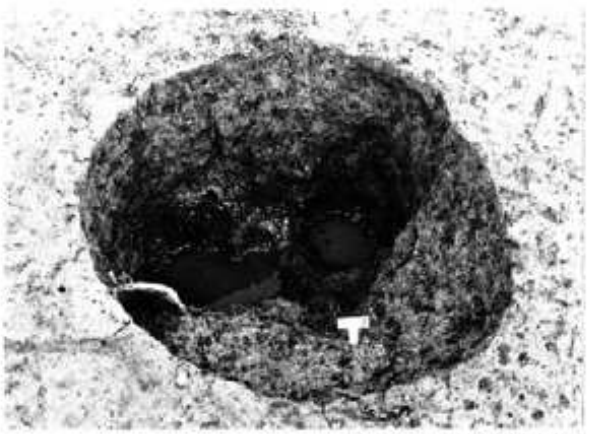
SB40・EP8完掘状況



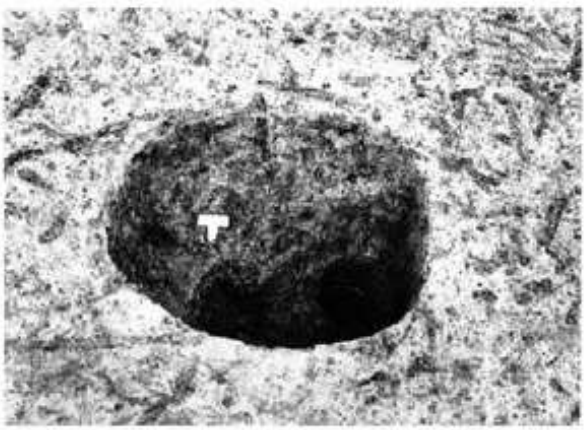
SB40・EP9完掘状況



SB41・EP1完掘状況

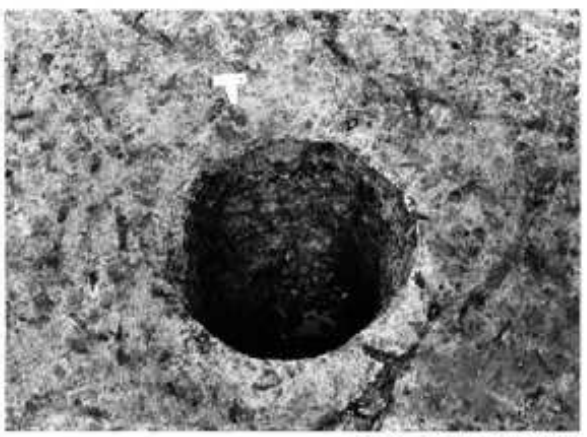


SB41・EP2完掘状況



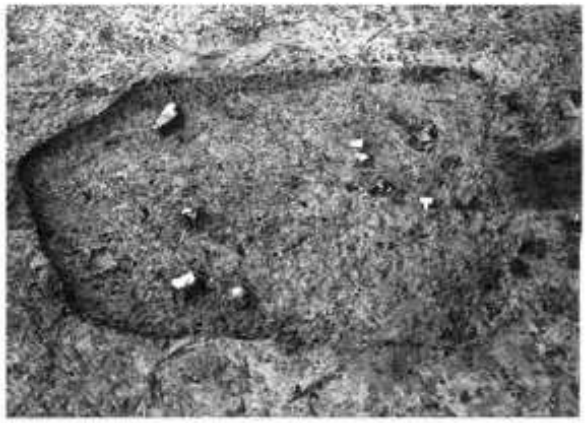
SB41・EP4完掘状況

SB41・EP5完掘状況



SB41・EP6完掘状況

SK8完掘状況



SK9完掘状況

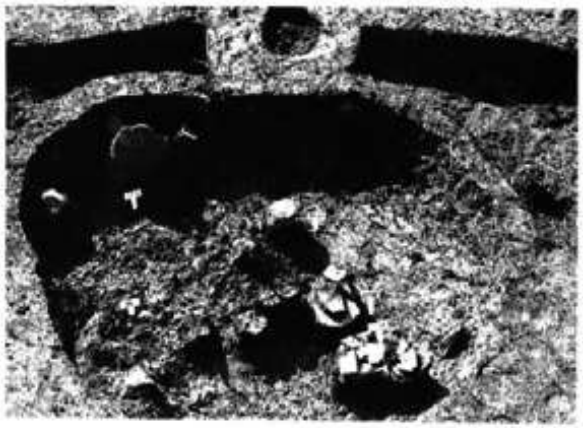
SK10完掘状況

SK11完掘状況

SK12完掘状況

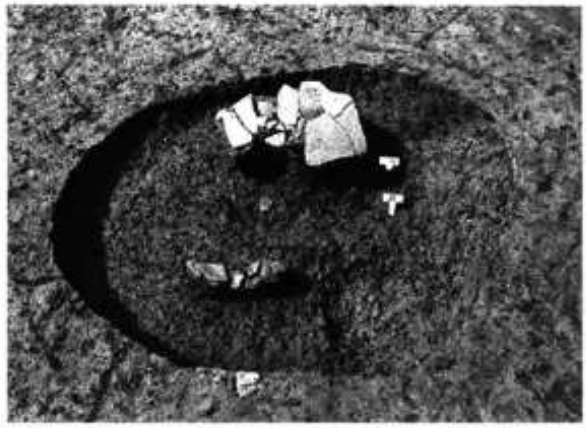
SK13完掘状況

SK15完掘状況



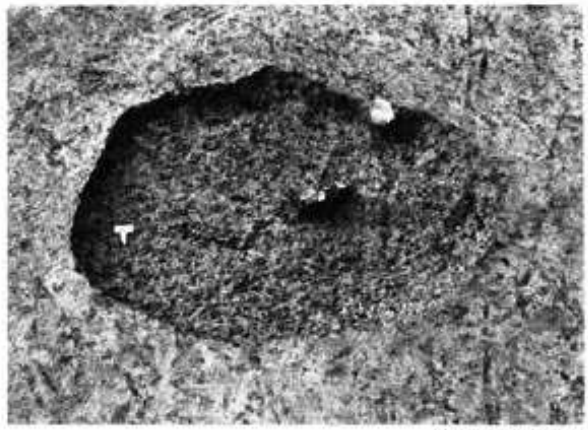
SK16完掘状況

SK17完掘状況



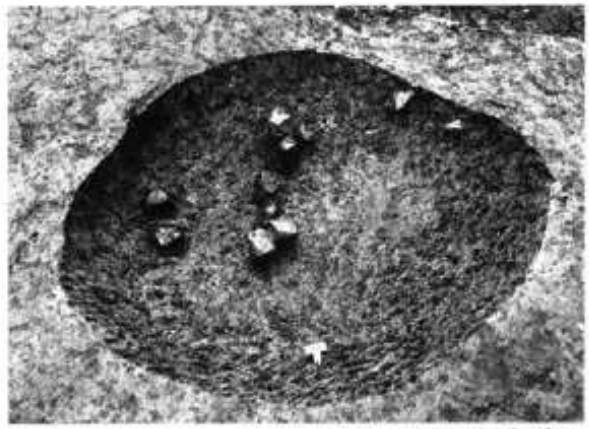
SK18完掘状況

SK19完掘状況



SK20完掘状況

SK21完掘状況



SK22完掘状況

SK23完掘状況

SK24完掘状況

図版16　D地区

SK26完掘状況

SK27土層断面

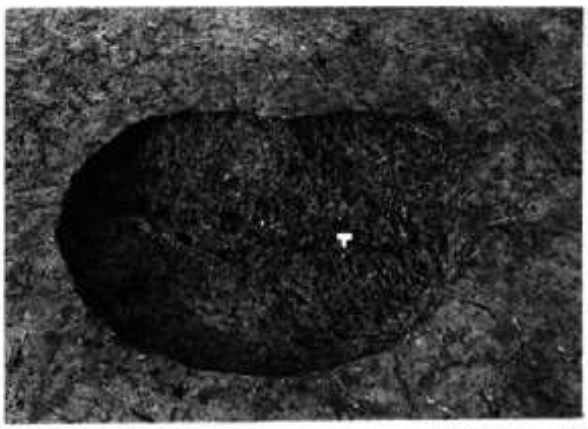
SK27完掘状況

SK27土器出土状況

SK27土器出土状況

SK29完掘状況

SK30土層断面



SK30完掘状況

SK31・32・SD36土層断面

SK31・32土器出土状況

SK31土器出土状況

SK32土器出土状況

SK32土器出土状況（アップ）

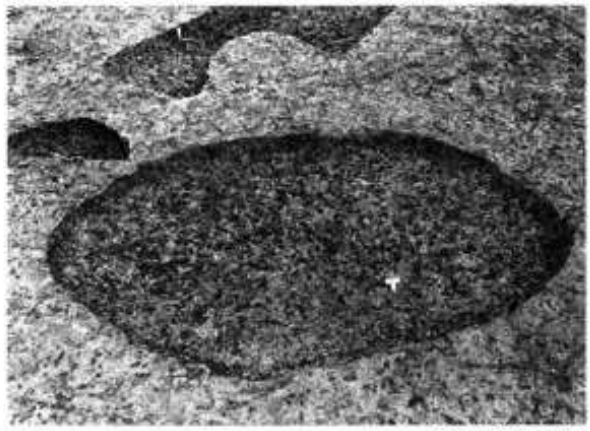
SK32・SD36土層断面

SK33完掘状況

SK34土層断面

図版18　D地区

SK38土層断面



SK39完掘状況

SK42土層断面

SK43完掘状況

SD36 全 景

SD14土器出土状況

SD36土層断面

SD37土層断面

A－1

A－2

A－3

A－4

A－5

A－6

A－7

A－8

A－9

A－10

A－11

A－12

A－13

A－14

A－15

A－16

図版20　B地区出土遺物

B－1

B－2

B－3

B－4

B－5

B－6

B－7

B－10

B－11

B－12

B－14

B－15

B－13

B－16

B－17

B－19

古　銭

硯（B－22a）

硯（B－22b）

（B－21）

硯

（B－22c）

硯（B－20）

C－1

C－2

C－3

C－4

C－5

C－8

C－9

C－10

C－13

C－14

図版22　C地区出土遺物(2)

C－15

C－16

C－17

C－22

C－21

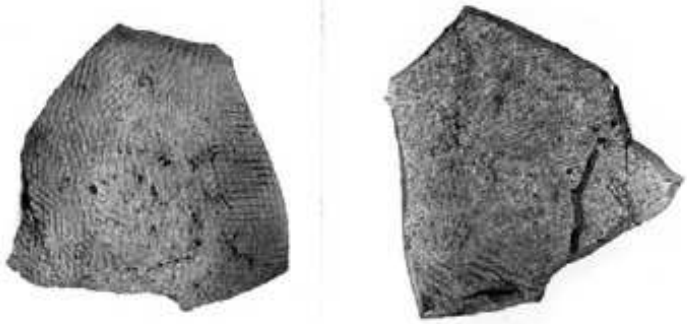
C－18

C－20

C－19

C－23

図版23　D地区出土遺物(1)



D－6

D－7

D－11

D－8

D－14

D－9

D－16

D－15

D－21

D－18

D－22

D－25

D－19

D－28

D－29

図版24　D地区出土遺物(2)

D－30

D－33

D－31

D－32

D－36

D－35

D－37

D－38

D－39

D－40

D－41

D－43

D－44

D－45

D－46

D－47

D－49

D－48

D－50

D－51

D－52

D－53

D－54

D－55

D－57

D－58

D－59

D－60

D－61

D－62

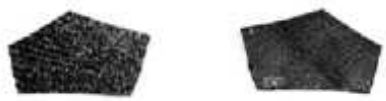
D－64

D－65

D－66

D－67

D－68



D－69

図版26　D地区出土遺物(4)

D－70

D－72

D－73

D－74

D－75

D－77　　D－28

D－79

D－80

D－81

D－82

D－83

D－84

D－85

D－87

D－88

D－86

D－89

D－90

D－91

D－92

D－93

D－95

D－94

D－97

D－98

D－99

D－100

D－101

D－102

D－104

D－107

D－106

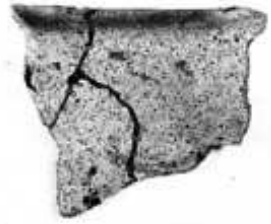
D－107

D－109

D－110

図版28　D地区出土遺物(6)

D－111



D－112

D－113

D－114

D－116

D－115

D－118

D－119

D－120

D－121

D－122

D－124

D－125

D－126

D－127

D－117

D－128

D－129

山形県埋蔵文化財調査報告書第115集

桜林興野遺跡

発掘調査報告書

昭和62年3月20日　印刷
昭和62年3月31日　発行

発行　山形県教育委員会
印刷　藤庄印刷株式会社